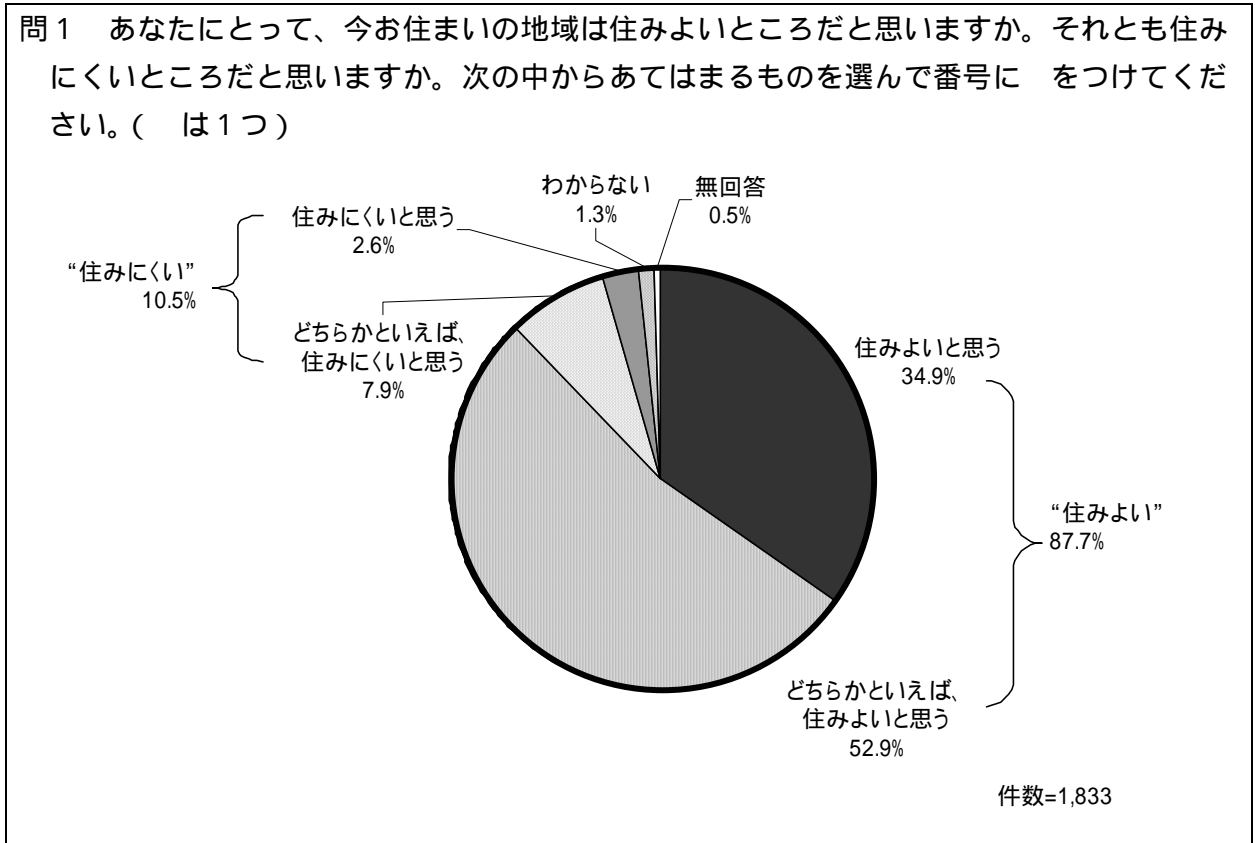


1 地域の住みよさ

(1) 住みよさ

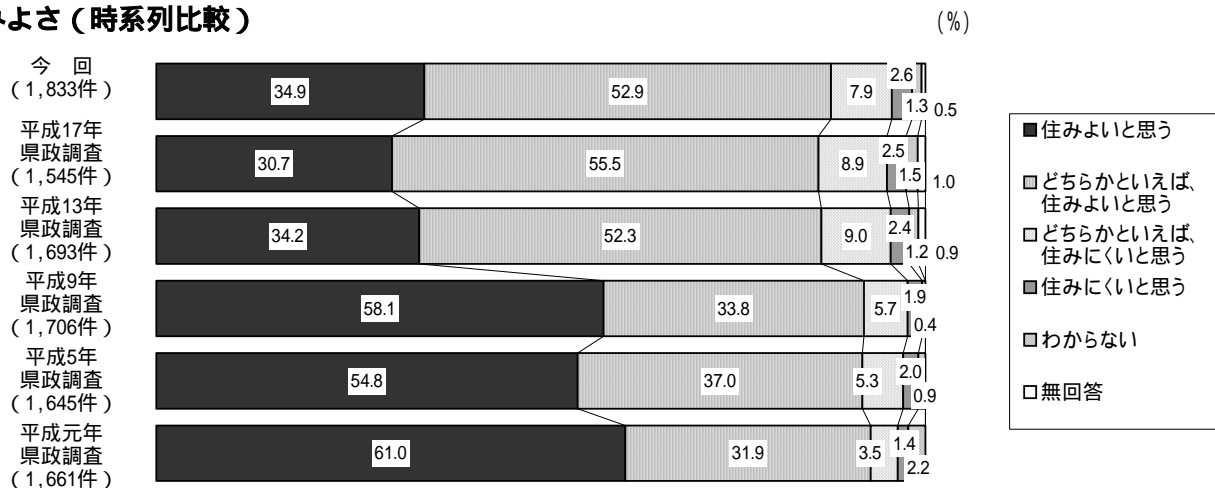
「住みよい」が88%



今住んでいる地域を“住みよい”(「住みよいと思う」34.9% + 「どちらかといえば、住みよいと思う」52.9%)と答えた人の割合は87.7%となっている。

平成17年の県政世論調査と比較すると、“住みよい”と答えた人の割合は86.2%(平成17年調査)から87.7%(今回調査)と1.5ポイント高くなっている。また、「住みよいと思う」と答えた人の割合は30.7%(平成17年調査)から34.9%(今回調査)と4.2ポイント高くなっている。

住みよさ(時系列比較)



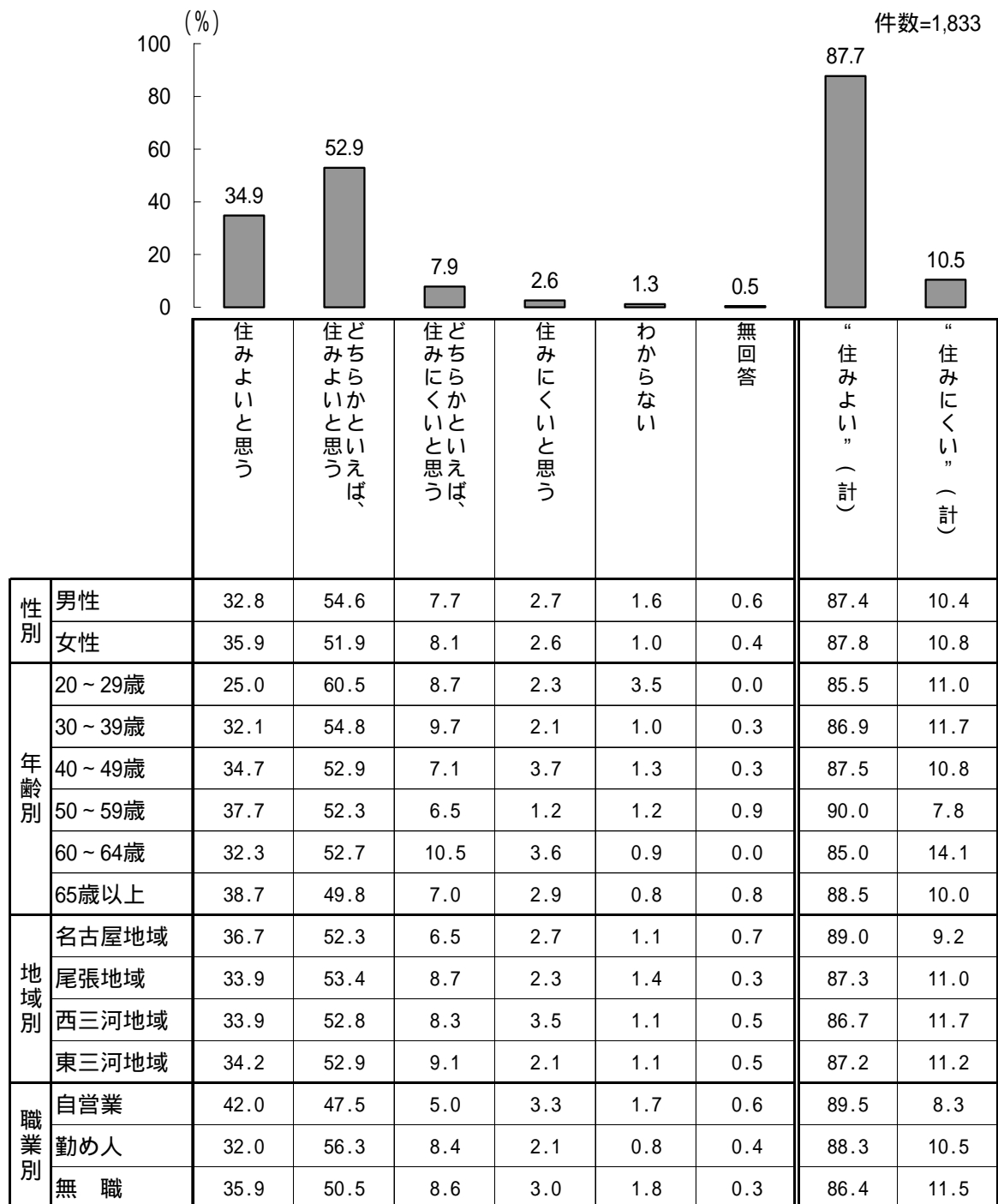
性別でみると、“住みよい”と答えた人の割合は男性（87.4%）と女性（87.8%）で大きな差異は見られない。

年齢別でみると、“住みよい”と答えた人の割合は50代（90.0%）で最も高くなっている。

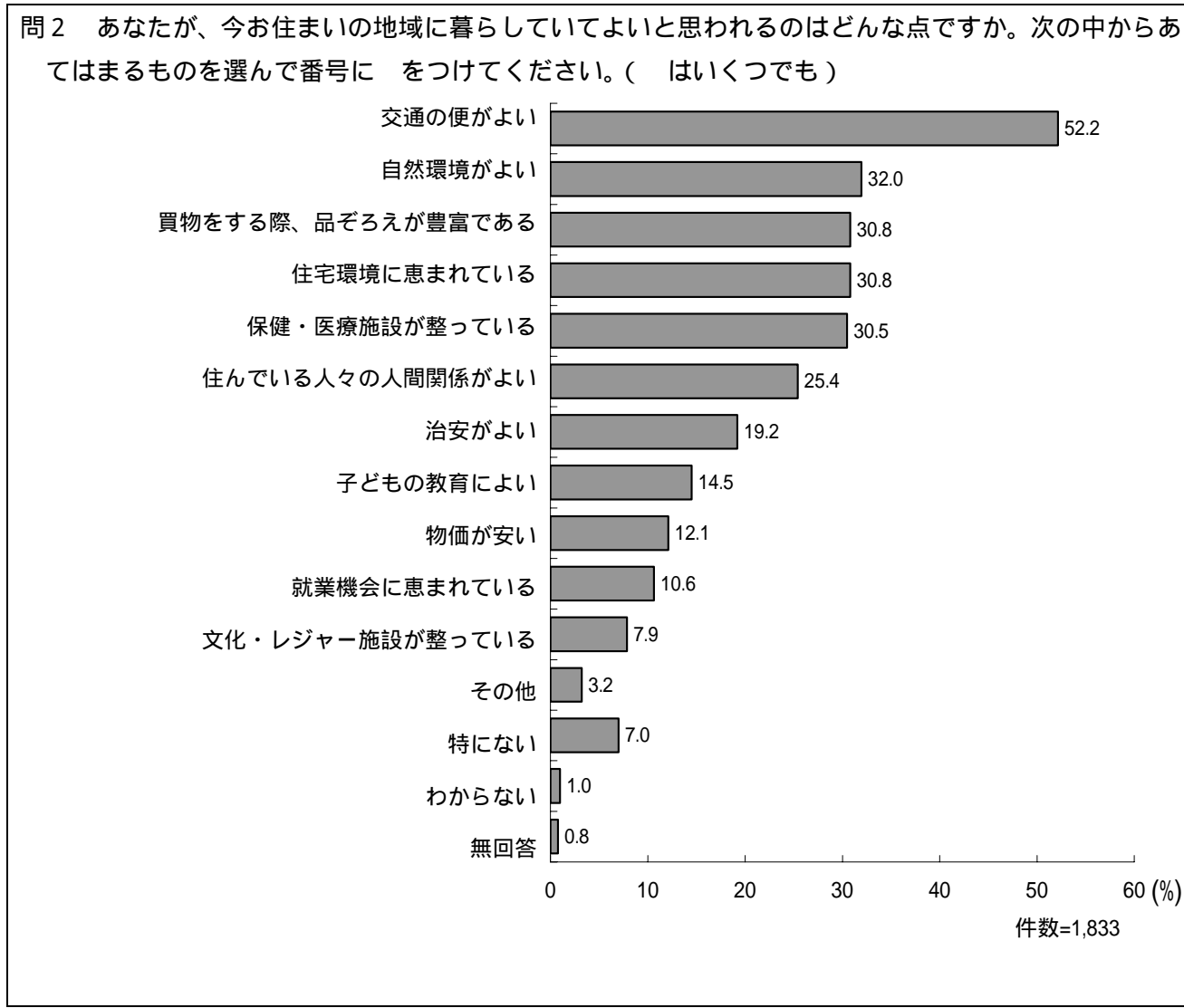
居住地域別でみると、“住みよい”と答えた人の割合は名古屋地域（89.0%）で最も高くなっている。

職業別でみると、“住みよい”と答えた人の割合は自営業（89.5%）で最も高くなっている。

住みよさ（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



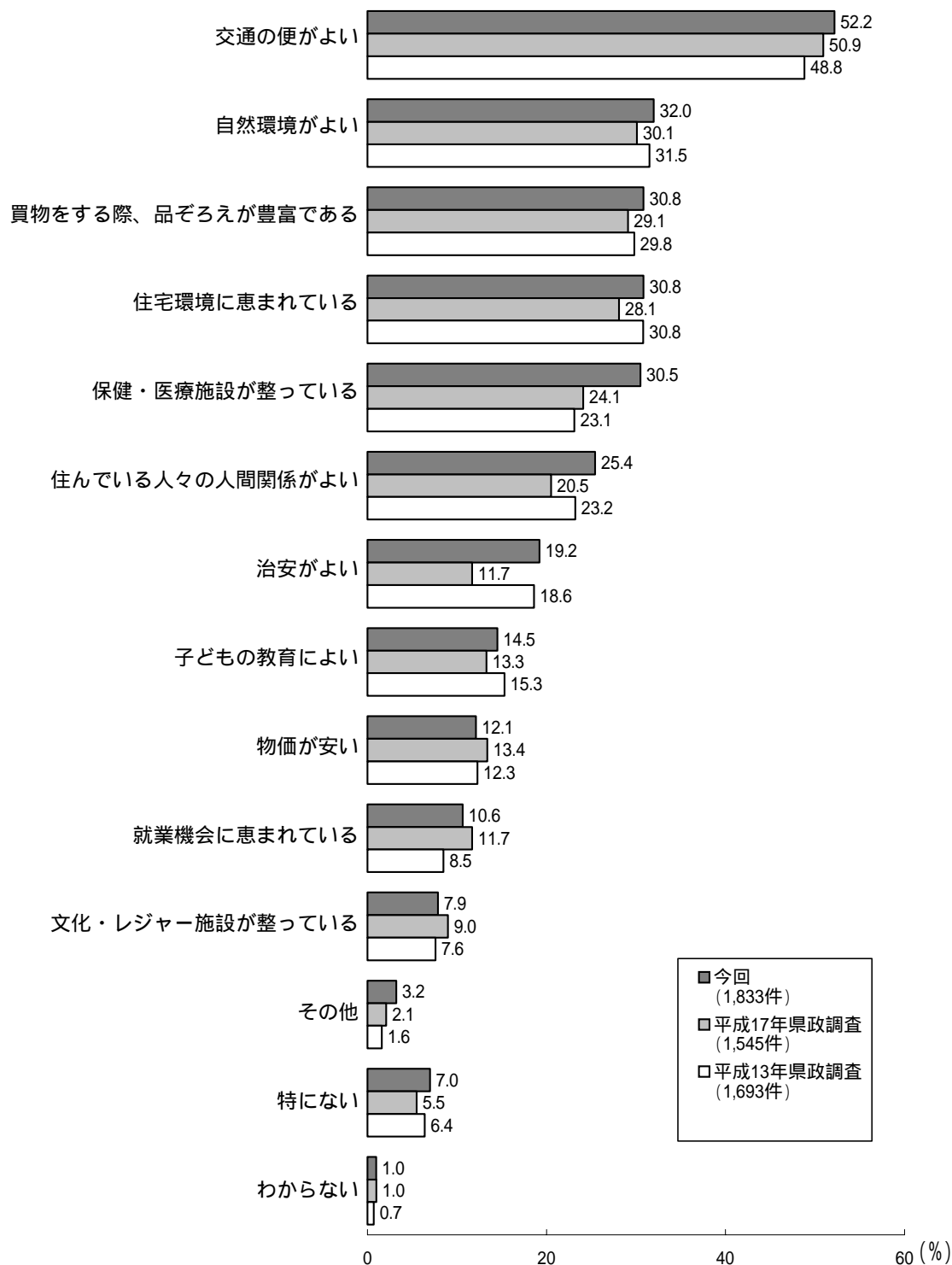
(2) 暮っていてよいと思うこと
「交通の便がよい」が52%



今住んでいる地域に暮らしてよいと思うことについて、「交通の便がよい」と答えた人の割合が52.2%で最も高く、次いで「自然環境がよい」(32.0%)、「買物をする際、品ぞろえが豊富である」(30.8%)、「住宅環境に恵まれている」(30.8%)などとなっている。

平成 17 年の県政世論調査と比較すると、上位項目については大きな差異がみられないが、「治安がよい」と答えた人の割合は 11.7%（平成 17 年調査）から 19.2%（今回調査）と 7.5 ポイント、「保健・医療施設が整っている」は 24.1%（平成 17 年調査）から 30.5%（今回調査）と 6.4 ポイント、「住んでいる人々の人間関係がよい」は 20.5%（平成 17 年調査）から 25.4%（今回調査）と 4.9 ポイント高くなっている。

暮らしてよいと思うこと（時系列比較）



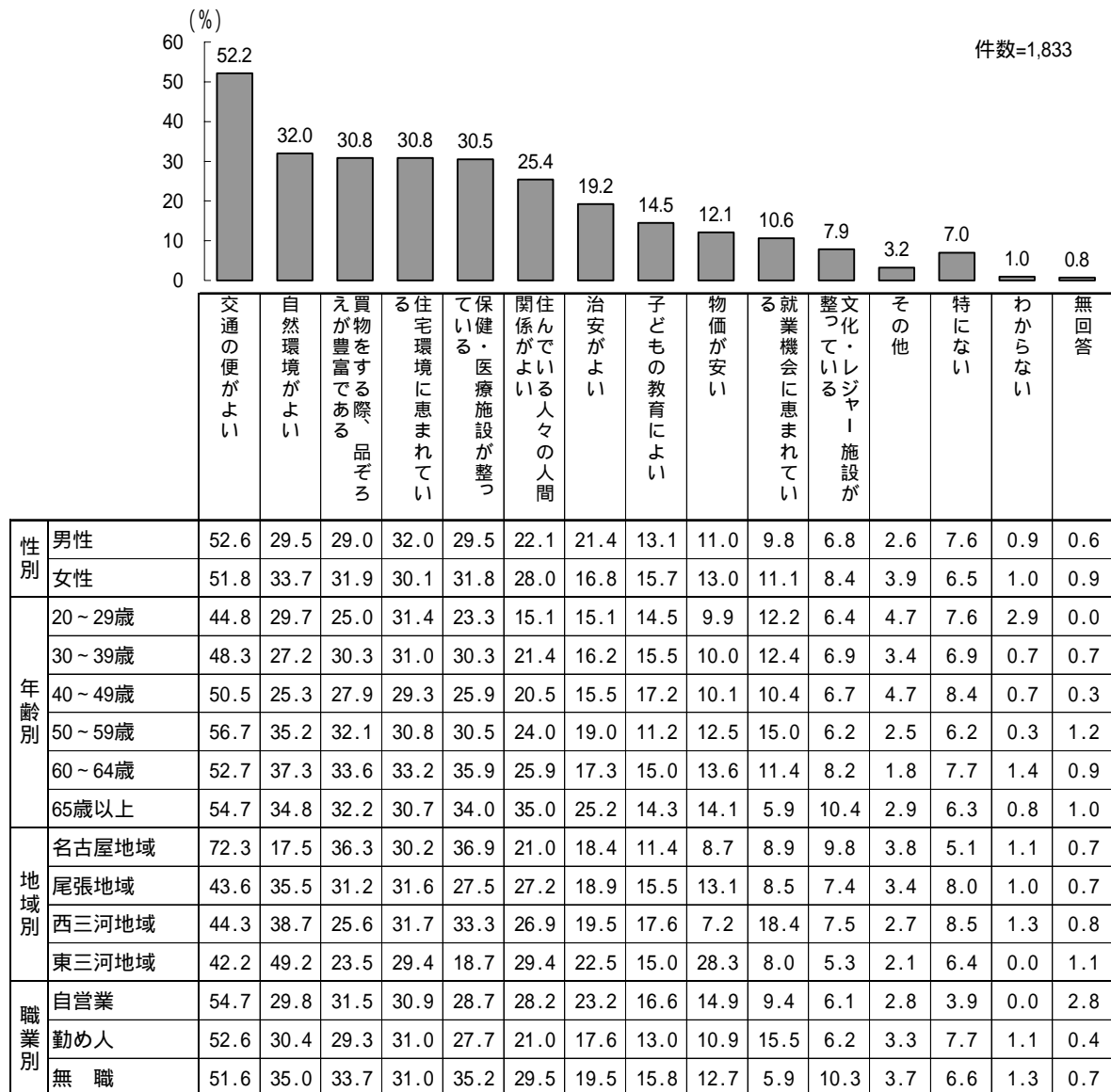
性別でみると、「自然環境がよい」、「買い物をする際、品ぞろえが豊富である」、「住んでいる人々の人間関係がよい」、「子どもの教育によい」などは女性が高い。

年齢別でみると、「交通の便がよい」と答えた人の割合は、各年代とも高くなっているが、50代（56.7%）で高く、20代（44.8%）で低くなっている。「住んでいる人々の人間関係がよい」は65歳以上（35.0%）で高く、20代（15.1%）で低くなっている。「治安がよい」は65歳以上（25.2%）で高く、20代（15.1%）で低くなっている。「自然環境がよい」は60～64歳（37.3%）で高く、40代（25.3%）で低くなっている。

居住地域別でみると、「交通の便がよい」と答えた人の割合は、名古屋地域（72.3%）で高く、東三河地域（42.2%）で低くなっている。一方、「自然環境がよい」と答えた人の割合は、東三河地域（49.2%）で高く、名古屋地域（17.5%）で低くなっている。

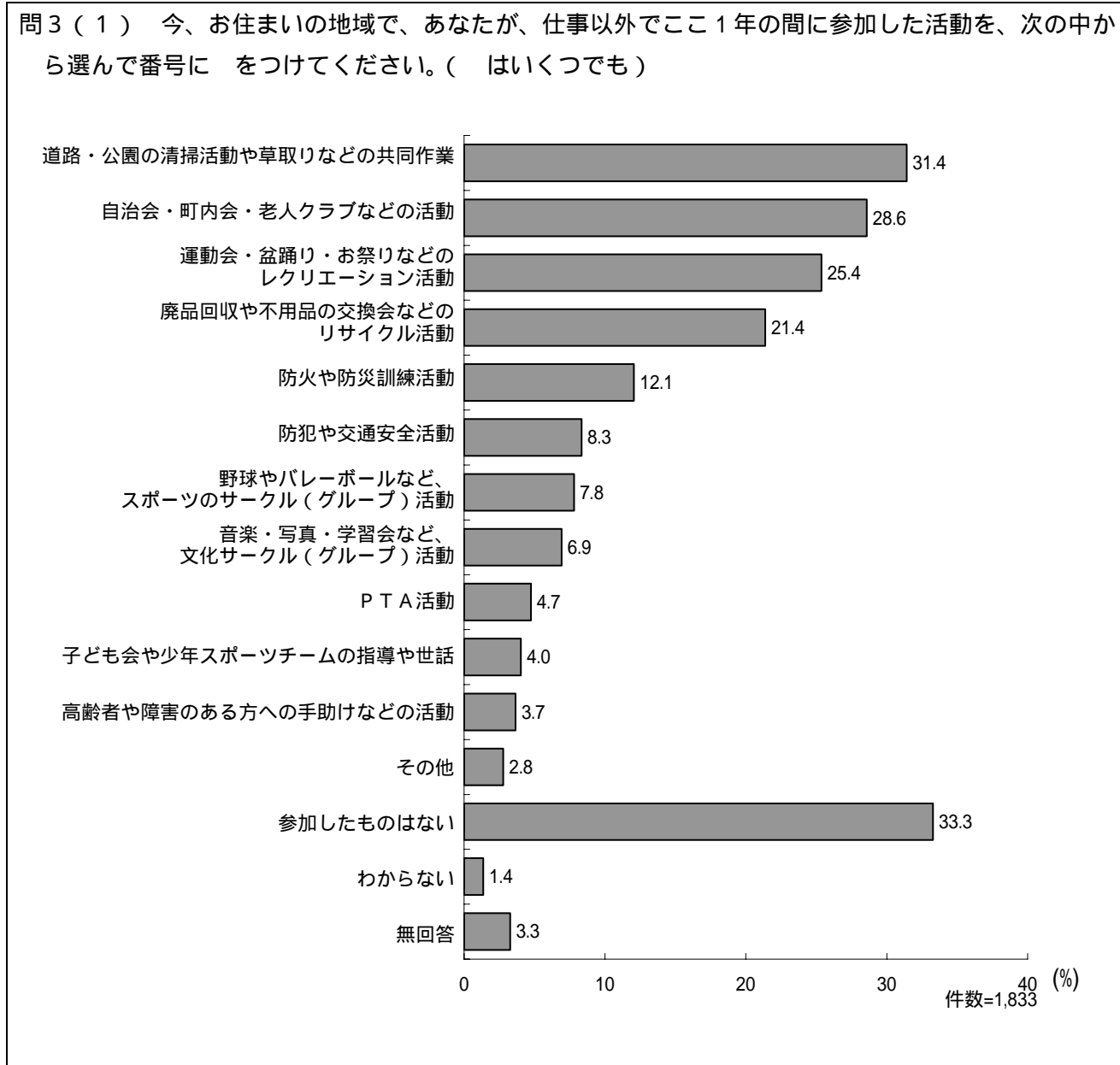
職業別でみると、大きな差異はみられない。

暮していいと思うこと（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(3) 地域活動の参加経験

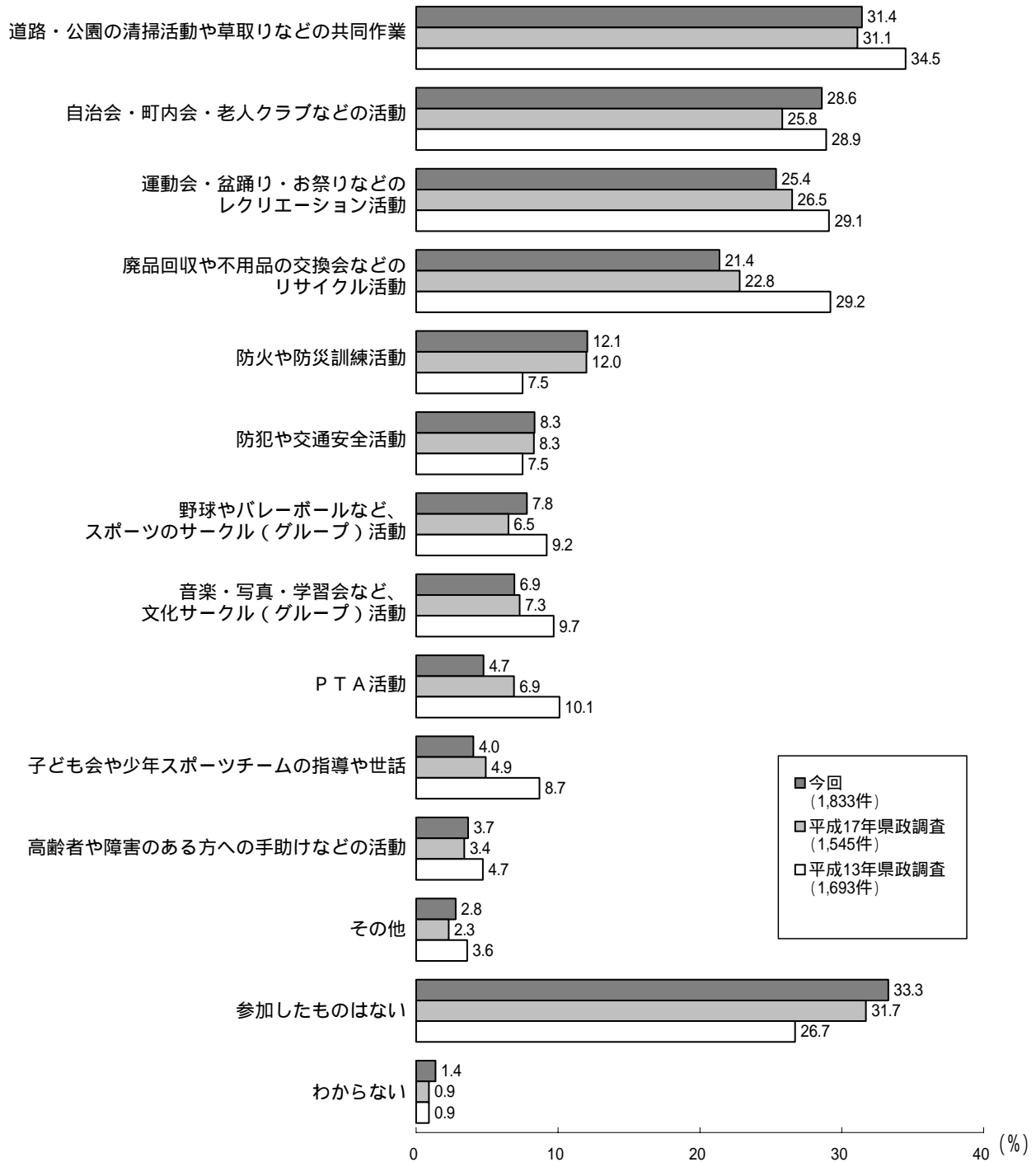
「道路・公園の清掃活動や草取りなどの共同作業」が 31%



仕事以外でここ1年の間に参加した活動をたずねたところ、「道路・公園の清掃活動や草取りなどの共同作業」と答えた人の割合が31.4%で最も高く、次いで「自治会・町内会・老人クラブなどの活動」(28.6%)、「運動会・盆踊り・お祭りなどのレクリエーション活動」(25.4%)の順になっている。一方、「参加したものはなし」と答えた人の割合は33.3%になっている

平成 17 年の県政世論調査と比較すると、「自治会・町内会・老人クラブなどの活動」と答えた人の割合は 25.8%（平成 17 年調査）から 28.6%（今回調査）と 2.8 ポイント高くなっている。一方、「PTA 活動」が 6.9%（平成 17 年調査）から 4.7%（今回調査）と 2.2 ポイント低くなっている。また、「参加したものはなし」が 31.7%（平成 17 年調査）から 33.3%（今回調査）と 1.6 ポイント高くなっている。

地域活動の参加経験（時系列比較）



性別でみると、「廃品回収や不用品の交換会などのリサイクル活動」と答えた人の割合は、男性（18.5%）より女性（24.1%）で5.6ポイント高くなっている。

一方、「参加したものはなし」と答えた人の割合は、女性（31.1%）より男性（35.9%）で4.8ポイント高くなっている。

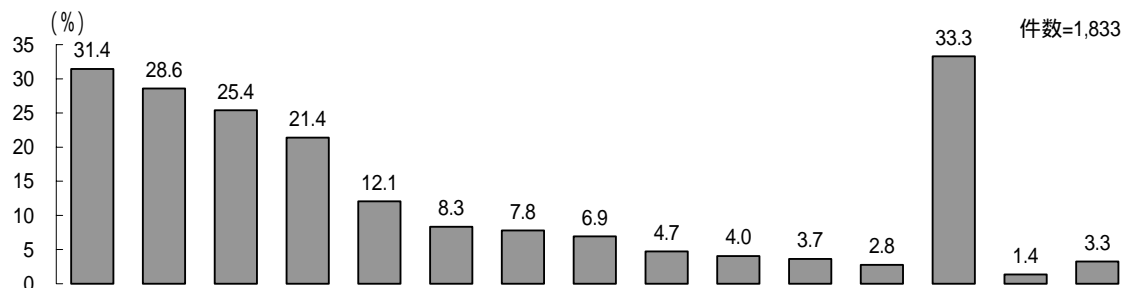
年齢別でみると、「参加したものはなし」と答えた人の割合は20代で6割、30代で4割を超えている。

居住地域別でみると、西三河地域において「道路・公園の清掃活動や草取りなどの共同作業」（39.2%）「自治会・町内会・老人クラブなどの活動」（32.5%）「運動会・盆踊り・お祭りなどのレクリエーション活動」（29.3%）と答えた人の割合が高くなっている。

一方「参加したものはなし」と答えた人の割合は名古屋地域（44.1%）で高くなっている。

職業別でみると、「参加したものはなし」と答えた人の割合は勤め人（38.1%）で高くなっている。

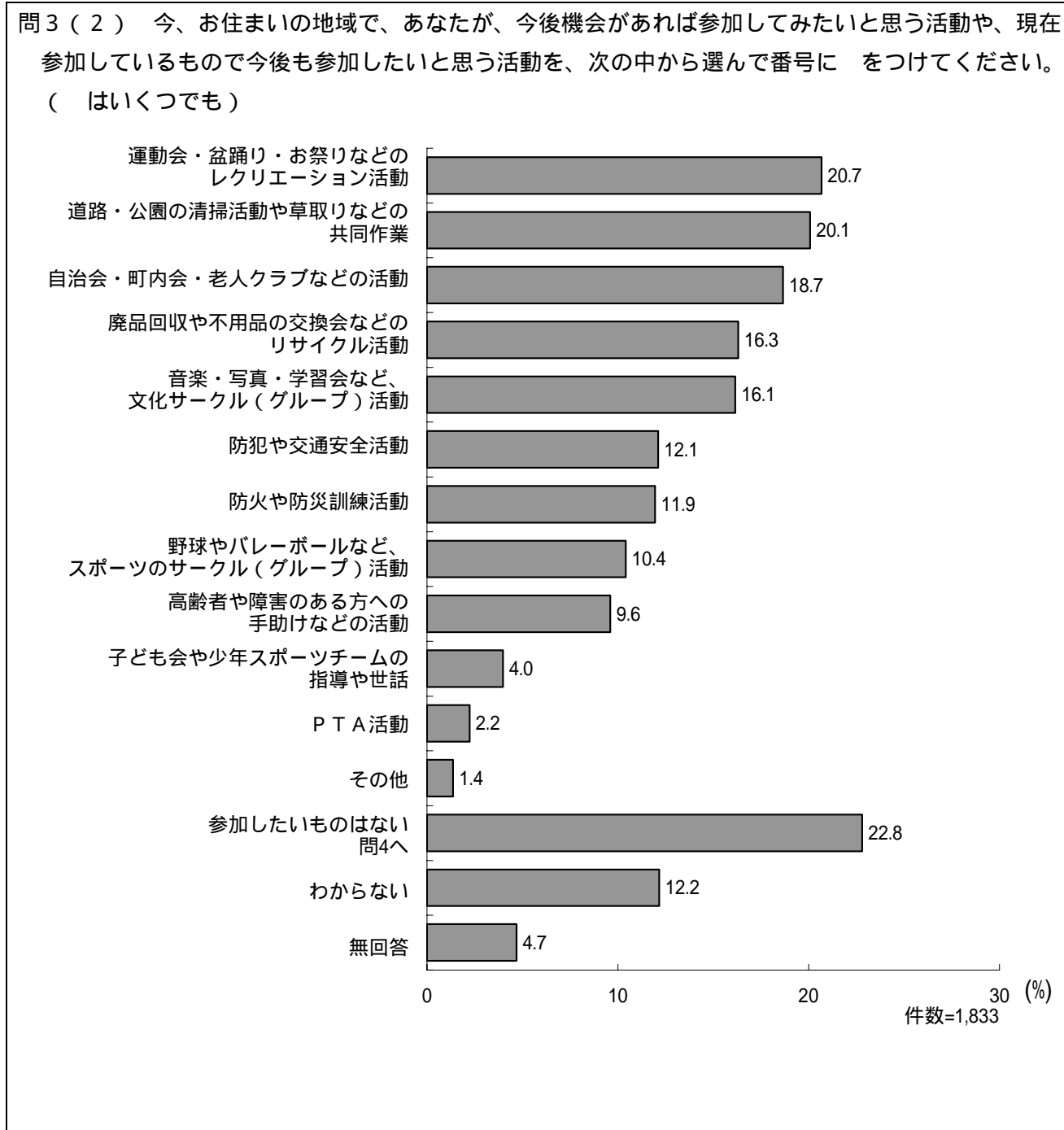
地域活動の参加経験（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



		道路・公園の清掃活動や草取りなどの共同作業	自治会・町内会・老人クラブなどの活動	運動会・盆踊り・お祭りなどのレクリエーション活動	廃品回収や不用品の交換会などのリサイクル活動	防火や防災訓練活動	防犯や交通安全活動	野球やバレーボールなどのスポーツのサークル（グループ）活動	音楽・写真・学習会など、文化サークル（グループ）活動	P T A 活動	子ども会や少年スポーツチームの指導や世話	高齢者や障害のある方への手助けなどの活動	その他	参加したものはなし	わからない	無回答
性別	男性	30.1	29.8	25.1	18.5	13.7	10.8	7.7	3.7	2.8	4.4	3.1	3.2	35.9	1.6	2.9
	女性	32.5	27.6	25.9	24.1	10.9	6.5	8.0	9.6	6.4	3.8	4.3	2.4	31.1	1.1	3.5
年齢別	20～29歳	8.7	5.2	14.5	8.7	1.2	1.7	9.9	2.3	0.6	1.2	1.2	2.3	61.0	1.7	2.3
	30～39歳	22.8	18.3	26.6	18.3	4.5	5.9	11.4	2.8	9.0	5.9	0.7	2.1	46.9	2.1	2.4
	40～49歳	33.0	22.6	35.4	26.3	9.1	10.8	8.4	5.7	17.8	10.4	1.7	0.7	29.0	1.0	2.0
	50～59歳	38.0	32.7	25.9	19.6	16.2	6.5	8.7	8.4	0.6	2.5	3.4	2.8	29.0	0.6	2.5
	60～64歳	37.3	30.0	22.3	26.4	17.3	4.1	5.9	10.0	0.5	0.9	3.6	2.3	25.5	1.8	2.7
	65歳以上	36.9	42.6	24.0	23.8	17.2	13.9	5.1	9.4	0.6	2.5	7.6	4.9	24.4	1.4	5.5
地域別	名古屋地域	20.4	23.7	20.1	15.7	7.2	6.7	6.5	4.0	3.6	3.3	2.7	3.3	44.1	1.8	3.4
	尾張地域	35.9	30.1	27.5	24.8	13.4	8.1	8.3	7.1	4.7	4.7	4.0	3.3	29.1	1.3	2.4
	西三河地域	39.2	32.5	29.3	23.2	15.2	10.4	8.0	9.3	5.9	3.7	3.7	1.9	28.0	0.8	4.3
	東三河地域	33.7	29.9	25.7	22.5	16.0	10.7	9.6	10.7	6.4	4.8	5.3	1.6	28.3	1.6	2.1
職業別	自営業	29.8	35.9	30.4	23.8	17.1	12.2	10.5	8.8	2.8	4.4	3.9	1.1	26.0	1.1	1.7
	勤め人	29.8	22.5	25.9	21.4	11.1	7.4	7.7	4.8	6.0	5.0	2.0	2.2	38.1	1.1	2.7
	無職	33.2	32.1	22.2	20.7	11.8	8.6	7.5	9.2	4.1	3.0	5.2	4.1	30.9	1.6	3.4

(4) 地域活動の参加意向

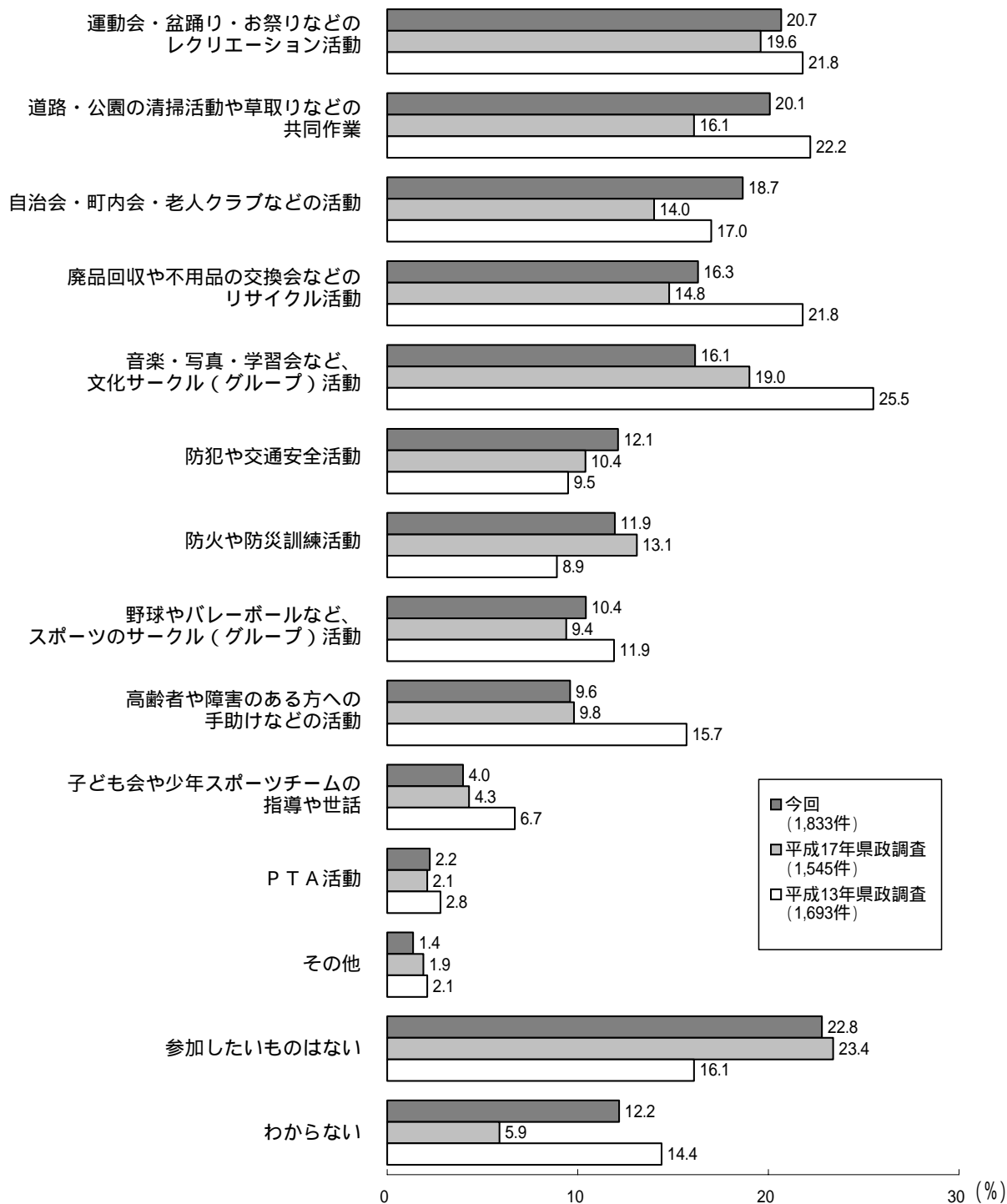
「運動会・盆踊り・お祭りなどのレクリエーション活動」が21%



今後参加してみたい活動をたずねたところ、「運動会・盆踊り・お祭りなどのレクリエーション活動」と答えた人の割合が 20.7%で最も高く、次いで「道路・公園の清掃活動や草取りなどの共同作業」(20.1%)、「自治会・町内会・老人クラブなどの活動」(18.7%)の順になっている。一方、「参加したいものはない」と答えた人の割合は 22.8%になっている

平成 17 年の県政世論調査と比較すると、「道路・公園の清掃活動や草取りなどの共同作業」と答えた人の割合は 16.1%（平成 17 年調査）から 20.1%（今回調査）と 4.0 ポイント、「自治会・町内会・老人クラブなどの活動」が 14.0%（平成 17 年調査）から 18.7%（今回調査）と 4.7 ポイント高くなっている。

地域活動の参加意向（時系列比較）



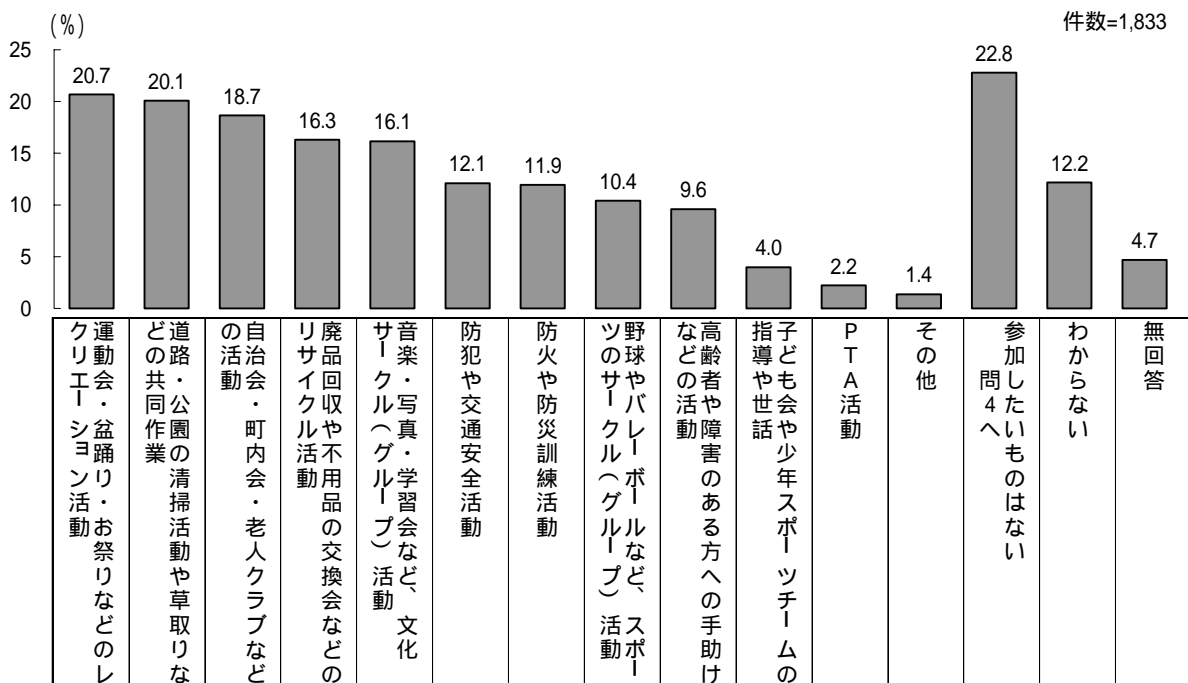
性別でみると、「音楽・写真・学習会など、文化サークル（グループ）活動」と答えた人の割合は、男性（12.5%）より女性（19.4%）で6.9ポイント高くなっている。一方、「防犯や交通安全活動」と答えた人の割合は、女性（9.6%）より男性（15.3%）で5.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「参加したいものはない」と答えた人の割合は20代で3割を超えている。「自治会・町内会・老人クラブなどの活動」と答えた人の割合は65歳以上で3割を超えている。

居住地域別でみると、「参加したいものはない」と答えた人の割合は名古屋地域（28.6%）で高くなっている。

職業別でみると、「運動会・盆踊り・お祭りなどのレクリエーション活動」と答えた人の割合は勤め人（22.7%）、「自治会・町内会・老人クラブなどの活動」と答えた人の割合は無職（24.1%）で高くなっている。

地域活動の参加意向（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

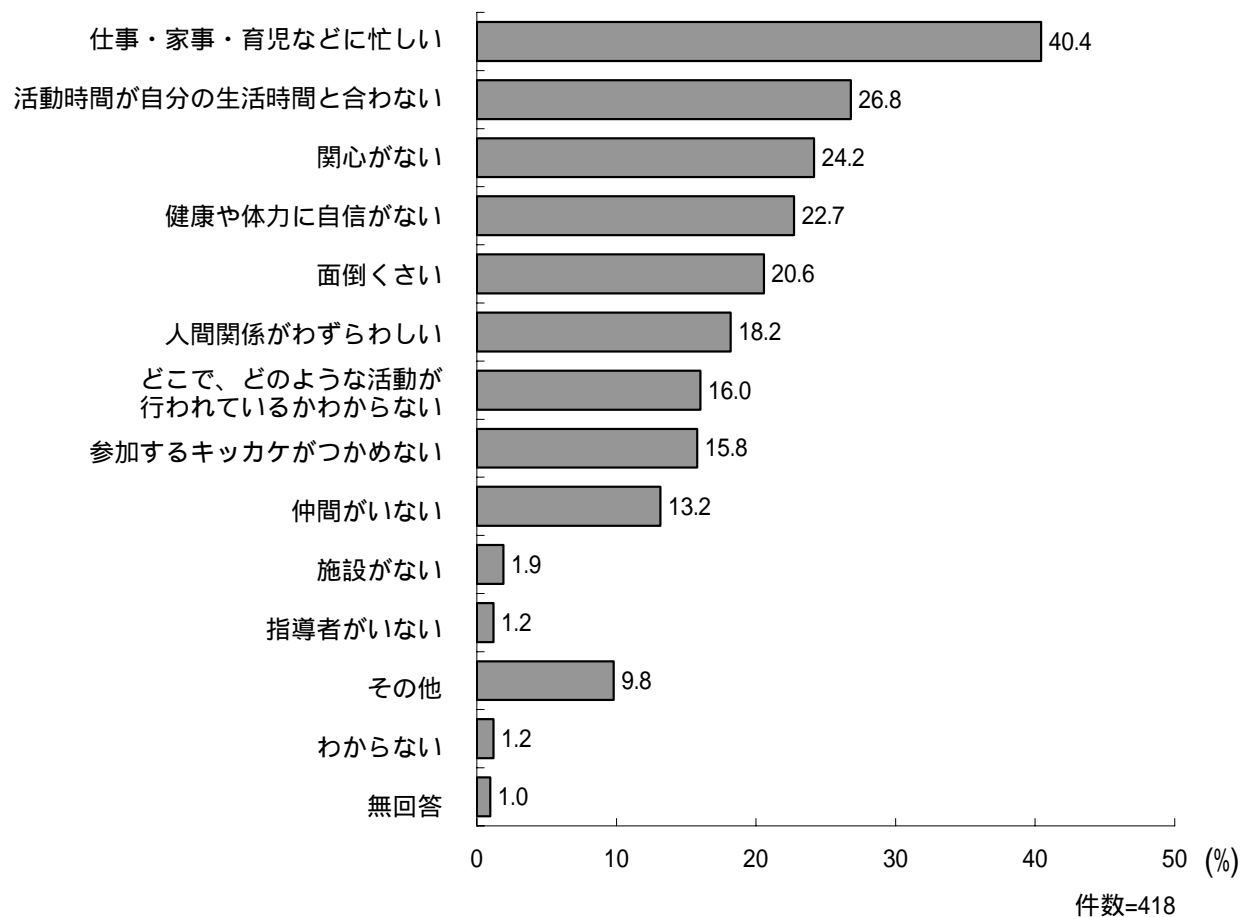


性別	参加意向 (%)															
	運動会・盆踊り・お祭りなどのレクリエーション活動	道路・公園の清掃活動や草取りなどの共同作業	自治会・町内会・老人クラブなどの活動	廃品回収や不用品の交換会などのリサイクル活動	音楽・写真・学習会など、文化サークル（グループ）活動	防犯や交通安全活動	防火や防災訓練活動	野球やバレーボールなど、スポーツのサークル（グループ）活動	高齢者や障害のある方への手助けなどの活動	子ども会や少年スポーツチームの指導や世話	P T A 活動	その他	参加したいものはない	わからない	無回答	
男性	21.3	20.5	19.9	14.9	12.5	15.3	14.3	12.5	6.7	6.0	1.7	1.5	24.1	11.5	3.7	
女性	20.0	19.9	17.2	17.6	19.4	9.6	10.1	8.9	11.9	2.4	2.7	1.3	21.9	12.9	5.2	
年齢別	20～29歳	23.8	7.6	4.1	7.0	9.9	5.2	3.5	18.6	3.5	4.1	0.6	1.7	32.0	13.4	1.2
	30～39歳	25.9	13.1	8.6	14.1	13.8	8.6	9.0	13.4	4.5	9.3	7.2	1.4	28.3	15.2	0.7
	40～49歳	19.5	14.5	8.4	18.9	14.1	10.8	9.1	9.1	10.1	6.1	4.7	0.3	25.3	15.5	1.0
	50～59歳	17.8	22.4	15.9	15.9	21.8	10.3	13.7	14.3	11.8	1.2	0.3	1.6	20.6	13.1	3.4
	60～64歳	21.4	26.4	23.6	20.0	19.1	16.8	16.8	6.4	10.5	0.5	0.5	0.5	17.3	11.4	6.4
	65歳以上	18.8	27.5	34.4	18.0	16.2	16.6	15.2	6.3	12.5	3.1	0.6	2.1	18.9	8.2	10.0
地域別	名古屋地域	17.7	15.0	14.8	13.0	14.3	9.0	8.5	8.7	7.2	3.8	0.9	2.0	28.6	15.0	4.3
	尾張地域	22.1	21.7	20.1	17.4	15.5	13.0	12.1	10.1	11.1	3.7	2.0	1.0	20.8	12.0	4.6
	西三河地域	22.9	24.8	23.2	20.0	19.5	15.5	15.2	11.7	10.1	4.5	3.7	1.1	20.5	8.5	4.5
	東三河地域	20.9	20.9	15.5	14.4	18.2	11.8	15.5	14.4	10.7	4.8	3.7	1.6	18.2	11.8	4.8
職業別	自営業	19.9	14.9	21.5	14.9	13.8	15.5	12.7	11.0	9.4	4.4	2.2	0.6	24.3	11.0	8.3
	勤め人	22.7	18.5	12.9	16.4	16.2	10.3	11.2	12.9	7.6	4.8	2.3	1.4	24.3	11.7	1.8
	無職	18.0	22.9	24.1	17.1	16.7	13.4	11.7	8.0	12.1	2.7	1.9	1.6	21.1	13.3	5.6

(5) 参加したくない理由

「仕事・家事・育児などに忙しい」が40%

問4 あなたが、地域での活動に参加したくないと思う主な理由はなんですか。次の中から選んで番号をつけてください。(はいくつでも)

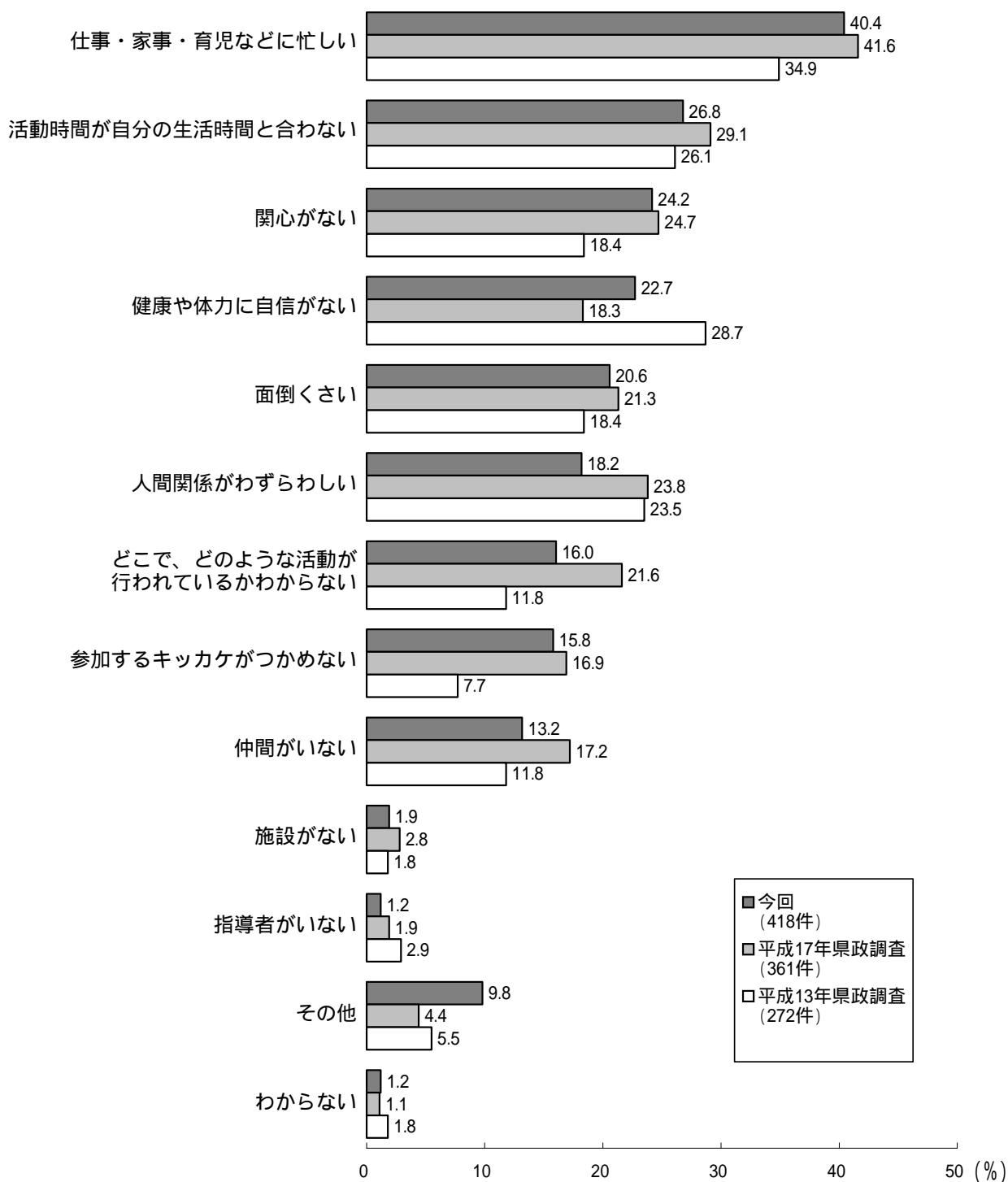


地域での活動に参加したくない理由をたずねたところ、「仕事・家事・育児などに忙しい」と答えた人の割合が40.4%で最も高く、次いで「活動時間が自分の生活時間と合わない」(26.8%)、「関心がない」(24.2%)の順になっている。

平成 17 年の県政世論調査と比較すると、「健康や体力に自信がない」と答えた人の割合は 18.3%（平成 17 年調査）から 22.7%（今回調査）と 4.4 ポイント高くなっている。

一方、「人間関係がわずらわしい」が 23.8%（平成 17 年調査）から 18.2%（今回調査）と 5.6 ポイント、「どこで、どのような活動が行われているかわからない」が 21.6%（平成 17 年調査）から 16.0%（今回調査）と 5.6 ポイント低くなっている。

参加したくない理由（時系列比較）



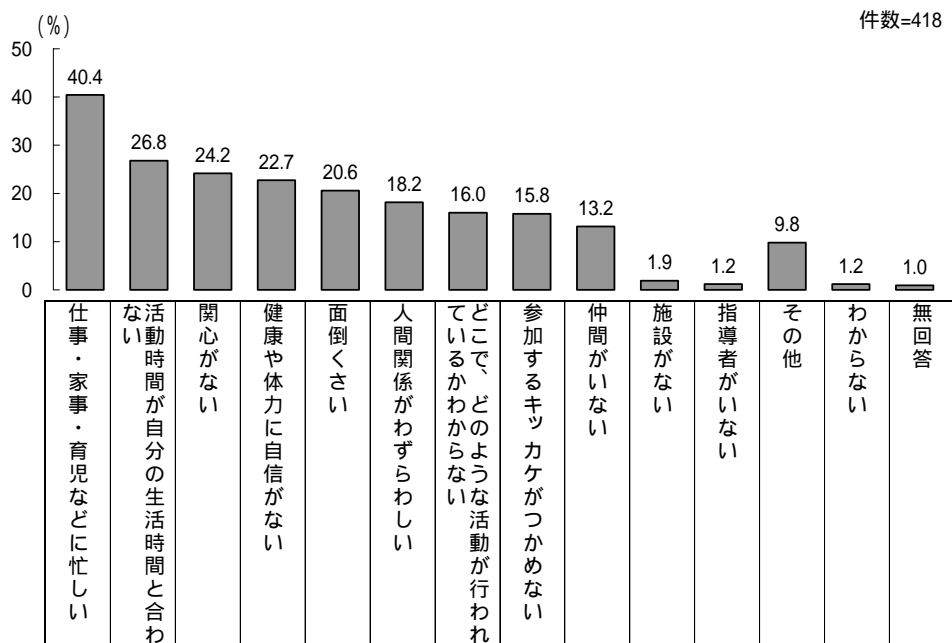
性別でみると、「仕事・家事・育児などに忙しい」と答えた人の割合は、男女とも高くなっているが、男性（35.0%）より女性（46.5%）で11.5ポイント高くなっている。「どこで、どのような活動が行われているかわからない」と答えた人の割合は、女性（12.6%）より男性（19.8%）で7.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「関心がない」「面倒くさい」「どこで、どのような活動が行われているかわからない」などと答えた人の割合は20代で高い傾向がみられる。「活動時間が自分の生活時間と合わない」「人間関係がわずらわしい」と答えた人の割合は60～64歳で高い傾向がみられる。

居住地域別でみると、「仕事・家事・育児などに忙しい」と答えた人の割合は、全ての地域で高くなっている。「健康や体力に自信がない」と答えた人の割合は、東三河地域（35.3%）「面倒くさい」と答えた人の割合は、西三河地域（27.3%）で高くなっている。

職業別でみると、「仕事・家事・育児などに忙しい」「関心がない」と答えた人の割合は、勤め人で高くなっている。

参加したくない理由（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



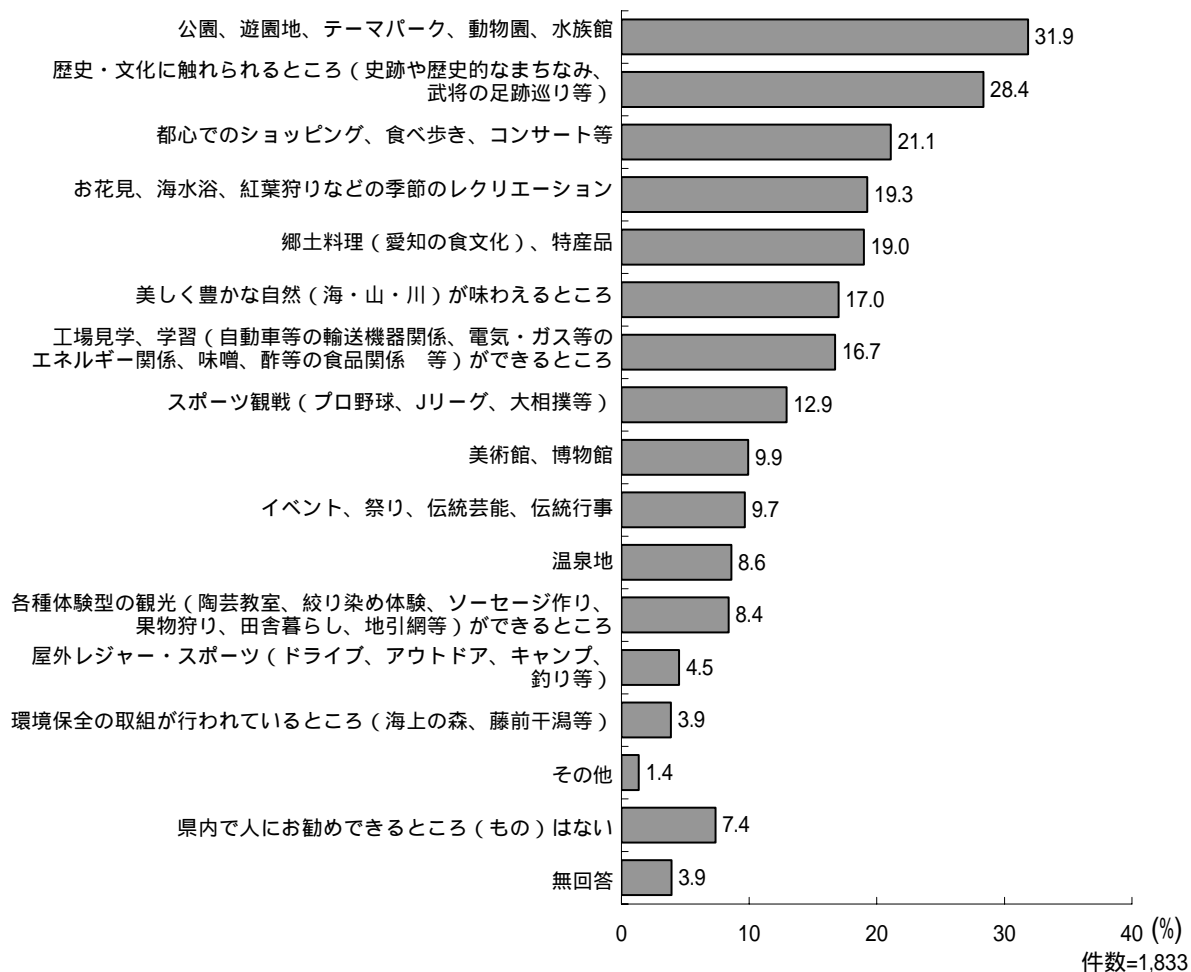
	性別	理由 (%)													
		仕事・家事・育児などに忙しい	活動時間が自分の生活時間と合わない	関心がない	健康や体力に自信がない	面倒くさい	人間関係がわずらわしい	どこで、どのような活動が行われているかわからない	参加するきっかけがつかめない	仲間がいない	施設がない	指導者がいない	その他	わからない	無回答
性別	男性	35.0	24.9	26.9	20.3	23.9	19.3	19.8	18.3	15.2	2.0	1.5	9.6	1.5	1.0
	女性	46.5	29.3	21.4	24.7	17.2	16.7	12.6	13.0	11.2	1.9	0.9	9.8	0.9	0.9
年齢別	20～29歳	52.7	32.7	40.0	5.5	36.4	16.4	29.1	29.1	14.5	1.8	0.0	9.1	0.0	0.0
	30～39歳	68.3	30.5	20.7	8.5	23.2	17.1	15.9	12.2	14.6	1.2	0.0	8.5	2.4	1.2
	40～49歳	58.7	29.3	26.7	12.0	26.7	20.0	14.7	13.3	8.0	1.3	1.3	5.3	0.0	0.0
	50～59歳	31.8	31.8	30.3	16.7	16.7	16.7	18.2	16.7	13.6	1.5	3.0	9.1	1.5	0.0
	60～64歳	23.7	44.7	28.9	18.4	26.3	34.2	18.4	21.1	13.2	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0
	65歳以上	9.3	8.2	9.3	59.8	4.1	12.4	7.2	10.3	14.4	2.1	2.1	16.5	2.1	3.1
地域別	名古屋地域	39.9	25.9	23.4	26.6	19.0	19.0	18.4	14.6	15.8	1.3	0.6	8.9	1.3	0.6
	尾張地域	46.6	27.4	25.3	15.8	19.9	14.4	14.4	16.4	9.6	2.1	0.7	11.0	0.7	1.4
	西三河地域	31.2	28.6	28.6	23.4	27.3	23.4	13.0	15.6	14.3	2.6	3.9	9.1	2.6	1.3
	東三河地域	38.2	26.5	11.8	35.3	11.8	14.7	20.6	20.6	11.8	2.9	0.0	8.8	0.0	0.0
職業別	自営業	45.5	34.1	9.1	18.2	9.1	9.1	13.6	15.9	6.8	2.3	4.5	11.4	0.0	2.3
	勤め人	57.2	36.1	30.8	6.3	27.4	17.3	19.2	16.3	12.5	1.9	0.5	6.3	0.0	0.0
	無職	16.1	14.0	19.6	47.6	16.1	22.4	12.6	14.7	16.1	2.1	1.4	16.1	2.8	2.1

2 観光振興

(1) 県外の人に対して愛知県でお勧めできるところ(もの)

「公園、遊園地、テーマパーク、動物園、水族館」が32%

問5 もし、あなたが県外の友人等に愛知県に来てもらうとした場合に、お勧めできるところはどこ(もの)がありますか。次の中からあてはまるものを選んで番号にをつけてください。
(は3つまで)



県外の友人等に愛知県に来てもらうとした場合に、勧めるところはどういったところ(もの)があるかたずねたところ、「公園、遊園地、テーマパーク、動物園、水族館」と答えた人の割合が31.9%で最も高く、次いで「歴史・文化に触れられるところ(史跡や歴史的なまちなみ、武将の足跡巡り等)」(28.4%)、「都心でのショッピング、食べ歩き、コンサート等」(21.1%)の順になっている。

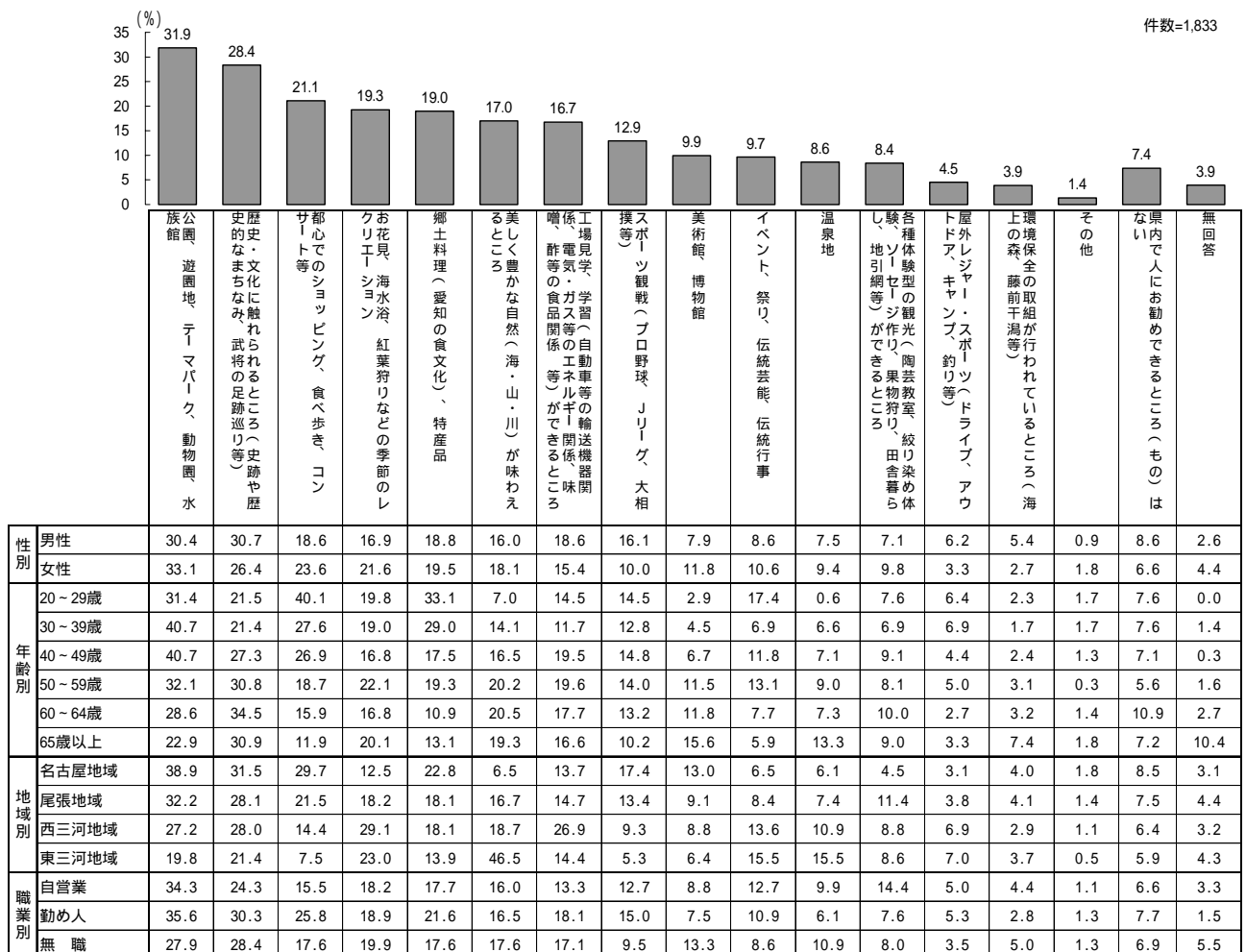
性別でみると、「都心でのショッピング、食べ歩き、コンサート等」と答えた人の割合は、男性(18.6%)より女性(23.6%)で5.0ポイント高くなっている。一方、「スポーツ観戦(プロ野球、Jリーグ、大相撲等)」と答えた人の割合は、女性(10.0%)より男性(16.1%)で6.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「公園、遊園地、テーマパーク、動物園、水族館」と答えた人の割合は、30代と40代で4割を超え、「都心でのショッピング、食べ歩き、コンサート等」と答えた人の割合は、20代で4割を超えている。

居住地域別でみると、「公園、遊園地、テーマパーク、動物園、水族館」と答えた人の割合は、名古屋地域と尾張地域で3割を超え、「歴史・文化に触れられるところ(史跡や歴史的なまちなみ、武将の足跡巡り等)」と答えた人の割合は、名古屋地域で3割を超え、「美しく豊かな自然(海・山・川)が味わえるところ」と答えた人の割合は、東三河地域で4割を超えている。

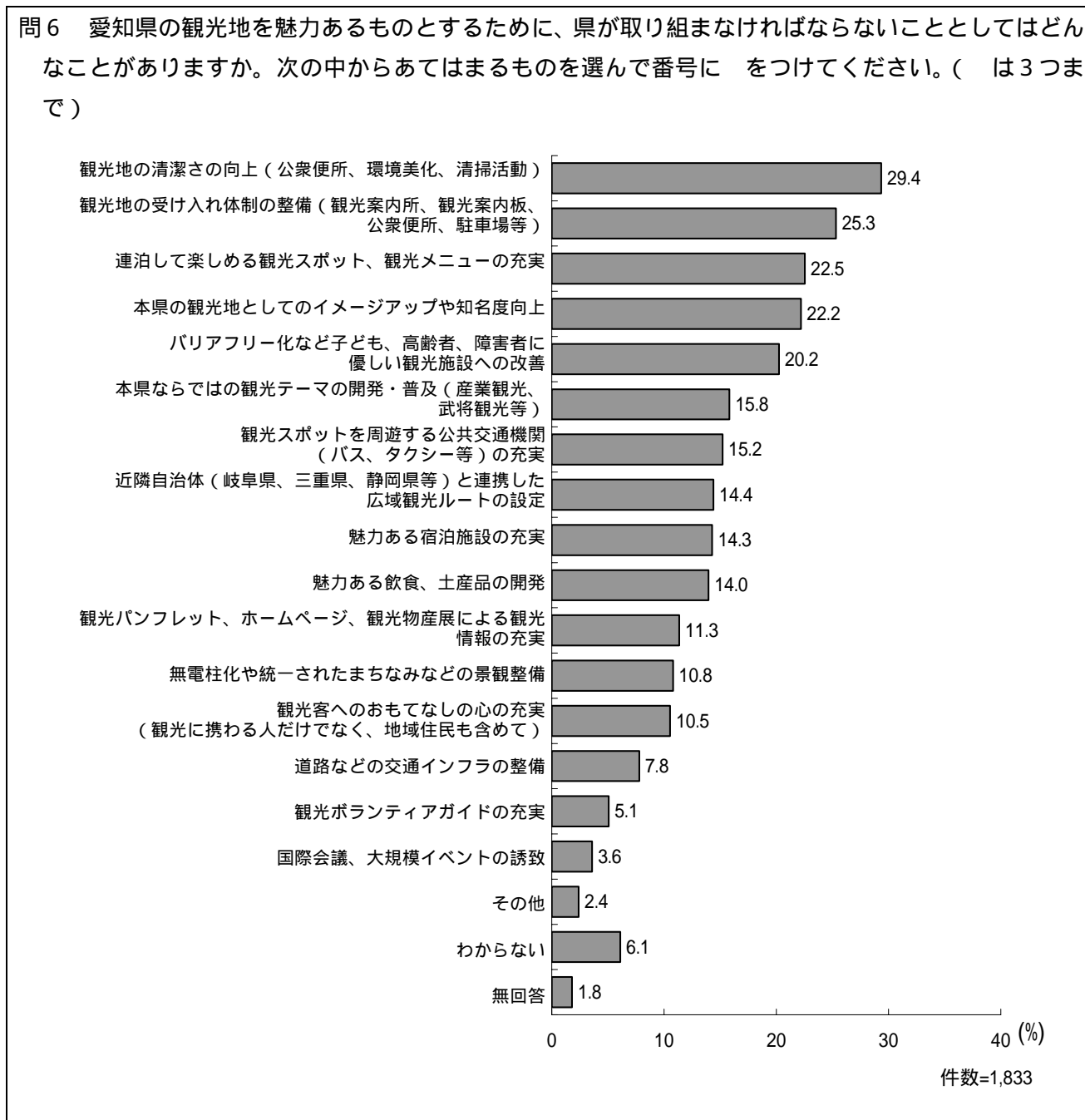
職業別でみると、「公園、遊園地、テーマパーク、動物園、水族館」と答えた人の割合は、自営業と勤め人で3割を超え、「歴史・文化に触れられるところ(史跡や歴史的なまちなみ、武将の足跡巡り等)」と答えた人の割合は、勤め人で3割を超えている。

県外の人に対して愛知県でお勧めできるところ(もの)(性別、年齢別、居住地域別、職業別)



(2) 観光地を魅力あるものとするための取組

「観光地の清潔さの向上（公衆便所、環境美化、清掃活動）」が29%



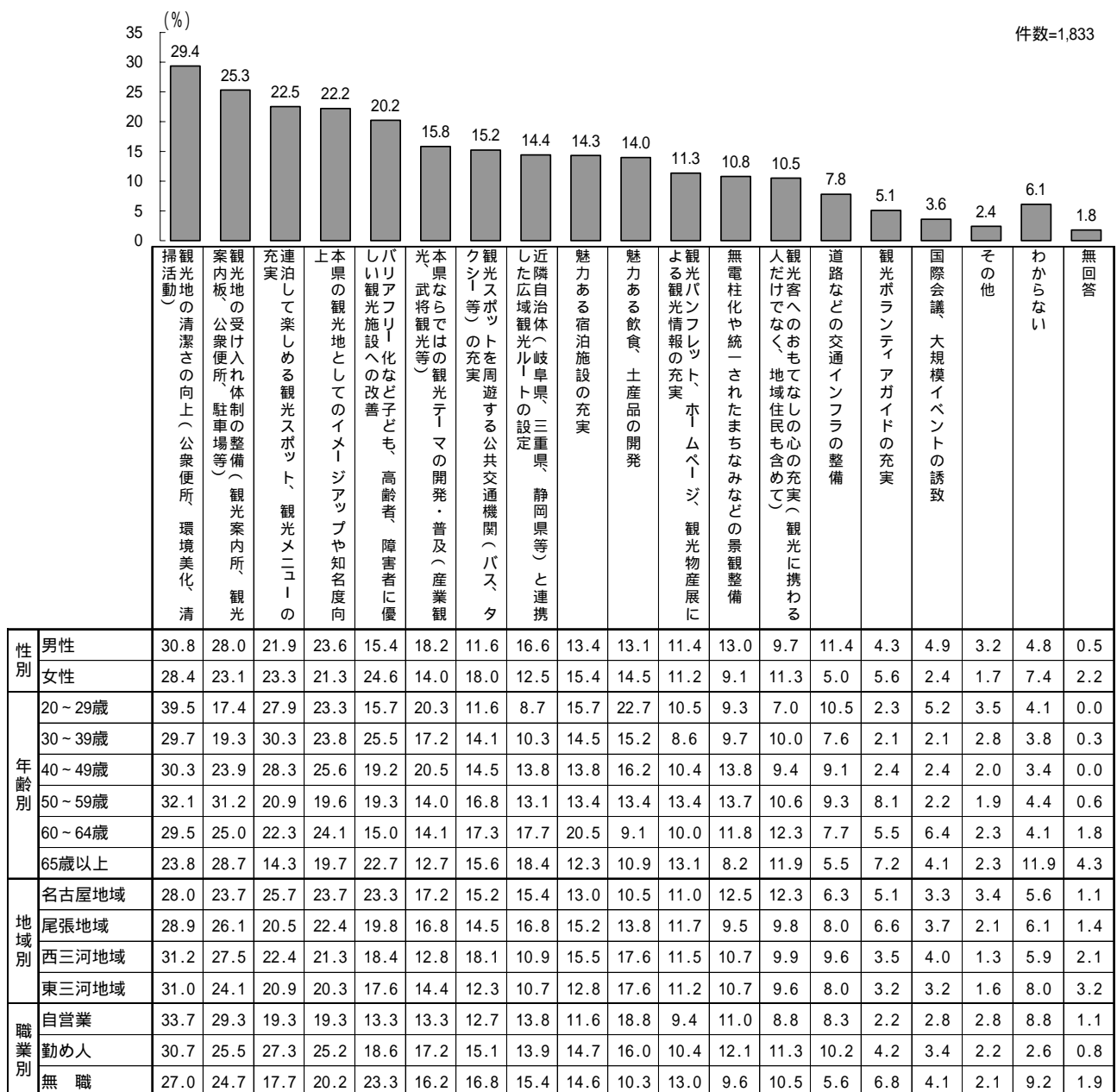
愛知県の観光地を魅力あるものとするために、県が取り組まなければならないことをたずねたところ、「観光地の清潔さの向上（公衆便所、環境美化、清掃活動）」と答えた人の割合が 29.4%で最も高く、次いで「観光地の受け入れ体制の整備（観光案内所、観光案内板、公衆便所、駐車場等）」（25.3%）、「連泊して楽しめる観光スポット、観光メニューの充実」（22.5%）の順になっている。

年齢別でみると、「観光地の清潔さの向上（公衆便所、環境美化、清掃活動）」と答えた人の割合は、20代と40代と50代で3割を超え、「観光地の受け入れ体制の整備（観光案内所、観光案内板、公衆便所、駐車場等）」と答えた人の割合は、50代で3割を超え、「連泊して楽しめる観光スポット、観光メニューの充実」と答えた人の割合は、30代で3割を超えている。

居住地域別でみると、「観光地の清潔さの向上（公衆便所、環境美化、清掃活動）」と答えた人の割合は、西三河地域と東三河地域で3割を超えている。

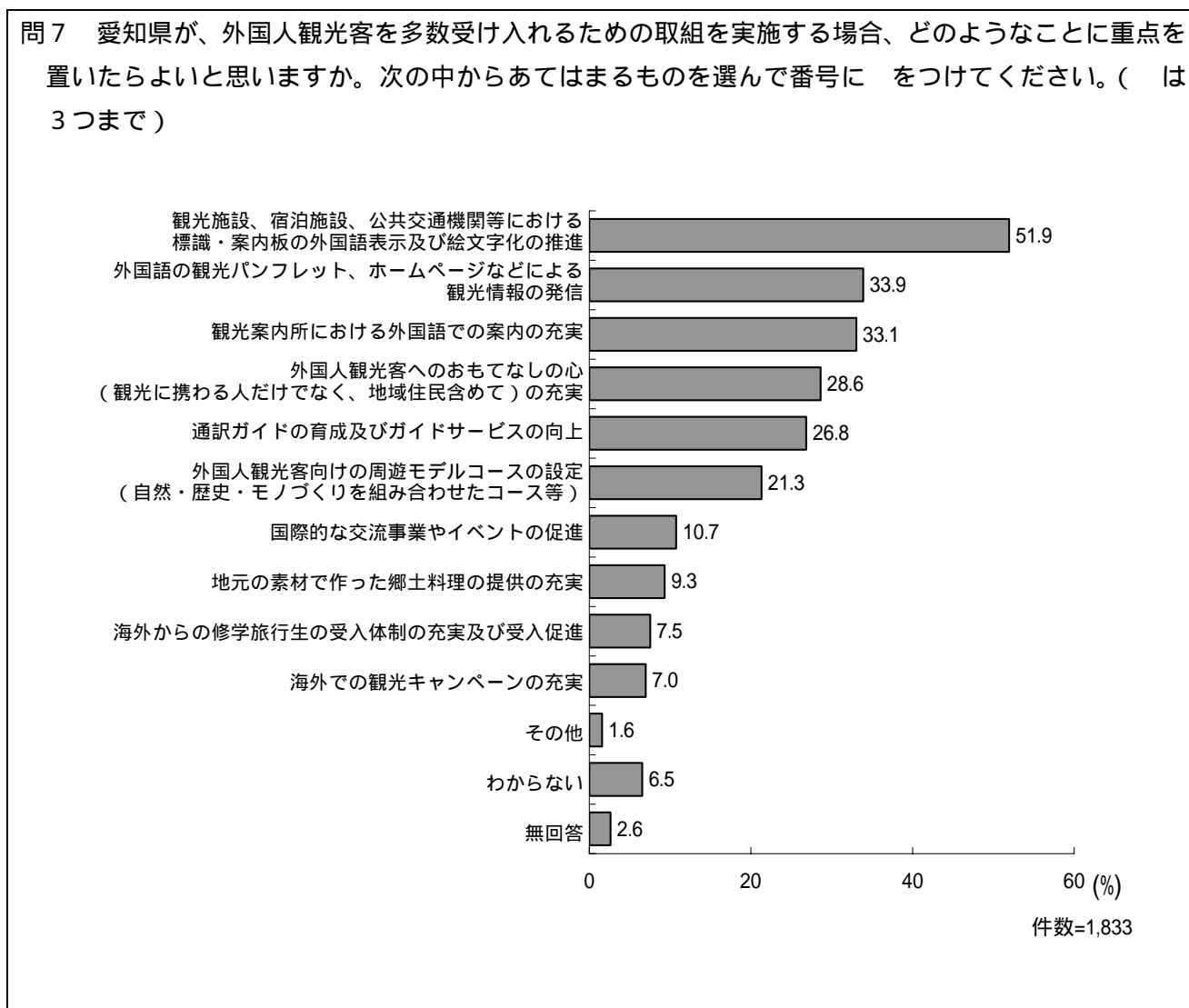
職業別でみると、「観光地の清潔さの向上（公衆便所、環境美化、清掃活動）」と答えた人の割合は、自営業と勤め人で3割を超えている。

観光地を魅力あるものとするための取組（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(3) 外国人観光客を受け入れるための取組

「観光施設、宿泊施設、公共交通機関等における標識・案内板の外国語表示及び絵文字化の推進」
が52%



外国人観光客を多数受け入れるための取組をたずねたところ、「観光施設、宿泊施設、公共交通機関等における標識・案内板の外国語表示及び絵文字化の推進」と答えた人の割合が51.9%で最も高く、次いで「外国語の観光パンフレット、ホームページなどによる観光情報の発信」(33.9%)、「観光案内所における外国語での案内の充実」(33.1%)の順になっている。

性別でみると、大きな差異は見られない。

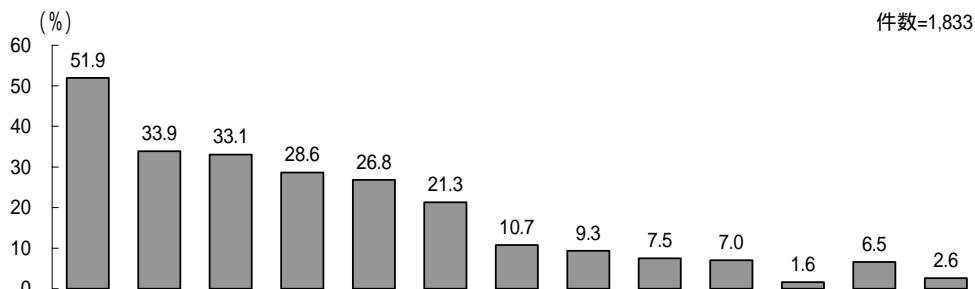
年齢別でみると、「外国語の観光パンフレット、ホームページなどによる観光情報の発信」と答えた人の割合は、20代と30代で4割を超えている。「観光案内所における外国語での案内の充実」と答えた人の割合は、20代で4割を超えている。

また、「通訳ガイドの育成及びガイドサービスの向上」において50代で34.9%と高くなっているが、30代では19.7%と低くなっている。

居住地域別でみると、大きな差異はみられない。

職業別でみると、「外国人観光客向けの周遊モデルコースの設定（自然・歴史・モノづくりを組み合わせさせたコース等）」において勤め人で24.2%と高くなっているが、自営業では15.5%と低くなっている。

外国人観光客を受け入れるための取組（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

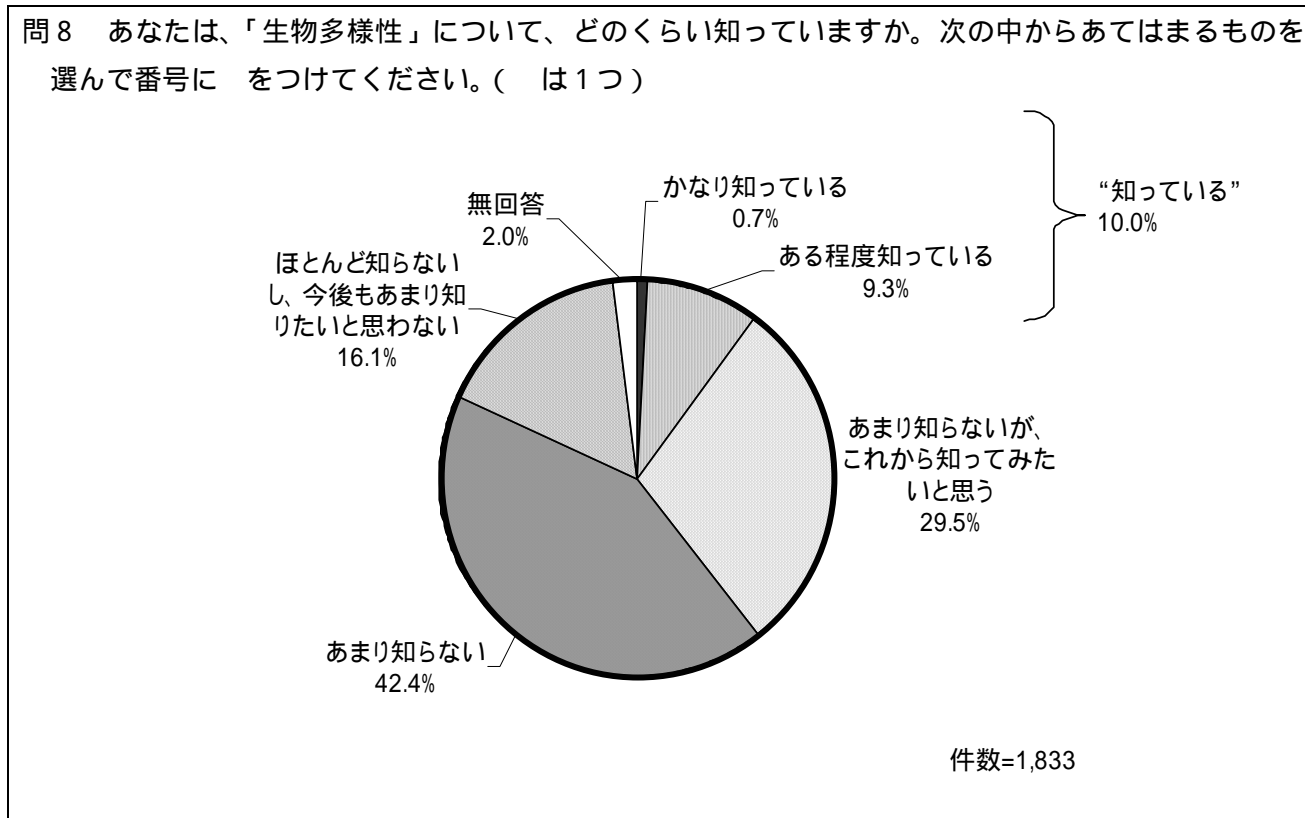


性別	外国人観光客を受け入れるための取組 (%)													
	観光施設、案内板の外国語表示及び公共交通機関等における標識・案内板の外国語表示の推進	外国語の観光パンフレット、ホームページなどによる観光情報の発信	観光案内所における外国語での案内の充実	外国人観光客へのおもてなしの心（観光に携わる人だけでなく、地域住民含めて）の充実	通訳ガイドの育成及びガイドサービスの向上	外国人観光客向けの周遊モデルコースの設定（自然・歴史・モノづくりを組み合わせさせたコース等）	国際的な交流事業やイベントの促進	地元素材で作った郷土料理の提供の充実	海外からの修学旅行生の受入体制の充実及び受入促進	海外での観光キャンペーンの充実	その他	わからない	無回答	
男性	52.7	34.8	33.3	29.3	26.5	21.6	11.0	7.6	8.4	8.8	2.2	5.9	1.6	
女性	51.3	33.2	33.2	28.4	27.2	21.2	10.7	10.9	7.0	5.6	1.1	6.9	3.1	
年齢別	20～29歳	47.7	40.1	44.2	25.6	25.6	21.5	10.5	10.5	5.2	3.5	2.9	1.2	
	30～39歳	51.4	40.0	34.8	28.6	19.7	19.3	13.1	9.7	8.3	2.1	3.4	0.3	
	40～49歳	48.1	36.7	35.7	23.9	31.0	25.9	12.8	7.4	6.1	8.1	2.4	5.4	1.7
	50～59歳	55.5	34.9	32.4	24.3	34.9	23.4	10.3	8.7	6.9	8.7	0.6	4.7	0.9
	60～64歳	56.8	33.2	34.1	31.8	27.3	22.3	7.7	6.4	7.7	3.2	1.8	4.5	2.3
	65歳以上	51.0	26.8	27.1	34.2	23.8	18.0	10.0	11.7	7.6	5.9	0.8	12.1	5.7
地域別	名古屋地域	51.0	35.1	33.1	29.8	25.7	23.3	10.5	8.5	9.0	6.5	2.0	5.1	3.3
	尾張地域	51.6	33.2	33.8	28.8	25.8	22.2	10.3	9.7	7.3	6.8	1.7	7.4	2.0
	西三河地域	53.9	33.9	31.7	29.1	28.5	18.1	12.8	9.6	7.5	9.1	1.6	6.9	1.9
	東三河地域	54.0	33.7	34.8	25.1	31.0	18.2	9.6	10.7	4.8	5.3	0.0	5.3	3.2
職業別	自営業	56.9	32.6	28.7	31.5	24.3	15.5	7.2	8.3	7.7	7.2	2.2	6.6	1.7
	勤め人	51.8	36.0	35.4	29.2	28.0	24.2	12.9	8.6	7.9	7.8	1.8	3.9	1.6
	無職	51.1	32.8	32.2	27.2	26.1	19.9	9.6	11.1	8.0	6.1	1.3	8.7	3.0

3 COP10及び生物多様性について

(1) 生物多様性の認知度

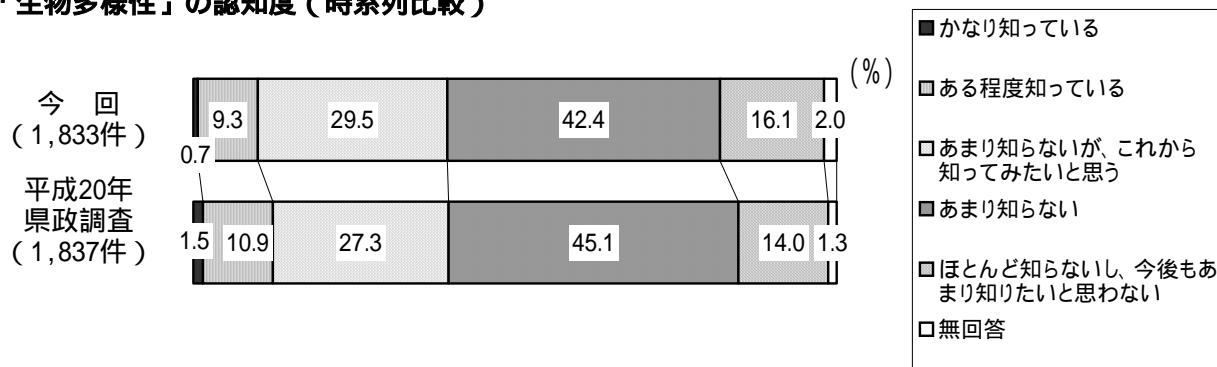
「知っている」が10%



「生物多様性」について、どのくらい知っているかたずねたところ、「知っている」(「かなり知っている」0.7% + 「ある程度知っている」9.3%)と答えた人の割合は10.0%となっている。

平成20年の県政世論調査と比較すると、「知っている」と答えた人の割合は12.4%(平成20年調査)から10.0%(今回調査)と低い値で推移している。

「生物多様性」の認知度(時系列比較)



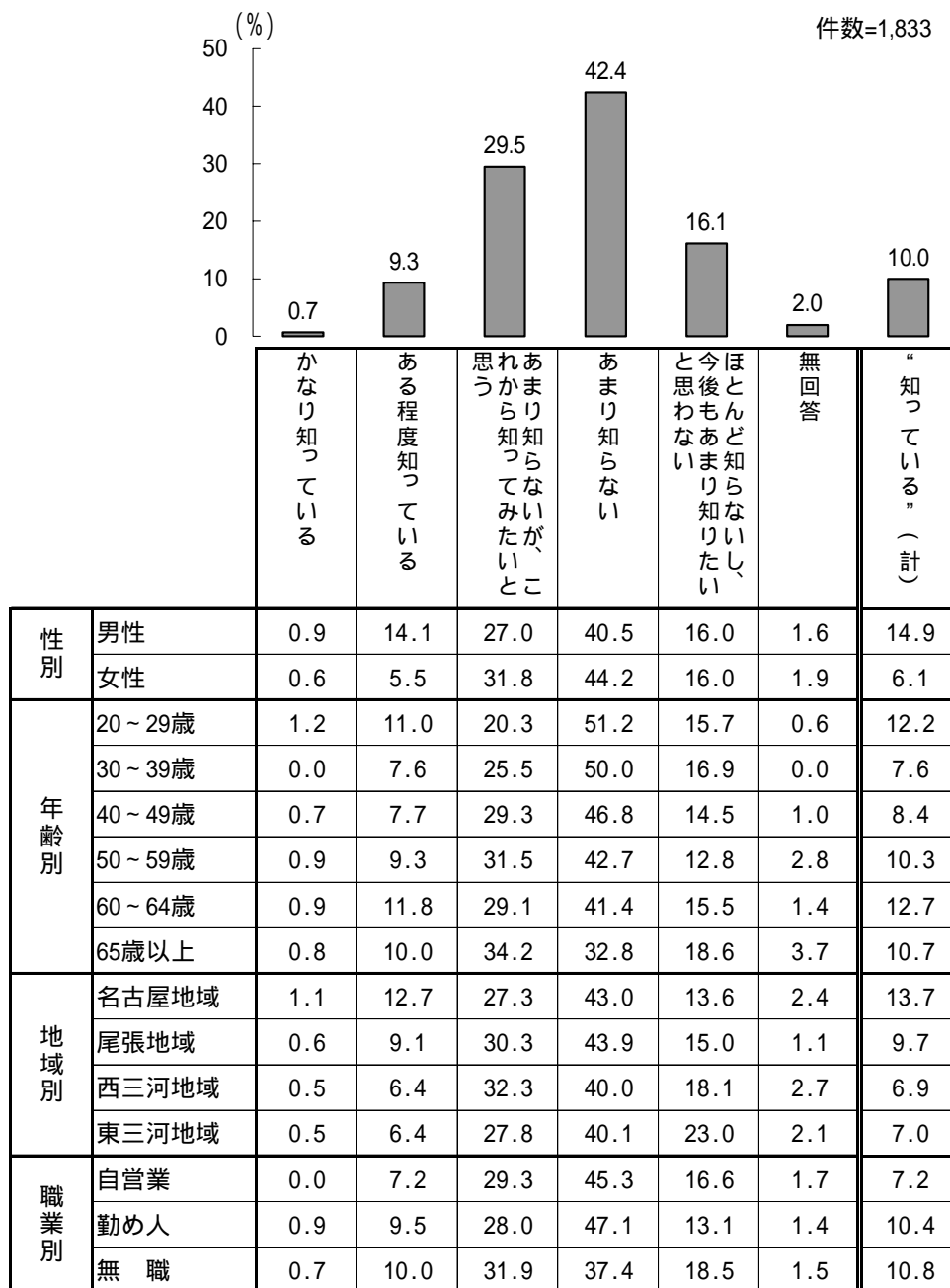
性別でみると、“知っている”と答えた人の割合は、女性（6.1%）より男性（14.9%）で8.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“知っている”と答えた人の割合は、60～64歳（12.7%）で高くなっているが、30代（7.6%）で低くなっている。

居住地域別でみると、COP10本体会議開催地の名古屋地域では“知っている”と答えた人の割合が13.7%と高くなっているが、西三河地域（6.9%）と東三河地域（7.0%）で低くなっている。

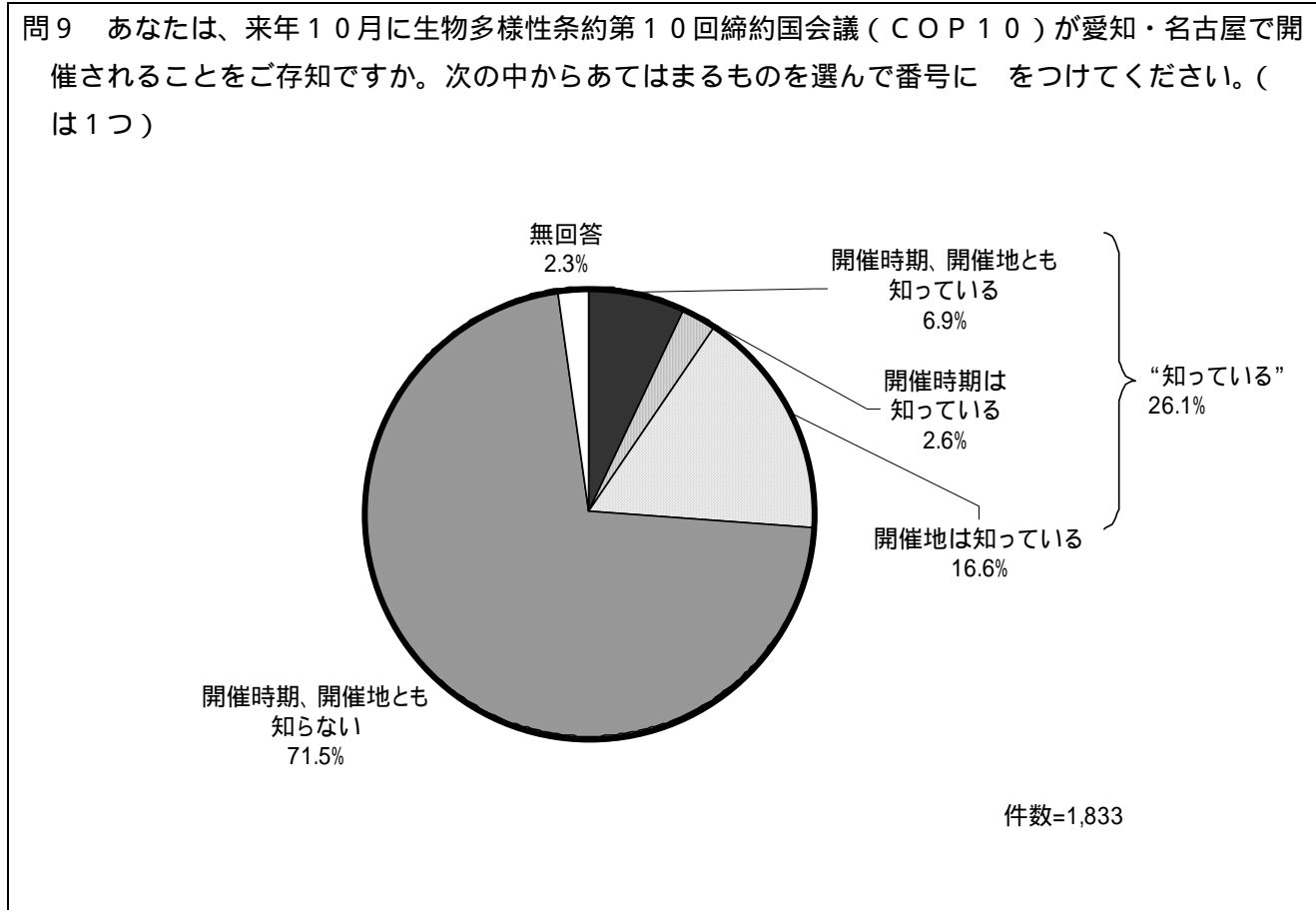
職業別でみると、“知っている”と答えた人の割合は、無職（10.8%）で高くなっているが、自営業（7.2%）で低くなっている。

生物多様性の認知度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(2) 開催時期・開催地の認知度

「知っている」が26%

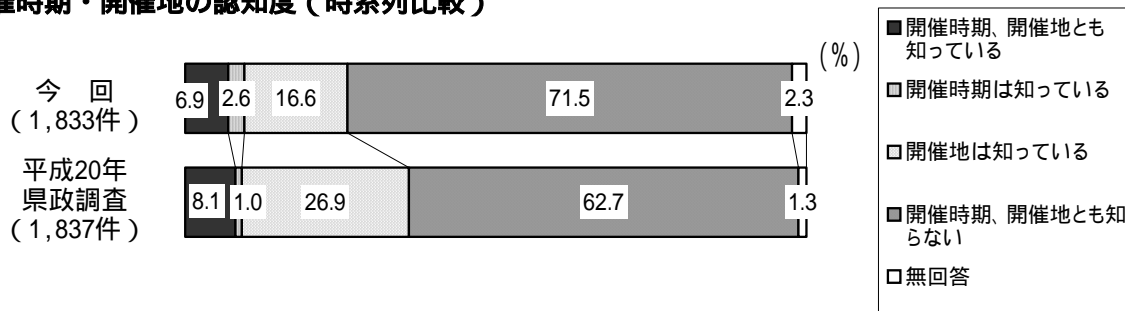


生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の開催地、開催時期を知っているかたずねたところ、「知っている」（「開催時期、開催地とも知っている」6.9% + 「開催時期は知っている」2.6% + 「開催地は知っている」16.6%）と答えた人の割合は26.1%となっている。

一方、「開催時期、開催地とも知らない」と答えた人の割合は71.5%となっている。

平成20年の県政世論調査と比較すると、「知っている」と答えた人の割合は36.0%（平成20年調査）から26.1%（今回調査）と9.9ポイント低く、低い値で推移している。

開催時期・開催地の認知度（時系列比較）



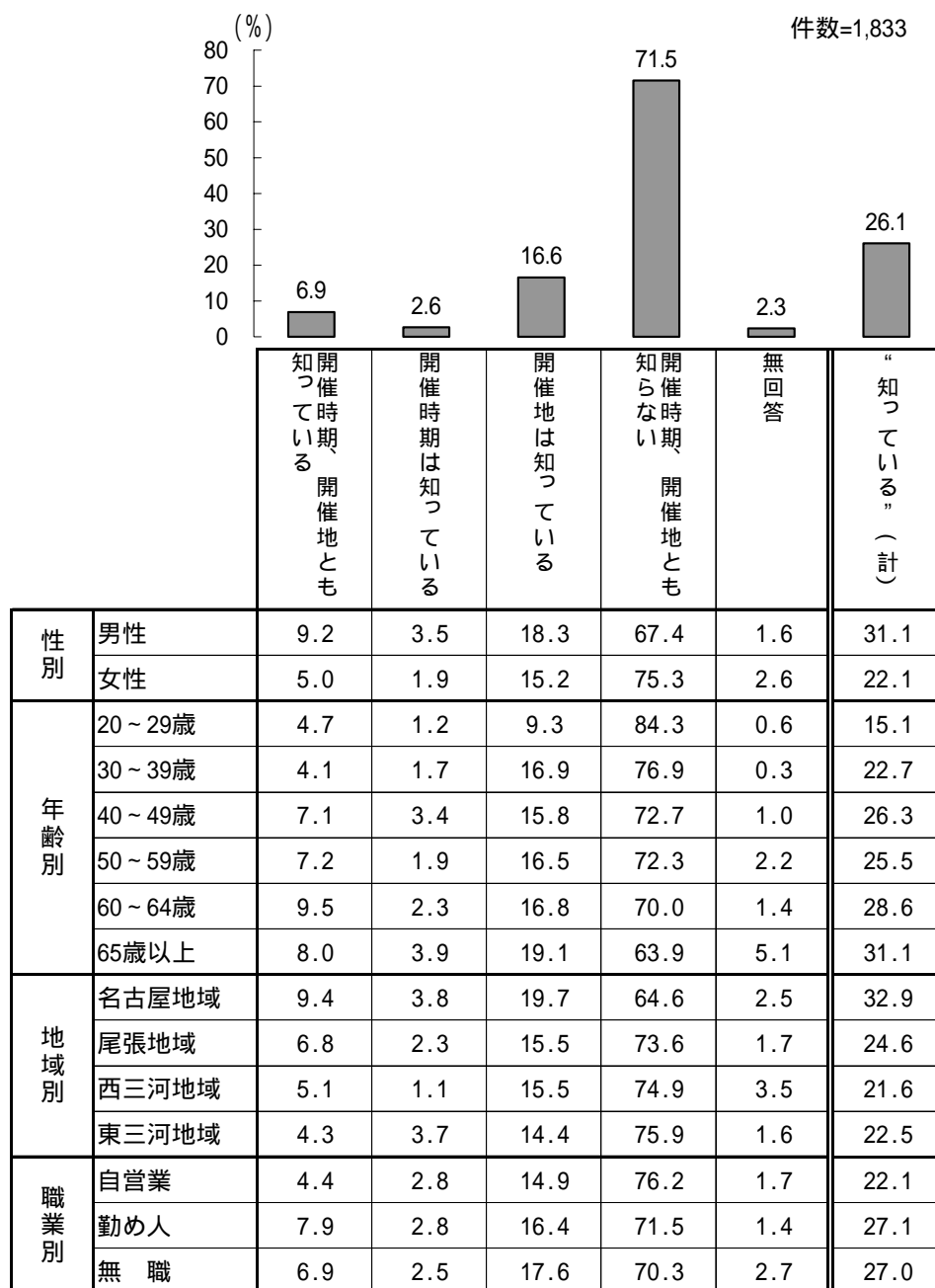
性別でみると、「知っている」と答えた人の割合は、女性（22.1%）より男性（31.1%）で9.0ポイント高くなっている。「開催時期、開催地とも知らない」と答えた人の割合は、男性（67.4%）より女性（75.3%）で7.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「知っている」と答えた人の割合は、65歳以上（31.1%）で高くなっているが、20代（15.1%）で低くなっている。

居住地域別でみると、COP10本体会議開催地の名古屋地域では「知っている」と答えた人の割合が32.9%と高くなっているが、西三河地域（21.6%）で低くなっている。

職業別でみると、「知っている」と答えた人の割合は、勤め人（27.1%）で高くなっているが、自営業（22.1%）で低くなっている。

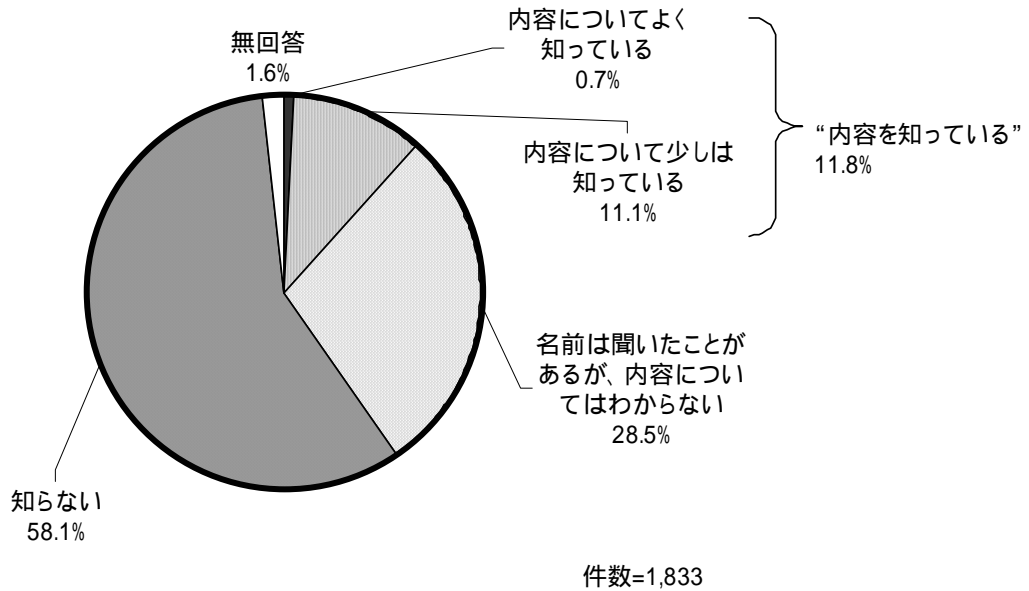
開催時期・開催地の認知度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(3) COP10 会議内容の認知度

「内容を知っている」が12%

問10 あなたは、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)がどのような会議かご存知ですか。次の中からあてはまるものを選んで番号をつけてください。(は1つ)

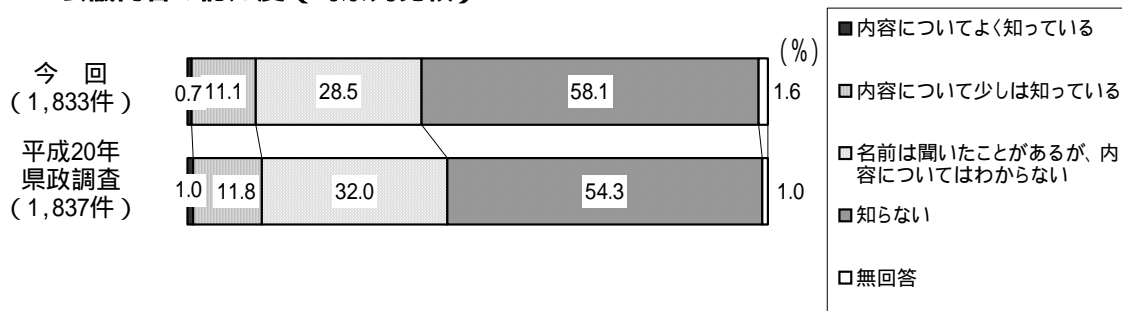


COP10 会議内容について知っているかたずねたところ、「内容を知っている」(「内容についてよく知っている」0.7% + 「内容について少しは知っている」11.1%)と答えた人の割合は11.8%となっている。

一方、「知らない」と答えた人の割合は58.1%となっている。

平成20年の県政世論調査と比較すると、「内容を知っている」と答えた人の割合は12.7%(平成20年調査)から11.8%(今回調査)と低い値で推移している。

COP10 会議内容の認知度(時系列比較)



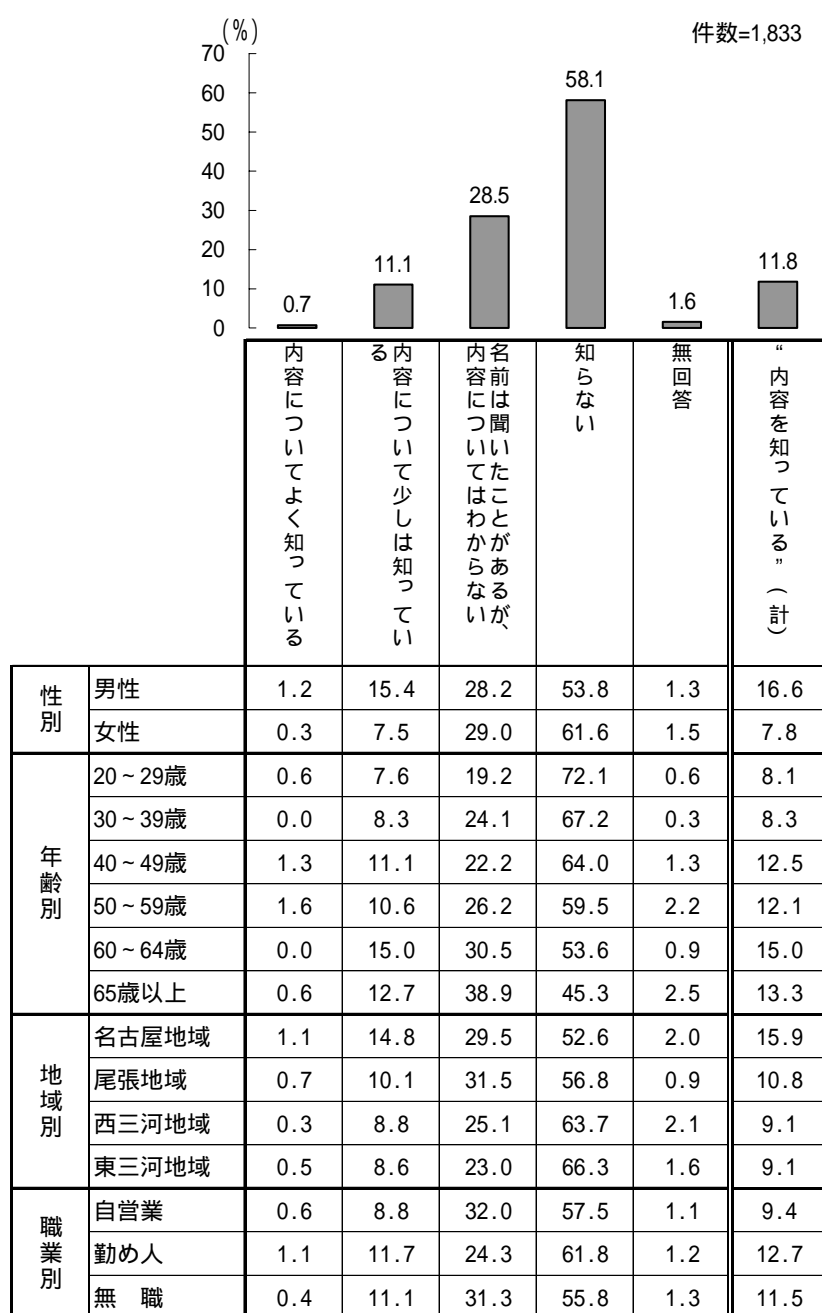
性別でみると、“内容を知っている”と答えた人の割合は、女性（7.8%）より男性（16.6%）で 8.8ポイント高くなっている。「知らない」と答えた人の割合は、男性（53.8%）より女性（61.6%）で 7.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“内容を知っている”と答えた人の割合は、60～64歳（15.0%）で高くなっているが、20代（8.1%）と30代（8.3%）で低くなっている。

居住地域別でみると、COP10本体会議開催地の名古屋地域では“内容を知っている”と答えた人の割合が15.9%と高くなっているが、西三河地域と東三河地域（いずれも9.1%）で低くなっている。

職業別でみると、“内容を知っている”と答えた人の割合は、勤め人（12.7%）で高くなっているが、自営業（9.4%）で低くなっている。

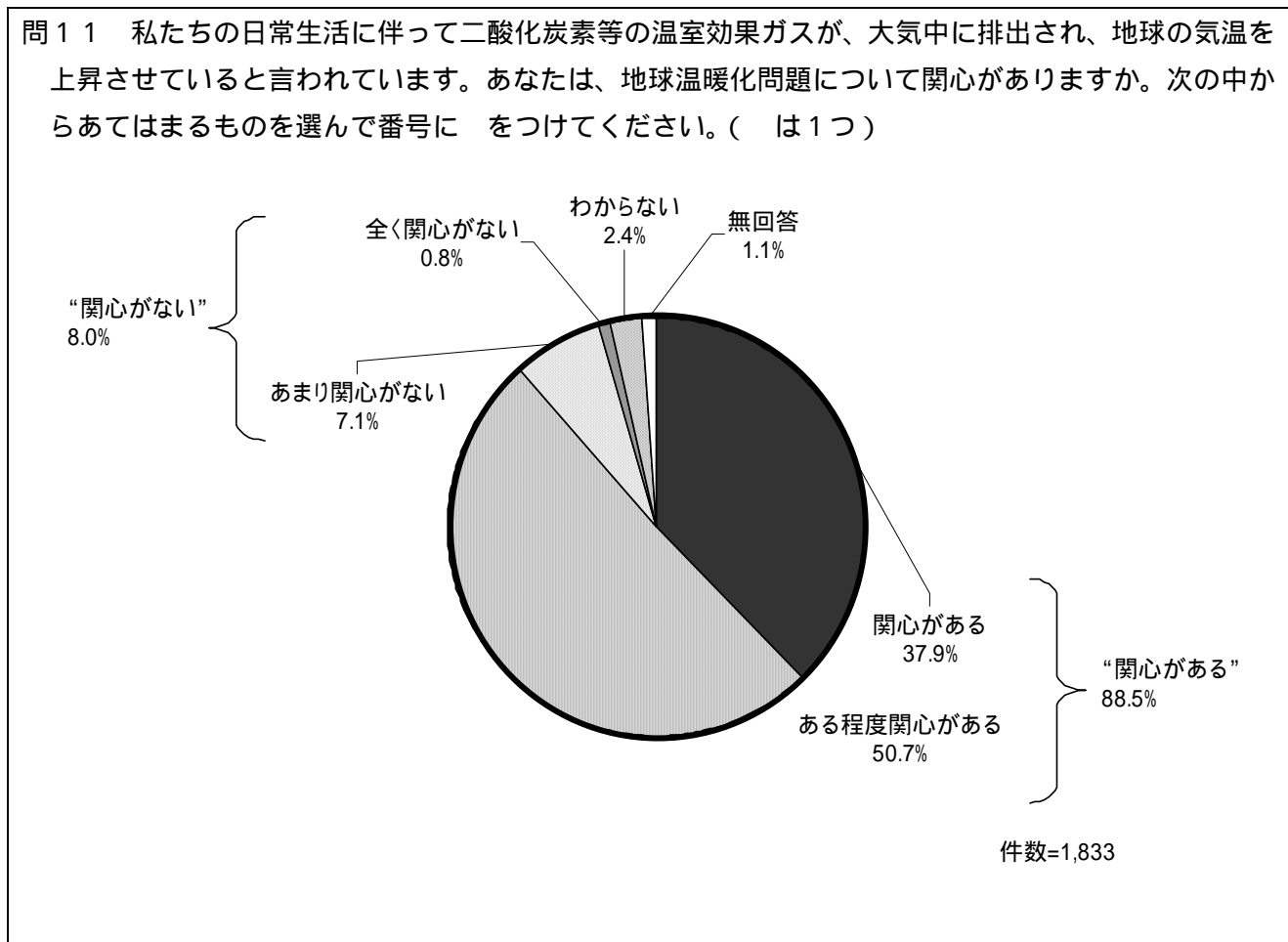
COP10会議内容の認知度（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



4 地球温暖化対策

(1) 地球温暖化問題への関心

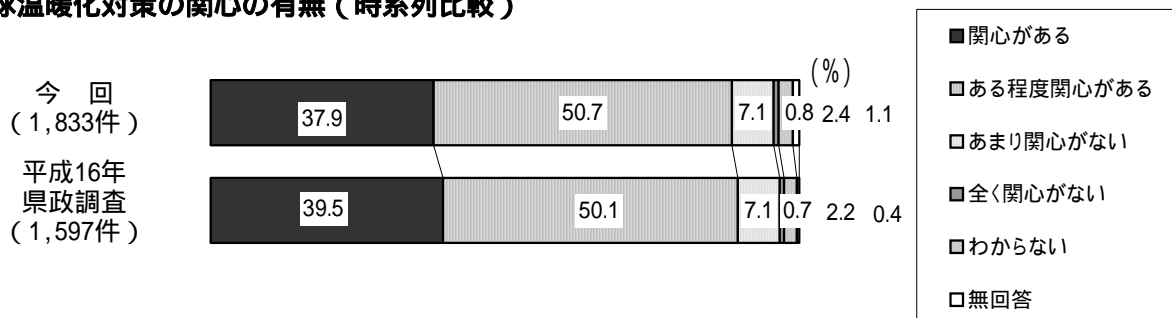
「**関心がある**」が89%



地球温暖化問題について関心があるかたずねたところ、「関心がある」(「関心がある」37.9% + 「ある程度関心がある」50.7%)と答えた人の割合は88.5%となっている。一方、「関心がない」(「あまり関心がない」7.1% + 「全く関心がない」0.8%)と答えた人の割合は8.0%となっている。

平成16年の県政世論調査では、「関心がある」と答えた人の割合は89.6%、「関心がない」と答えた人の割合は7.8%であり、今回も高い関心が示された。

地球温暖化対策の関心の有無(時系列比較)



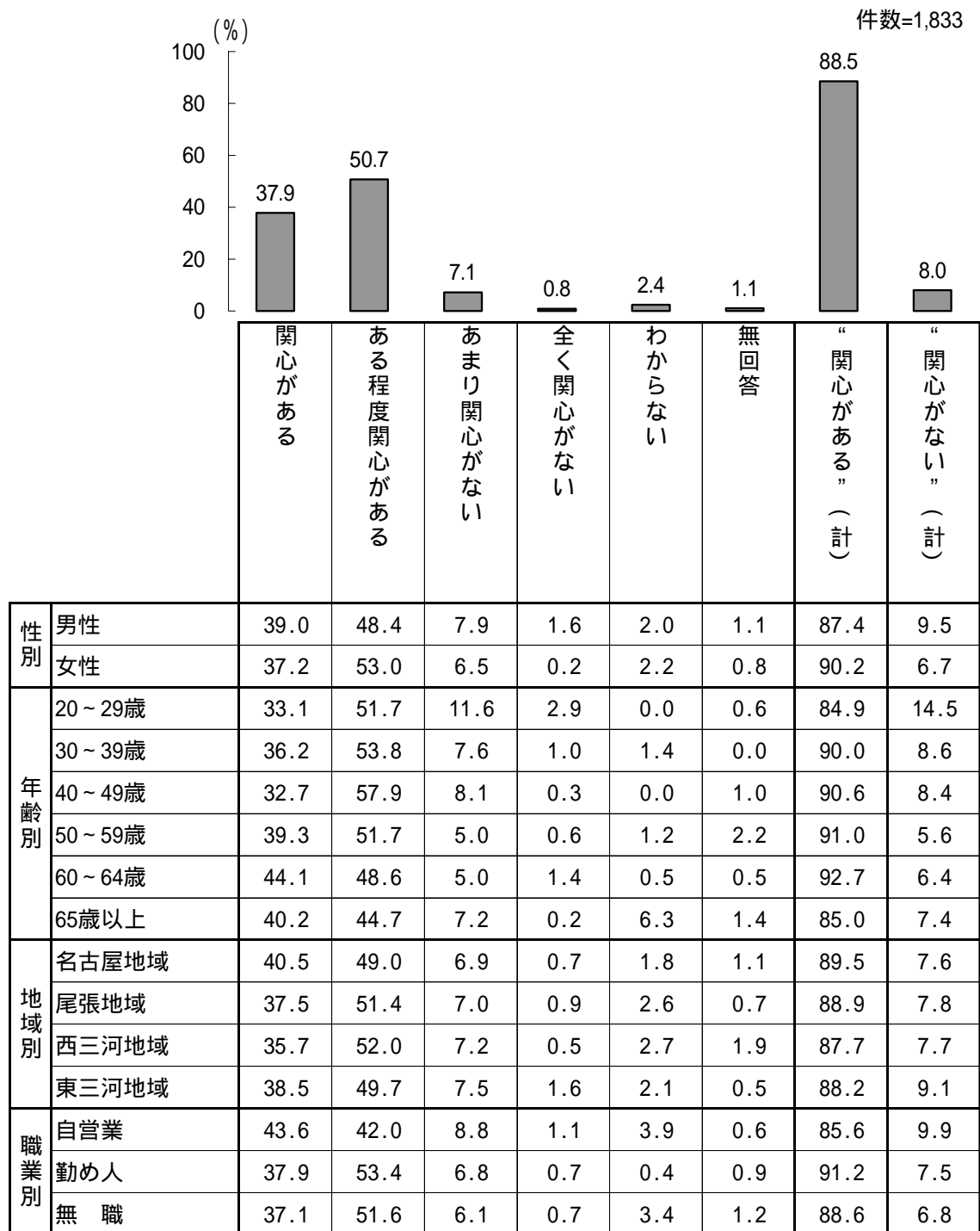
性別でみると、大きな差異はみられない。

年齢別でみると、全ての年代で“ 関心がある ”と答えた人の割合が8割を超えている。また、「あまり関心がない」と答えた人の割合は、20代で11.6%とやや高くなっている。

居住地域別でみると、「関心がある」と答えた人の割合は、名古屋地域で4割を超えている。

職業別でみると、「関心がある」と答えた人の割合は、自営業で4割を超えている。

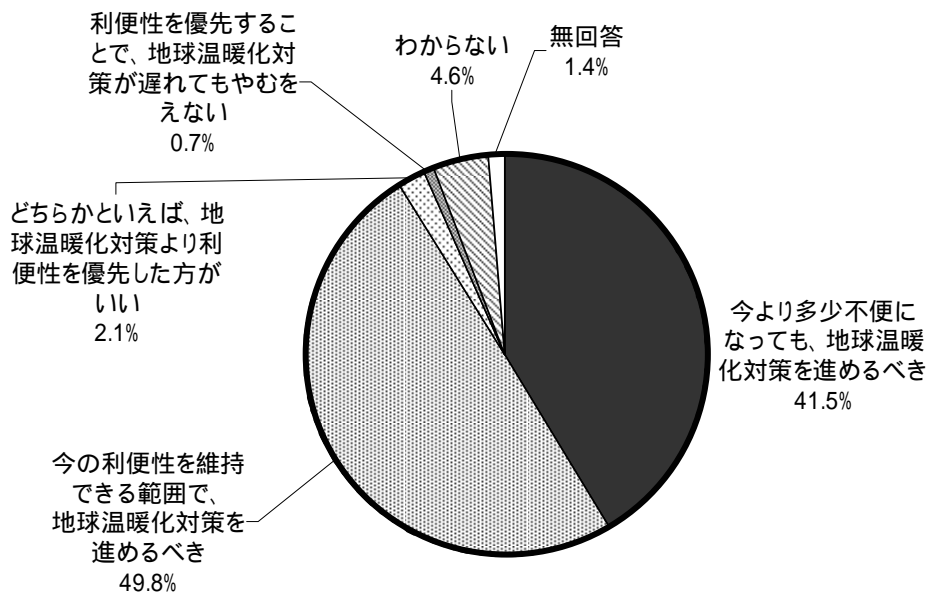
地球温暖化問題への関心（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



(2) 地球温暖化対策と生活の利便性との関係

「今より多少不便になっても、地球温暖化対策を進めるべき」が42%

問12 地球温暖化を防止するためには、電気やガス、ガソリンなどの消費を少なくしたり、太陽光発電などの自然エネルギーの利用を進める必要があり、このために経済的な負担が多少増えたり、生活がやや不便になる可能性があります。地球温暖化対策と生活の利便性との関係について、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまるものを選んで番号に をつけてください。(は1つ)



件数=1,833

地球温暖化対策と生活の利便性との関係についてたずねたところ、「今より多少不便になっても、地球温暖化対策を進めるべき」41.5%、「今の利便性を維持できる範囲で、地球温暖化対策を進めるべき」49.8%となっている。

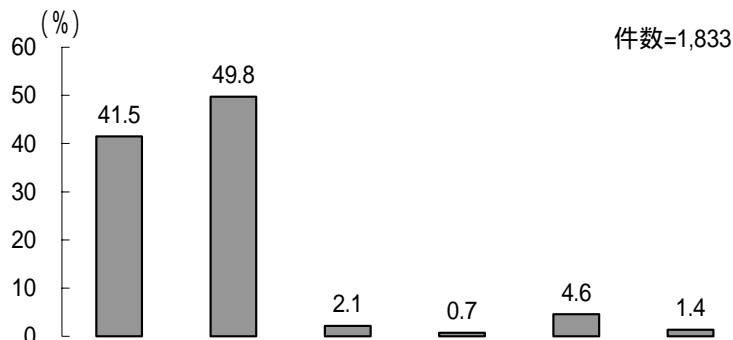
性別でみると、大きな差異は見られない。

年齢別でみると、「今より多少不便になっても、地球温暖化対策を進めるべき」と答えた人の割合は、50～59歳で43.9%と高くなっている。

居住地域別でみると、「今より多少不便になっても、地球温暖化対策を進めるべき」と答えた人の割合は、名古屋地域で45.8%と高く、尾張地域で38.7%と低くなっている。

職業別でみると、大きな差異は見られない。

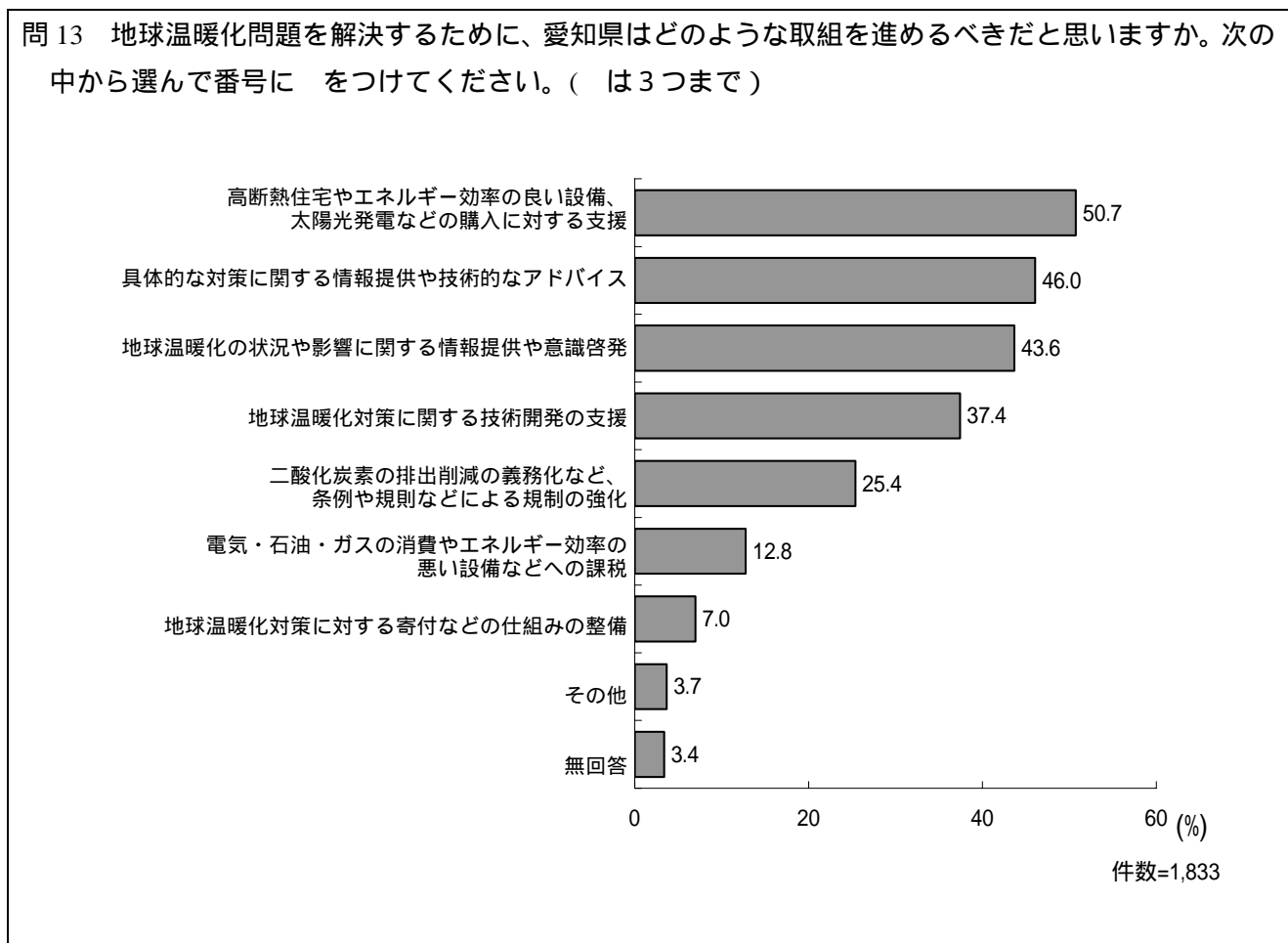
生活利便性との関係（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



		めも今 るよ地 べ地多 き球少 温不 暖便 化に 対な 策つ を進	を範今 進困の めで利 る便 べ地性 き球を 温維 暖持 化で 対き 策る	優温ど 先暖ち し化ら た対か 方策と がよい いりえ い利ば 便性 地を球	れで利 て便 も地性 や球を む温優 を暖先 え化す ない対 策こと 遅	わ か ら ぬ	無 回 答
性別	男性	39.5	51.3	2.9	1.0	3.9	1.3
	女性	43.3	48.9	1.4	0.5	4.7	1.1
年齢別	20～29歳	39.5	51.7	4.1	2.3	1.7	0.6
	30～39歳	41.0	52.1	1.7	0.7	4.1	0.3
	40～49歳	40.7	53.5	2.0	0.3	2.4	1.0
	50～59歳	43.9	49.8	0.9	0.6	1.9	2.8
	60～64歳	41.4	50.9	3.2	0.0	4.1	0.5
	65歳以上	41.8	45.1	2.0	0.8	8.6	1.8
地域別	名古屋地域	45.8	45.9	2.2	0.7	4.0	1.4
	尾張地域	38.7	52.6	2.4	0.4	5.3	0.6
	西三河地域	41.6	48.3	2.1	1.1	4.0	2.9
	東三河地域	40.6	54.0	0.5	0.5	3.7	0.5
職業別	自営業	40.9	48.1	2.8	0.6	7.2	0.6
	勤め人	41.9	52.7	1.6	0.7	1.9	1.2
	無職	43.1	46.8	1.8	0.6	6.4	1.3

(3) 地球温暖化問題を解決するための取組

「高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備、太陽光発電などの購入に対する支援」が51%



地球温暖化問題を解決するための取組についてたずねたところ、「高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備、太陽光発電などの購入に対する支援」(50.7%)が最も高く、次いで「具体的な対策に関する情報提供や技術的なアドバイス」(46.0%)、「地球温暖化の状況や影響に関する情報提供や意識啓発」(43.6%)の順になっている。

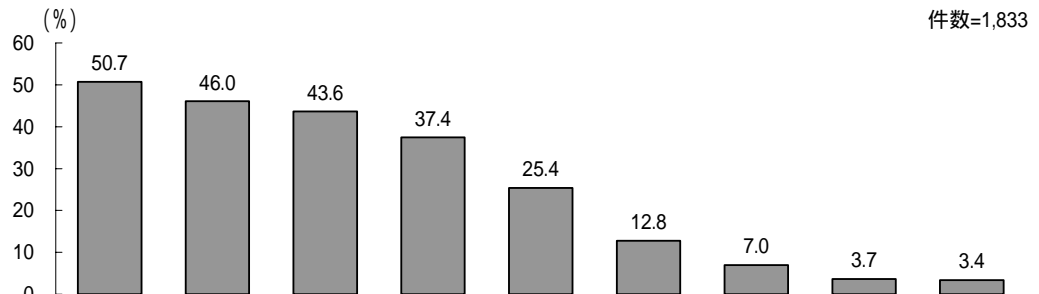
性別でみると、「具体的な対策に関する情報提供や技術的なアドバイス」と答えた人の割合は、男性（41.9%）より女性（49.8%）で7.9ポイント高くなっている。「地球温暖化対策に関する技術開発の支援」と答えた人の割合は、女性（34.9%）より男性（40.8%）で5.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備、太陽光発電などの購入に対する支援」と答えた人の割合は、30代で61.4%、「具体的な対策に関する情報提供や技術的なアドバイス」と答えた人の割合は、20代で51.7%、「地球温暖化の状況や影響に関する情報提供や意識啓発」と答えた人の割合は、65歳以上で47.7%と高くなっている。

居住地域別でみると、「高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備、太陽光発電などの購入に対する支援」と答えた人の割合は、西三河地域で57.1%と高くなっている。また、「具体的な対策に関する情報提供や技術的なアドバイス」と答えた人の割合は、東三河地域で38.5%と低くなっている。

職業別でみると、「高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備、太陽光発電などの購入に対する支援」と答えた人の割合は、勤め人で57.1%、「地球温暖化の状況や影響に関する情報提供や意識啓発」と答えた人の割合は、自営業で50.3%と高くなっている。

地球温暖化問題を解決するための取組（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



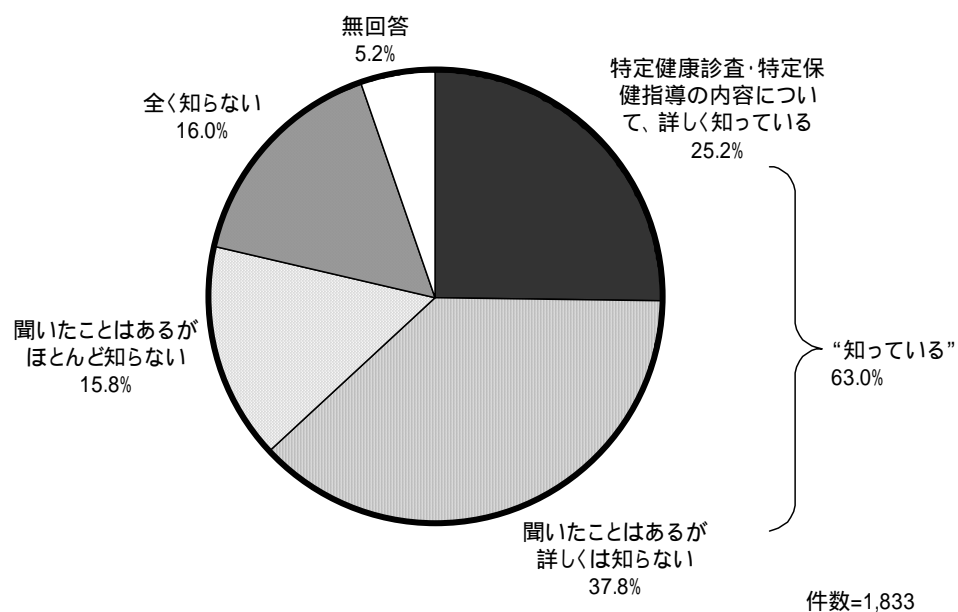
		高断熱住宅やエネルギー効率の良い設備や太陽光発電の導入に対する支援	具体的な技術的な対策に関するアドバイス	地球温暖化の状況や影響に関する情報提供や意識啓発	地球温暖化対策に関する技術開発の支援	二酸化炭素の排出削減などによる規制の強化や削減義務	電気・石油・ガスの消費削減	地球温暖化対策の整備	その他	無回答
性別	男性	50.4	41.9	42.2	40.8	26.5	13.7	7.0	4.5	2.6
	女性	51.5	49.8	45.0	34.9	24.6	12.2	6.9	3.1	3.5
年齢別	20～29歳	55.8	51.7	37.8	38.4	20.3	15.7	12.2	5.8	2.3
	30～39歳	61.4	46.9	41.4	39.0	22.1	10.3	9.0	4.1	0.7
	40～49歳	57.6	47.5	38.4	35.4	22.9	15.2	6.1	4.0	1.7
	50～59歳	51.1	50.2	45.8	39.9	23.4	11.2	5.0	3.1	3.1
	60～64歳	50.5	46.4	46.8	38.6	24.5	11.8	5.0	3.2	1.4
	65歳以上	39.1	40.4	47.7	35.4	32.4	13.5	6.4	3.1	6.8
地域別	名古屋地域	49.2	45.6	43.6	37.6	27.5	15.0	6.3	3.6	3.1
	尾張地域	49.7	44.7	45.0	37.7	23.4	11.5	7.4	3.6	3.3
	西三河地域	57.1	53.1	41.1	35.7	26.4	12.0	7.5	2.7	3.2
	東三河地域	49.2	38.5	46.5	39.6	25.1	12.8	6.4	5.3	3.7
職業別	自営業	45.3	46.4	50.3	33.7	20.4	12.2	5.0	5.0	3.3
	勤め人	57.1	48.9	41.4	39.4	23.4	13.0	7.8	3.4	1.8
	無職	44.5	45.2	47.4	36.3	28.7	11.4	6.8	3.5	4.1

5 特定健康診査・特定保健指導について

(1) 特定健康診査・特定保健指導の認知度

「知っている」が63%

問14 特定健康診査・特定保健指導を知っていますか。次の中からあてはまるものを選んで番号をつけてください。(は1つ)



特定健康診査・特定保健指導についてたずねたところ、「知っている」(「特定健康診査・特定保健指導の内容について、詳しく知っている」25.2% + 「聞いたことはあるが詳しくは知らない」37.8%)と答えた人の割合が63.0%となっている。

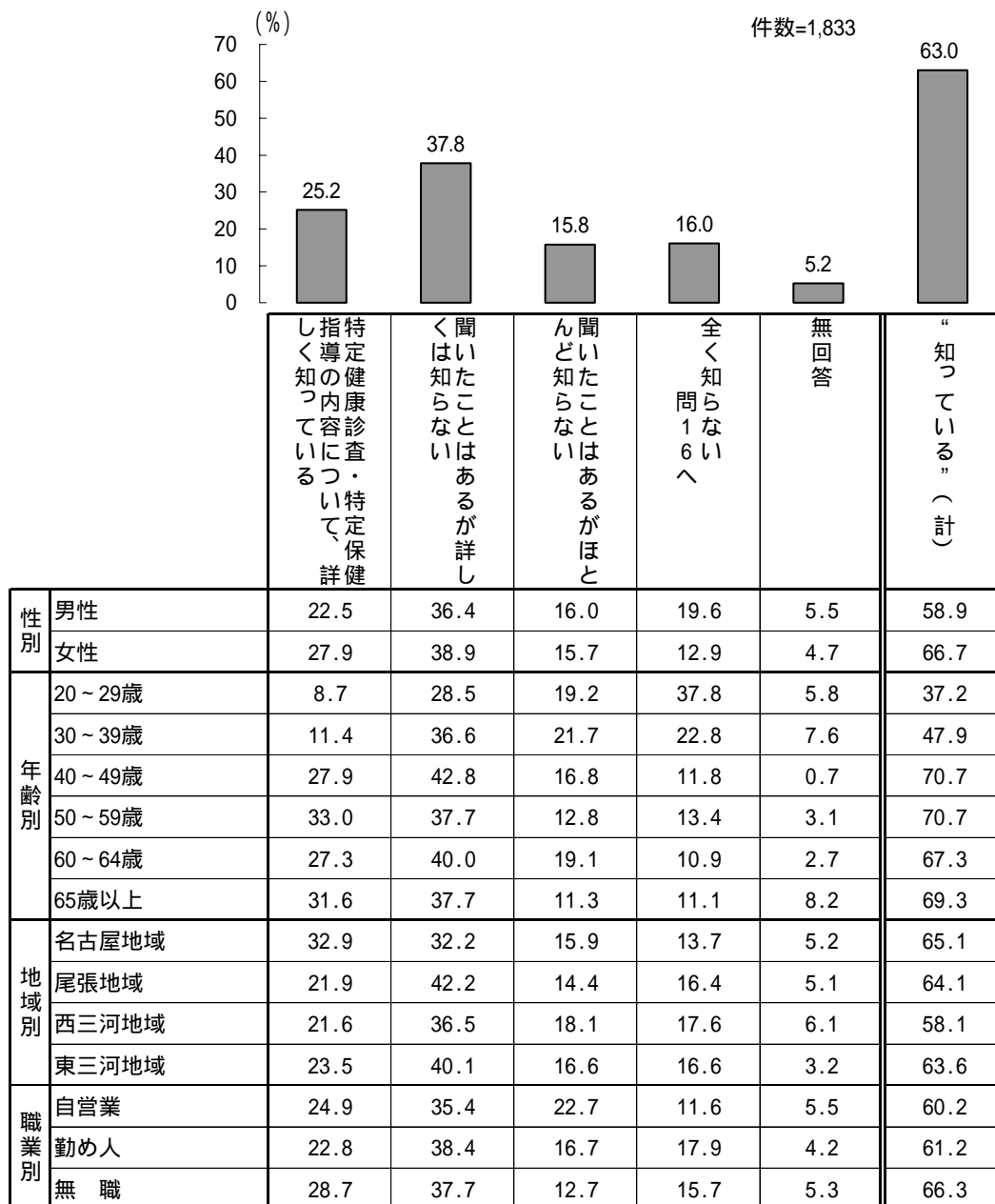
性別でみると“知っている”(「特定健康診査・特定保健指導の内容について、詳しく知っている」+「聞いたことはあるが詳しくは知らない」と答えた人の割合は男女とも高いが、男性(58.9%)より女性(66.7%)で7.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“知っている”と答えた人の割合が20代で37.2%と低くなっている。

居住地域別でみると、「特定健康診査・特定保健指導の内容について、詳しく知っている」と答えた人の割合は、名古屋地域で32.9%と高くなっているが、西三河地域は21.6%と低くなっている。

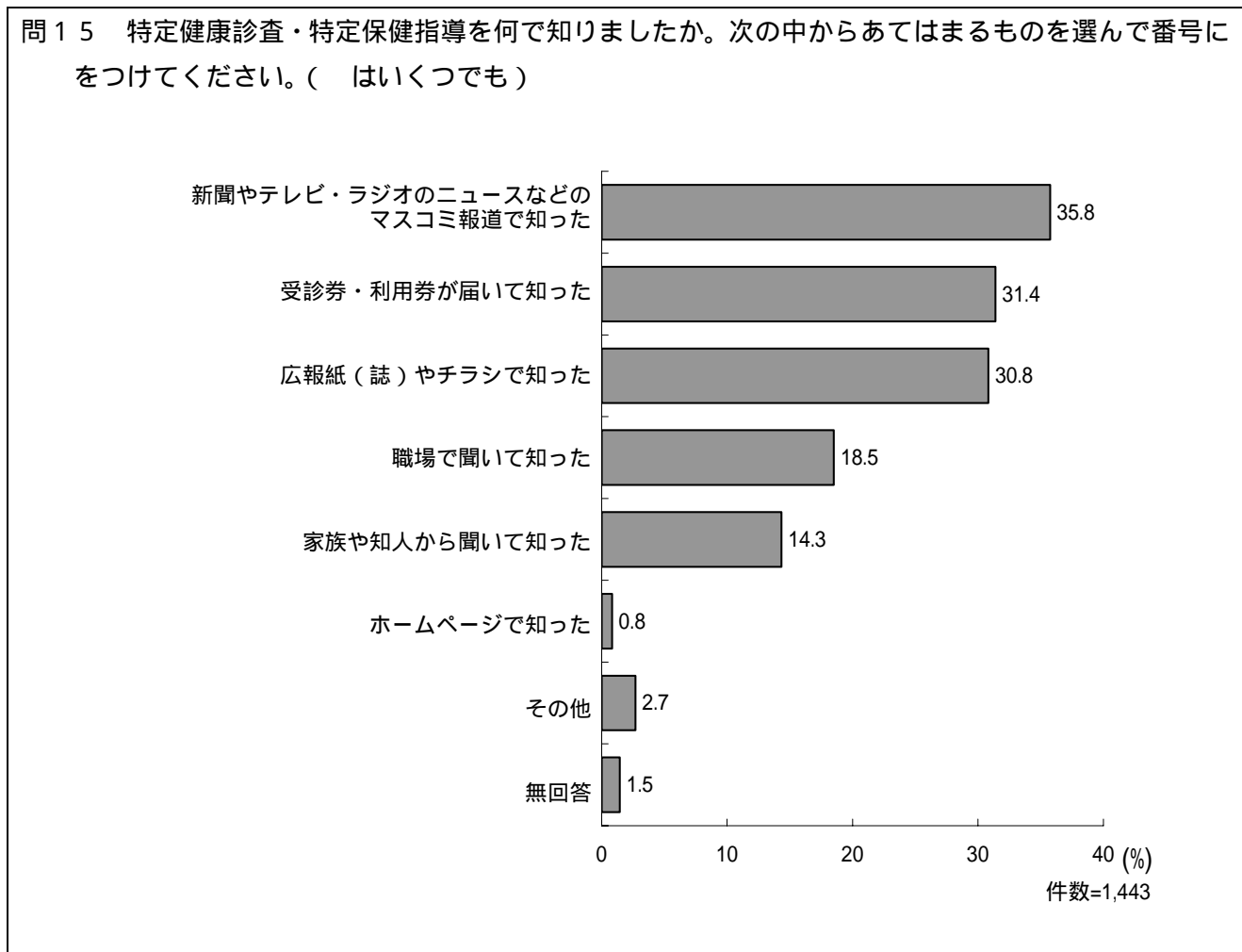
職業別でみると、「聞いたことはあるがほとんど知らない」と答えた人の割合は、自営業で22.7%と高くなっている。

特定健康診査・特定保健指導の認知度(性別、年齢別、居住地域別、職業別)



(2) 特定健康診査・特定保健指導を知ったきっかけ

「新聞やテレビ・ラジオのニュースなどのマスコミ報道で知った」が36%



特定健康診査・特定保健指導を何で知ったかについてたずねたところ、「新聞やテレビ・ラジオのニュースなどのマスコミ報道で知った」(35.8%)が最も高く、次いで「受診券・利用券が届いて知った」(31.4%)、「広報紙(誌)やチラシで知った」(30.8%)の順になっている。

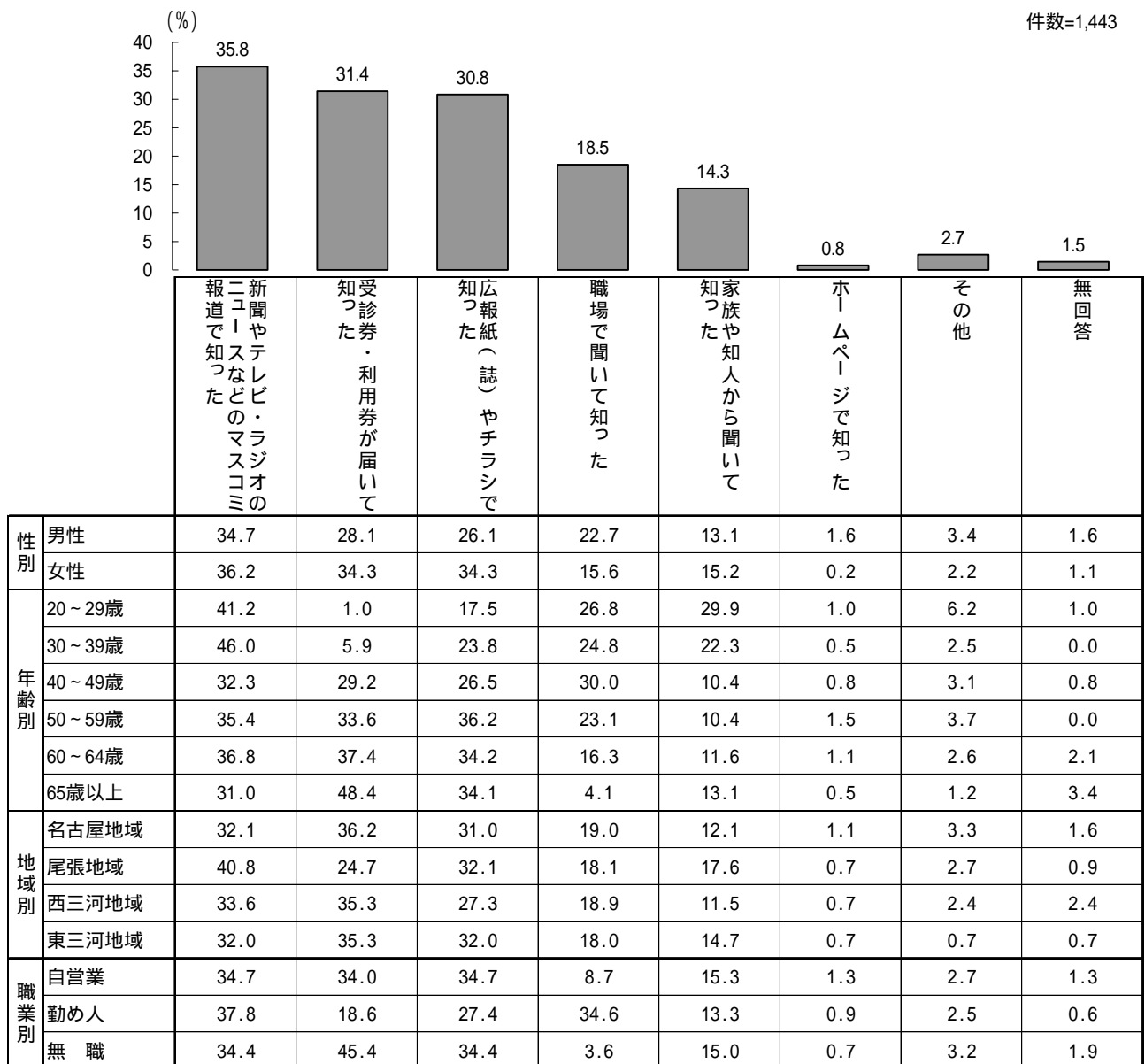
性別でみると「受診券・利用券が届いて知った」と答えた人の割合は、男性(28.1%)より女性(34.3%)で6.2ポイント、「広報紙(誌)やチラシで知った」と答えた人の割合は、男性(26.1%)より女性(34.3%)で8.2ポイント高くなっている。また、「職場で聞いて知った」と答えた人の割合は、女性(15.6%)より男性(22.7%)で7.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「新聞やテレビ・ラジオのニュースなどのマスコミ報道で知った」と答えた人の割合は、20代と30代で4割を超えている。「受診券・利用券が届いて知った」と答えた人の割合は、65歳以上で4割を超えている。

居住地域別でみると、「新聞やテレビ・ラジオのニュースなどのマスコミ報道で知った」と答えた人の割合は、尾張地域で4割を超えている。

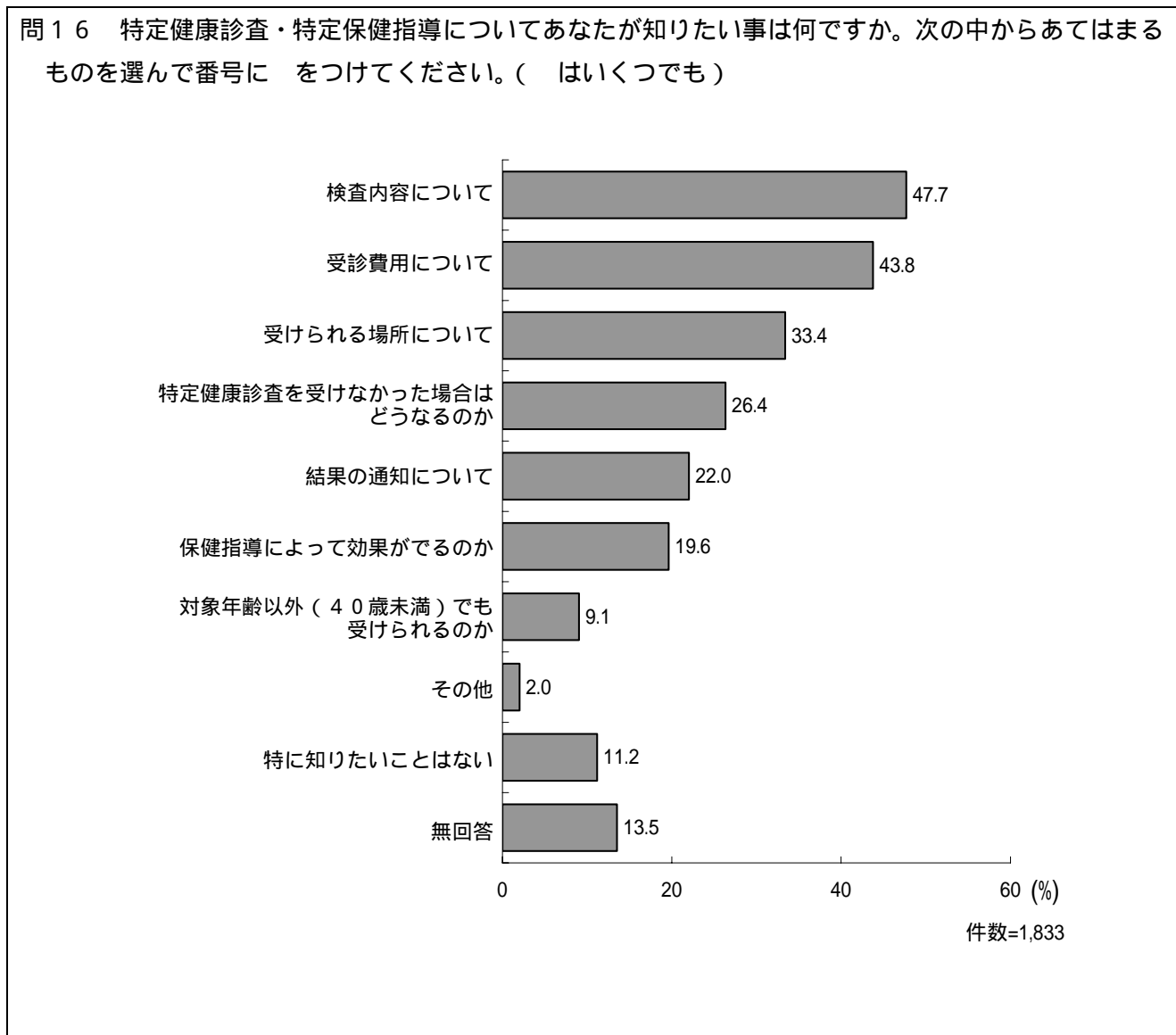
職業別でみると、「受診券・利用券が届いて知った」と答えた人の割合は、無職で4割を超えているが、勤め人では2割に満たない

特定健康診査・特定保健指導を知ったきっかけ(性別、年齢別、居住地域別、職業別)



(3) 特定健康診査・特定保健指導について知りたいこと

「検査内容について」が48%



特定健康診査・特定保健指導について何が知りたいかたずねたところ、「検査内容について」(47.7%)が最も高く、次いで「受診費用について」(43.8%)、「受けられる場所について」(33.4%)の順になっている。

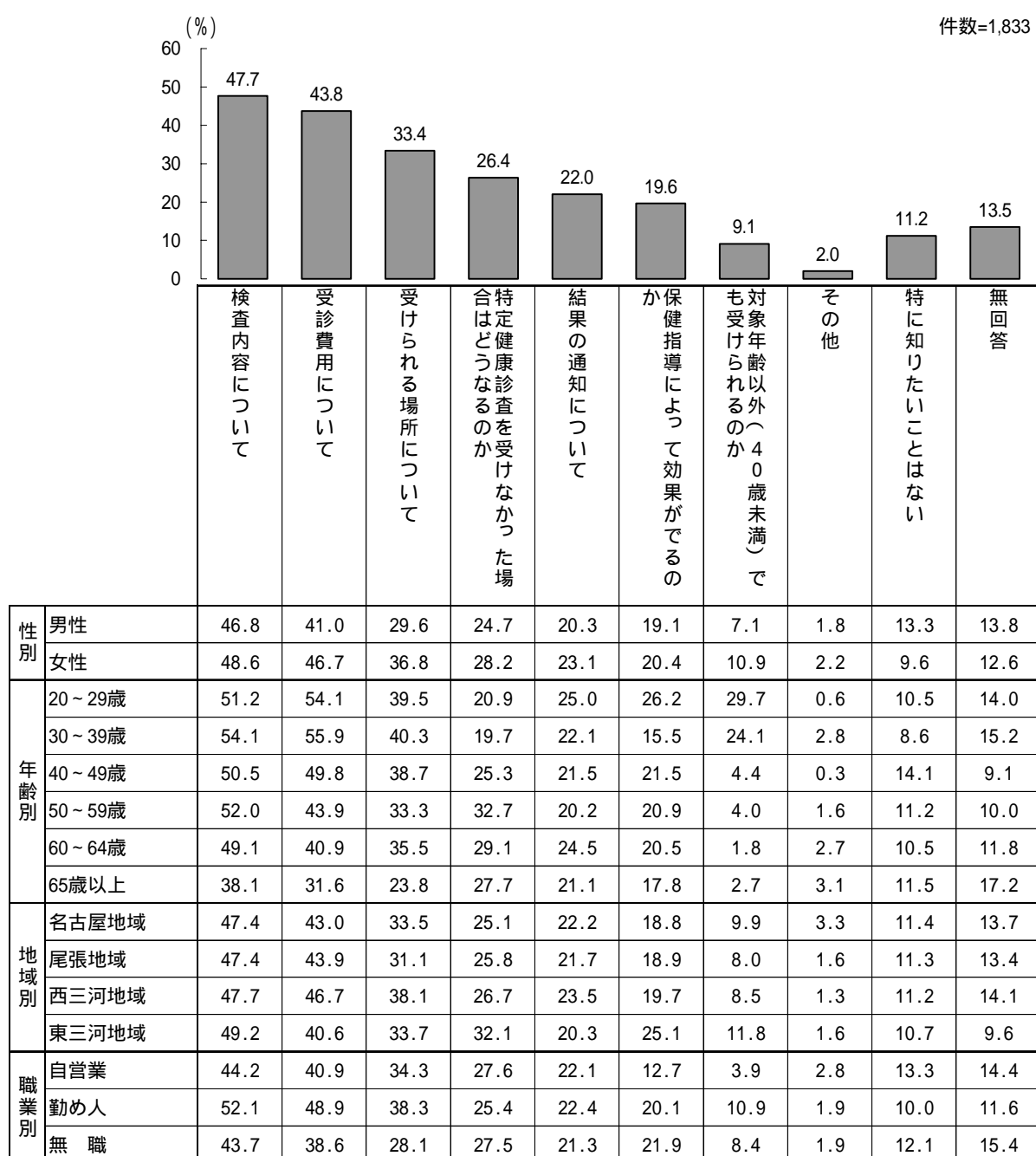
性別でみると「受診費用について」と答えた人の割合は、男性（41.0%）より女性（46.7%）で 5.7ポイント、「受けられる場所について」と答えた人の割合は、男性（29.6%）より女性（36.8%）で 7.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、30代において「検査内容について」（54.1%）、「受診費用について」（55.9%）と答えた人の割合が高くなっている。「特定健康診査を受けなかった場合はどうなるのか」と答えた人の割合は、50代で 32.7%と高くなっている。

居住地域別でみると、東三河地域において「特定健康診査を受けなかった場合はどうなるのか」（32.1%）「保健指導によって効果がでるのか」（25.1%）と答えた人の割合が高くなっている。

職業別でみると、「検査内容について」と答えた人の割合は、勤め人で 52.1%と高くなっている。

特定健康診査・特定保健指導について知りたいこと（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

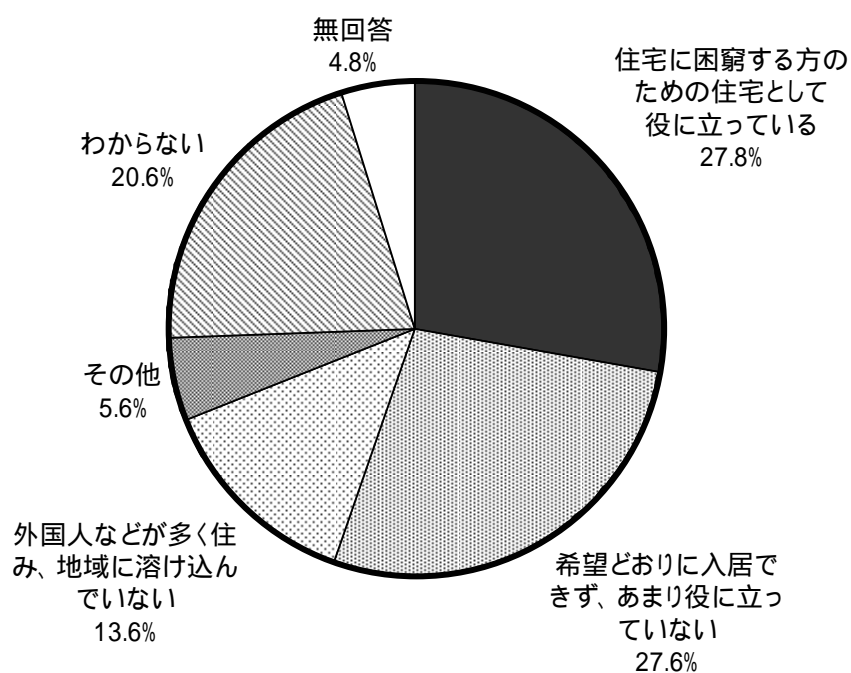


6 県営住宅の役割

(1) 公営住宅に感じているイメージ

「住宅に困窮する方のための住宅として役に立っている」が28%

問17 住宅に困窮する低額所得者向けに、安い家賃で住まいを提供する公営住宅（県営住宅や市営住宅など）は、現在、県内に約14万戸ありますが、あなたは、公営住宅についてどんなイメージをお持ちですか。次の中からあてはまるものを選んで番号にをつけてください。（は1つ）



件数=1,833

公営住宅についてのイメージをたずねたところ、「住宅に困窮する方のための住宅として役に立っている」(27.8%)が最も高く、次いで「希望どおりに入居できず、あまり役に立っていない」(27.6%)、「外国人などが多く住み、地域に溶け込んでいない」(13.6%)となっている。

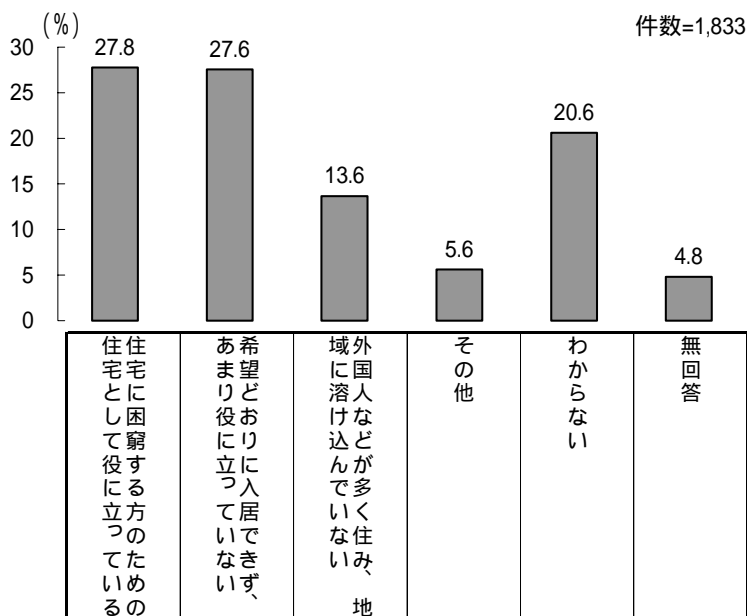
性別でみると、大きな差異はみられない。

年齢別でみると、「住宅に困窮する方のための住宅として役に立っている」と答えた人の割合は、20代で19.2%と低くなっている。一方、「希望どおりに入居できず、あまり役に立っていない」と答えた人の割合は、若年齢層で高くなっている。

居住地域別でみると、「住宅に困窮する方のための住宅として役に立っている」と答えた人の割合は、尾張地域で30.2%、「希望どおりに入居できず、あまり役に立っていない」と答えた人の割合は、名古屋地域で33.6%、「外国人などが多く住み、地域に溶け込んでいない」と答えた人の割合は、東三河地域で24.6%と高くなっている。

職業別でみると、「住宅に困窮する方のための住宅として役に立っている」と答えた人の割合は、自営業で32.0%、「希望どおりに入居できず、あまり役に立っていない」と答えた人の割合は、勤め人で30.1%と高くなっている。

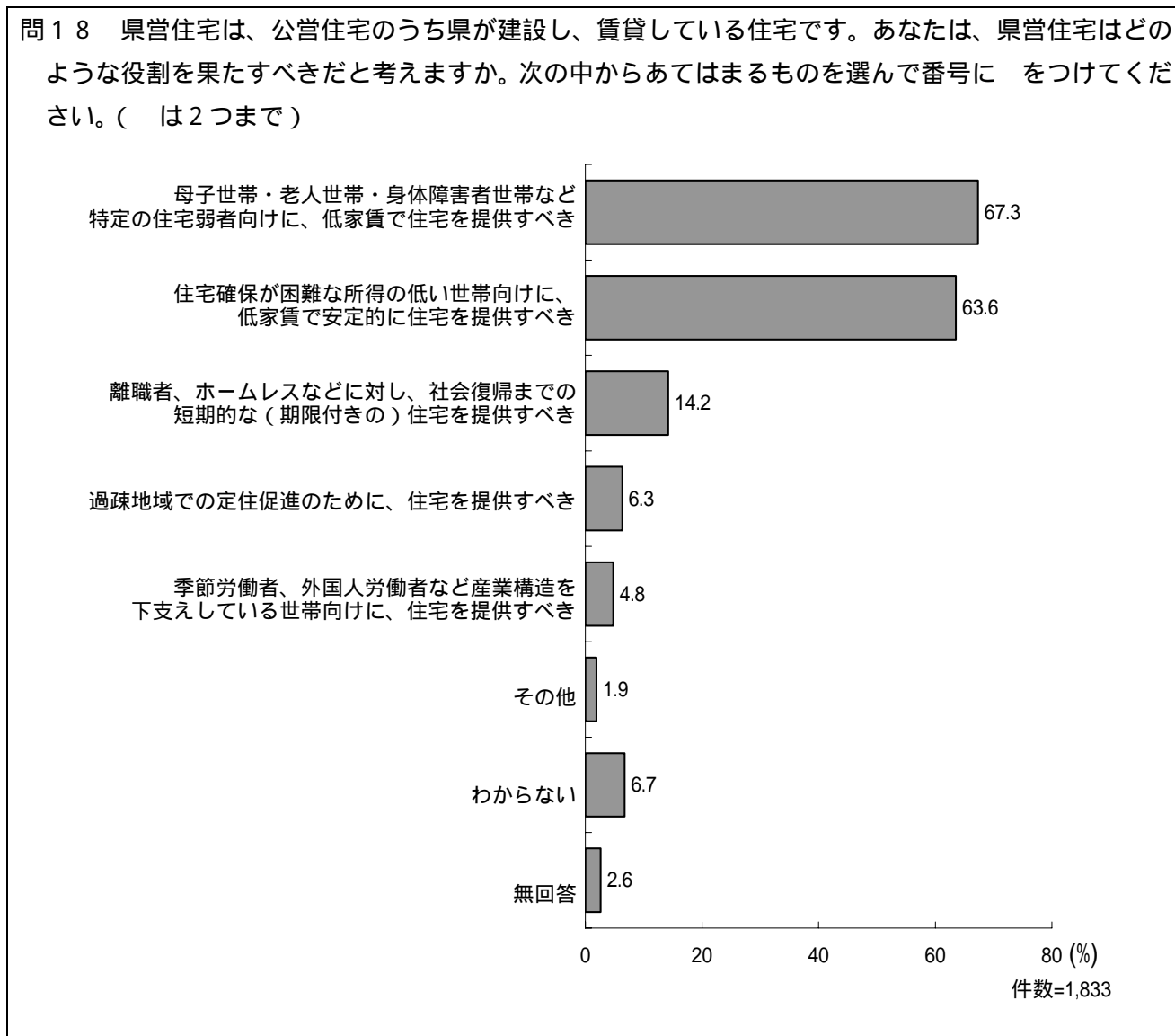
公営住宅に感じているイメージ（性別、年齢別、居住地域別、職業別）



性別	男性	27.8	28.0	15.6	5.1	18.5	5.0
	女性	28.4	27.3	12.1	5.9	22.3	4.1
年齢別	20～29歳	19.2	35.5	17.4	7.6	18.0	2.3
	30～39歳	25.9	33.4	14.8	6.6	15.2	4.1
	40～49歳	26.6	31.0	17.2	7.7	16.2	1.3
	50～59歳	30.5	27.1	15.6	3.4	19.9	3.4
	60～64歳	27.3	25.0	11.8	5.5	25.5	5.0
	65歳以上	31.6	20.7	9.4	4.7	25.4	8.2
地域別	名古屋地域	27.5	33.6	8.7	6.7	19.2	4.3
	尾張地域	30.2	25.8	11.3	6.3	22.5	4.0
	西三河地域	23.5	25.9	20.3	3.5	20.5	6.4
	東三河地域	29.9	20.3	24.6	3.7	17.6	3.7
職業別	自営業	32.0	20.4	14.4	3.9	22.1	7.2
	勤め人	27.1	30.1	16.9	5.8	16.6	3.4
	無職	28.1	26.6	9.7	5.3	25.7	4.6

(2) 県営住宅の役割として期待するもの

「母子世帯・老人世帯・身体障害者世帯など特定の住宅弱者向けに、低家賃で住宅を提供すべき」
が67%



県営住宅の果たすべき役割をたずねたところ、「母子世帯・老人世帯・身体障害者世帯など特定の住宅弱者向けに、低家賃で住宅を提供すべき」(67.3%)が最も高く、次いで「住宅確保が困難な所得の低い世帯向けに、低家賃で安定的に住宅を提供すべき」(63.6%)、「離職者、ホームレスなどに対し、社会復帰までの短期的な(期限付きの)住宅を提供すべき」(14.2%)の順になっている。

性別でみると、大きな差異はみられない。

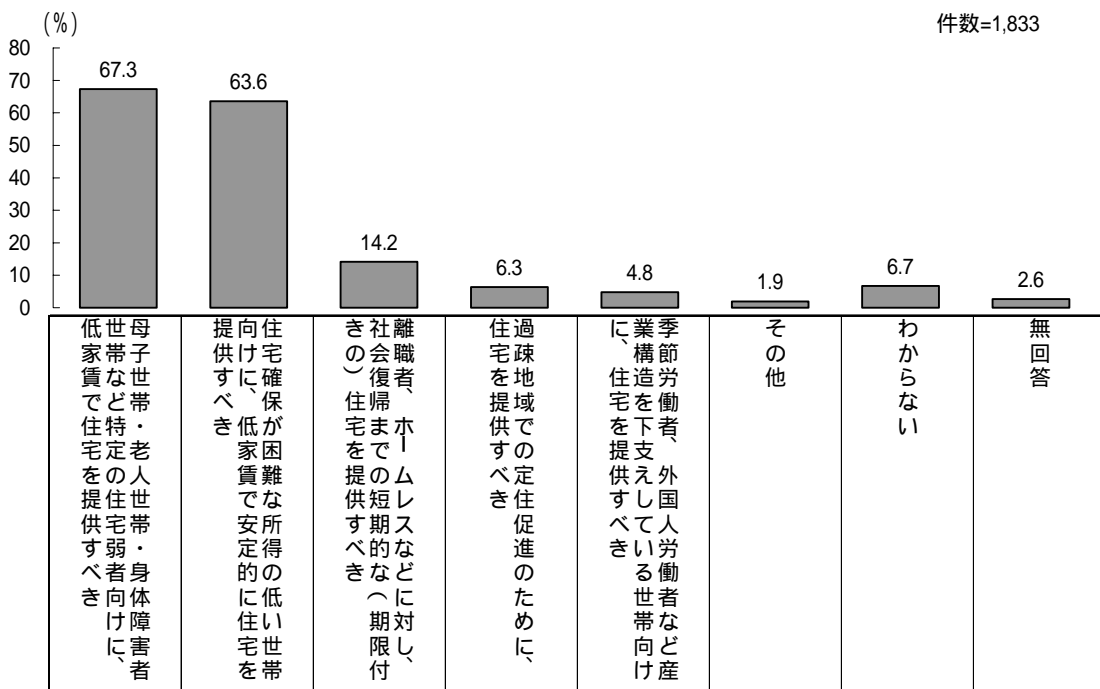
年齢別でみると、「母子世帯・老人世帯・身体障害者世帯など特定の住宅弱者向けに、低家賃で住宅を提供すべき」と答えた人の割合は、30代で76.6%、「離職者、ホームレスなどに対し、社会復帰までの短期的な（期限付きの）住宅を提供すべき」と答えた人の割合は、20代で20.9%と高くなっている。

居住地域別でみると、「離職者、ホームレスなどに対し、社会復帰までの短期的な（期限付きの）住宅を提供すべき」と答えた人の割合は、東三河地域で19.8%と高くなっている。

職業別でみると、大きな差異はみられない。

県営住宅の役割として期待するもの（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

件数=1,833

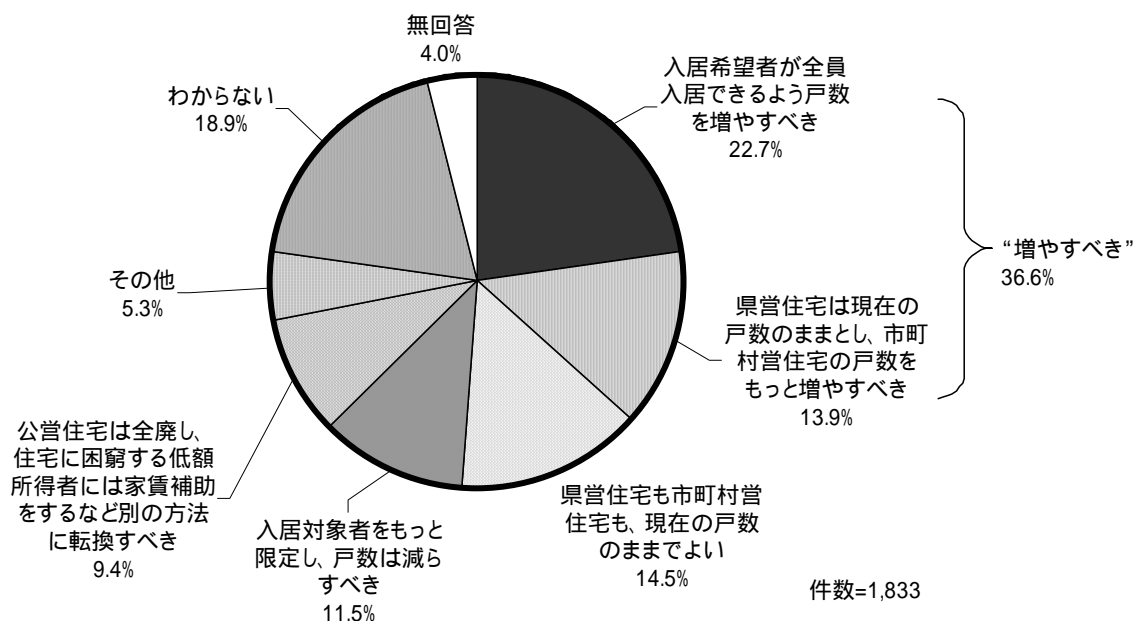


性別	男性	68.0	63.2	14.5	6.6	5.1	2.4	5.6	2.4
女性	66.9	64.2	14.1	6.2	4.6	1.5	7.6	2.2	
年齢別	20～29歳	65.1	66.9	20.9	7.0	6.4	4.1	3.5	1.2
	30～39歳	76.6	67.2	11.0	7.6	2.8	1.0	2.8	1.7
	40～49歳	73.1	65.3	15.8	4.7	3.7	1.7	5.1	1.0
	50～59歳	63.9	67.6	15.3	5.0	5.9	2.5	5.6	2.2
	60～64歳	68.6	62.7	9.5	8.2	4.5	0.9	7.7	2.3
	65歳以上	61.3	57.6	14.3	6.4	5.7	2.0	11.3	4.3
地域別	名古屋地域	69.1	65.1	10.3	6.7	3.8	1.3	5.6	2.7
	尾張地域	67.8	62.5	15.0	6.6	5.4	2.7	7.3	2.3
	西三河地域	67.7	64.5	15.7	5.6	4.8	0.8	6.4	2.9
	東三河地域	61.0	63.6	19.8	5.9	5.9	2.7	8.0	1.1
職業別	自営業	68.5	59.7	12.7	5.5	6.6	1.7	6.1	4.4
	勤め人	70.6	65.3	14.5	6.4	4.8	1.6	4.9	1.9
	無職	63.7	63.4	15.1	6.4	4.6	2.2	8.9	2.1

(3) 公営住宅の戸数に対する要望

「増やすべき」が 37%

問 1 9 公営住宅は、現在、県内に県営住宅が約 6 万戸、市町村営住宅が約 8 万戸あり、適宜、入居募集をしていますが、非常に人気が高く、常に 10 倍以上の応募倍率となっています。あなたは、公営住宅の戸数を今後増やすべきと考えますか。次の中からあてはまるものを選んで番号にをつけてください。(は 1 つ)



公営住宅の戸数を増やすべきかたずねたところ、「増やすべき」(「入居希望者が全員入居できるよう戸数を増やすべき」22.7% + 「県営住宅は現在の戸数のままとし、市町村営住宅の戸数をもっと増やすべき」13.9%) と答えた人の割合は 36.6% になっている。

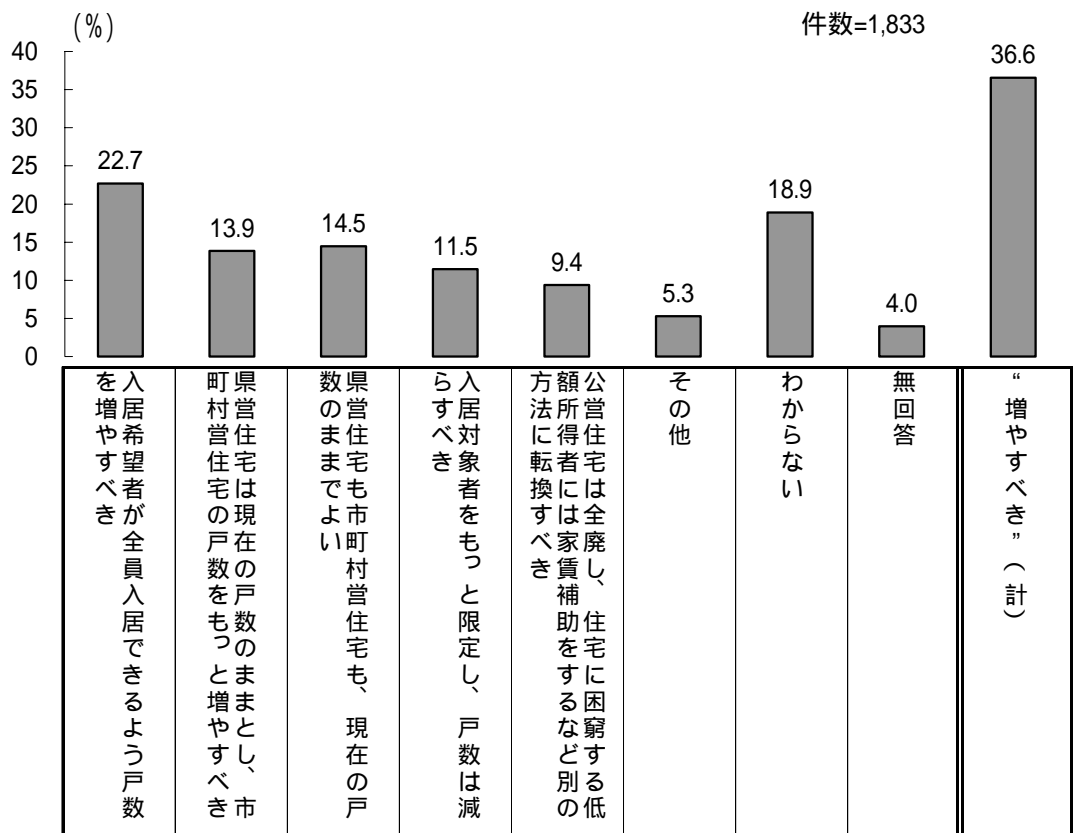
性別でみると、“増やすべき”と答えた人の割合は、女性（34.6%）より男性（39.1%）で4.5ポイント高くなっている。

年齢別でみると“増やすべき”と答えた人の割合は、20代（39.5%）と65歳以上（40.0%）で高くなっている。

居住地域別でみると、「入居希望者が全員入居できるよう戸数を増やすべき」と答えた人の割合は、名古屋地域で27.1%と高くなっている。

職業別でみると、「入居希望者が全員入居できるよう戸数を増やすべき」と答えた人の割合は、自営業で17.7%と低くなっている。

公営住宅の戸数に対する要望（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

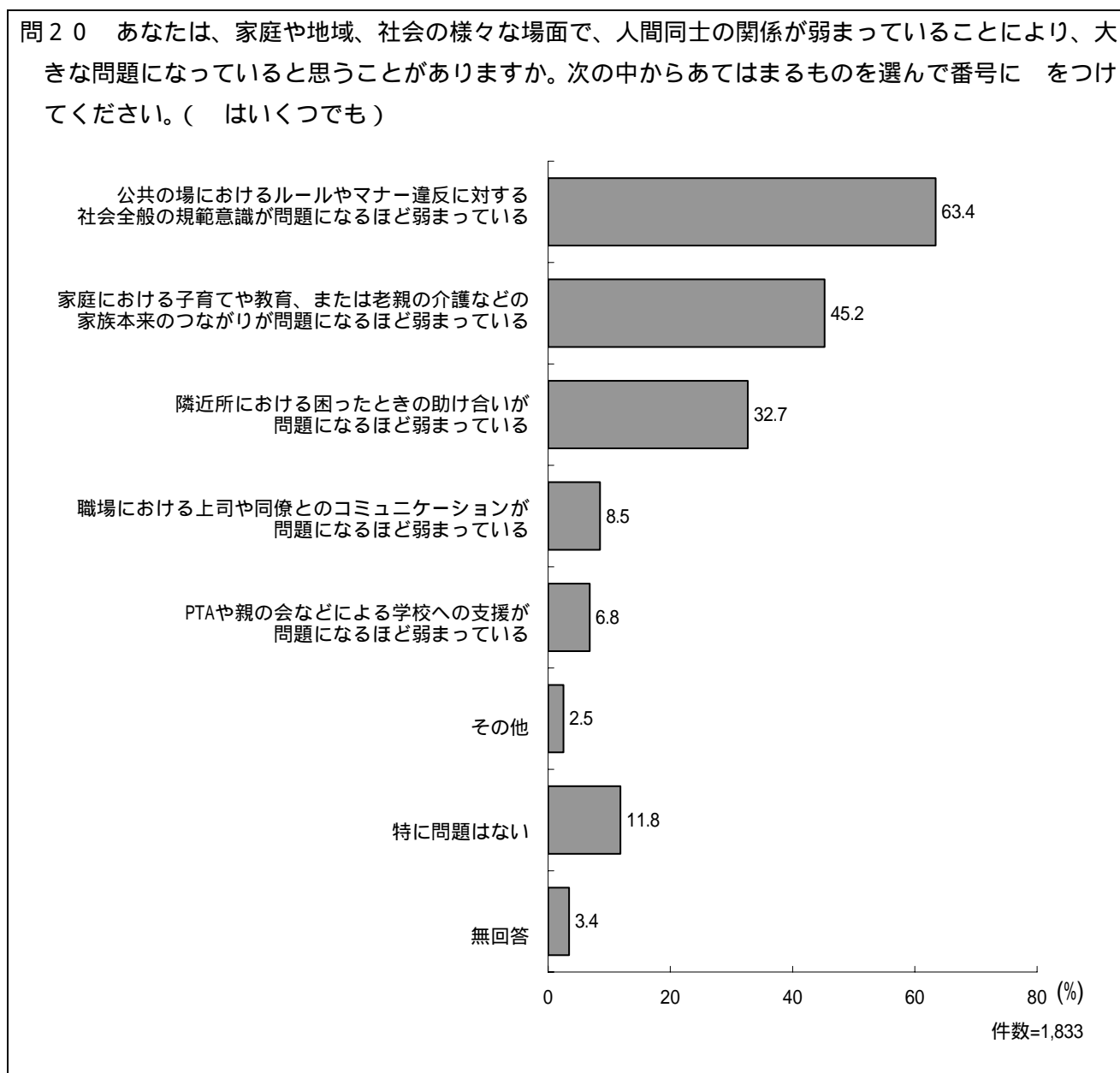


性別	割合 (%)									
	を 入 居 希 望 者 が 全 員 入 居 で き る よ う 戸 数 を 増 や す べ き	町 営 住 宅 は 現 在 の 戸 数 を も つ と 増 や す べ き	市 営 住 宅 も 現 在 の 戸 数 を も つ と 増 や す べ き	入 居 対 象 者 を も つ と 限 定 し 、 戸 数 は 減 ら す べ き	公 営 住 宅 は 全 廃 し 、 住 宅 に 困 窮 す る 低 得 者 に は 家 賃 補 助 を す る な ど の 他 の 方 法 に 転 換 す べ き	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	“ 増 や す べ き ” （ 計 ）	
性別	男性	24.0	15.2	14.4	13.8	9.9	5.9	13.0	3.9	39.1
	女性	21.7	12.9	14.6	9.8	9.1	4.7	23.8	3.5	34.6
年齢別	20～29歳	27.9	11.6	12.8	9.9	11.6	7.0	18.0	1.2	39.5
	30～39歳	25.5	8.3	15.2	12.8	11.7	5.9	19.0	1.7	33.8
	40～49歳	20.5	13.8	15.2	15.2	8.1	7.7	17.8	1.7	34.3
	50～59歳	24.0	12.1	13.7	12.5	11.2	5.9	17.1	3.4	36.1
	60～64歳	17.7	15.9	17.7	11.4	10.0	5.0	19.1	3.2	33.6
	65歳以上	21.9	18.2	13.5	9.0	6.6	2.5	20.9	7.4	40.0
地域別	名古屋地域	27.1	12.3	13.2	9.8	9.0	5.4	18.3	4.9	39.4
	尾張地域	20.9	13.5	15.4	14.1	9.0	4.8	19.2	3.0	34.5
	西三河地域	21.3	16.3	14.9	8.5	9.1	6.1	19.5	4.3	37.6
	東三河地域	19.8	16.0	15.0	12.8	11.8	4.8	17.6	2.1	35.8
職業別	自営業	17.7	14.4	15.5	17.1	9.9	5.0	14.9	5.5	32.0
	勤め人	23.6	14.1	15.5	12.4	10.2	6.1	15.2	2.9	37.7
	無職	22.5	13.6	13.1	9.0	8.4	5.2	25.0	3.2	36.0

7 愛知の将来方向

(1) 人間同士の関係が弱まっていることにより、大きな問題になっていると思うこと

「公共の場におけるルールやマナー違反に対する社会全般の規範意識が問題になるほど弱まっている」が63%



人間同士の関係が弱まっていることにより、大きな問題になっていることをたずねたところ、「公共の場におけるルールやマナー違反に対する社会全般の規範意識が問題になるほど弱まっている（以下「社会全般の規範意識」という。）」（63.4%）が最も高く、次いで「家庭における子育てや教育、または老親の介護など家族本来のつながりが問題になるほど弱まっている（以下「家族本来のつながり」という。）」（45.2%）、「隣近所における困ったときの助け合いが問題になるほど弱まっている（以下「隣近所の助け合い」という。）」（32.7%）となっている。

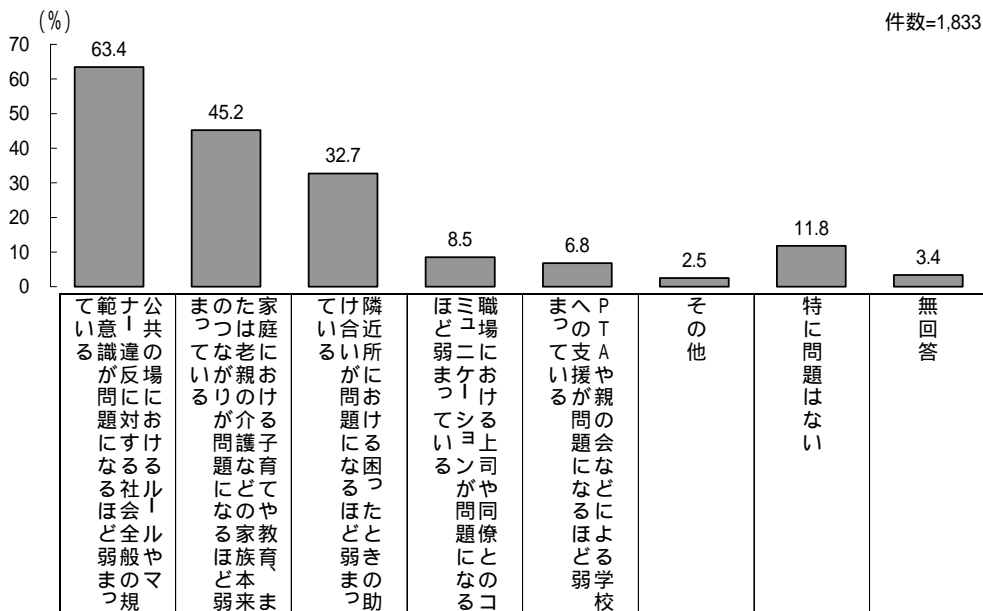
性別でみると、大きな差異はみられない。

年齢別にみると、「社会全般の規範意識」と答えた人の割合は、50代（72.0%）で高く、65歳以上（55.5%）で低くなっている。また、「家族本来のつながり」と答えた人の割合は、60～64歳（55.9%）で高く、20代（36.0%）で低くなっている。さらに、「職場における上司や同僚とのコミュニケーションが問題になるほど弱まっている」と答えた人の割合は、20代で13.4%と高くなっている。

居住地域別でみると、「隣近所の助け合い」と答えた人の割合は、名古屋地域で37.3%と高くなっている。

職業別でみると、「社会全般の規範意識」と答えた人の割合は、勤め人で68.1%、「家族本来のつながり」と答えた人の割合は、自営業で50.3%と高くなっている。

人間同士の関係が弱まっていることにより、大きな問題になっていると思うこと（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

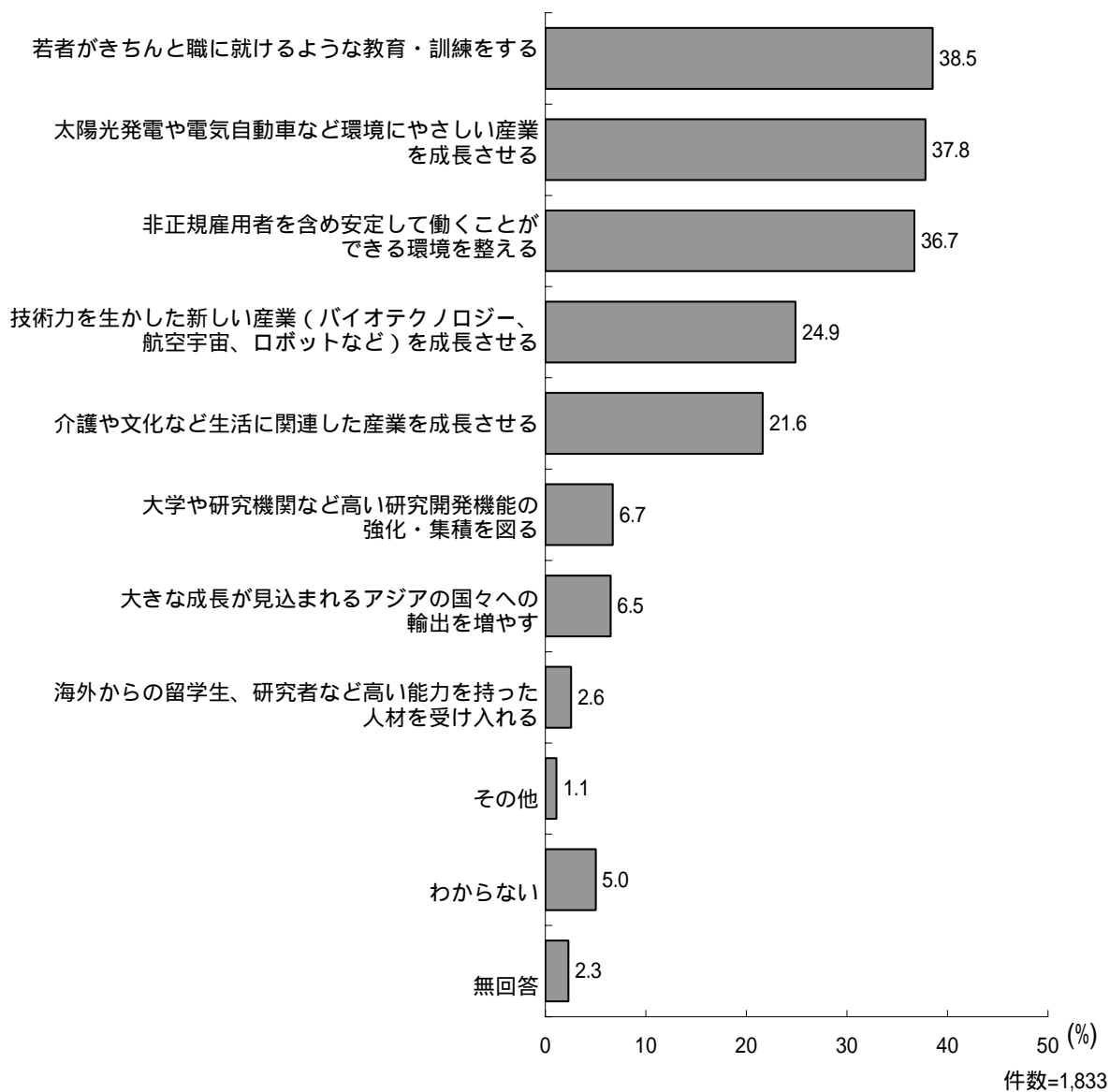


性別	問題の種類								
	社会全般の規範意識	家族本来のつながり	隣近所が問題になるほど弱まっている	ミニマムなコミュニケーション	職場における上司や同僚とのコミュニケーション	その他	特に問題はない	無回答	
男性	66.0	45.2	33.7	9.4	7.7	2.7	11.2	1.6	
女性	62.7	46.3	32.5	8.0	6.3	2.4	12.7	2.6	
年齢別	20～29歳	64.5	36.0	37.8	13.4	9.9	2.9	14.5	0.6
	30～39歳	65.2	37.9	34.1	11.4	5.5	2.1	11.0	1.0
	40～49歳	68.0	38.4	27.9	10.4	11.1	2.0	11.1	1.0
	50～59歳	72.0	48.9	28.3	6.5	2.5	3.1	7.8	1.6
	60～64歳	65.0	55.9	33.6	7.7	8.6	1.4	10.9	0.9
	65歳以上	55.5	51.2	36.3	6.1	6.3	3.1	15.2	5.9
地域別	名古屋地域	65.8	43.9	37.3	7.2	7.1	1.8	10.8	2.9
	尾張地域	63.1	44.0	29.8	8.5	6.8	3.4	13.1	2.8
	西三河地域	63.2	49.9	33.1	9.9	6.7	2.1	10.9	2.4
	東三河地域	61.5	46.5	29.9	10.2	7.0	2.1	11.8	4.8
職業別	自営業	64.6	50.3	29.8	6.6	7.7	3.3	12.2	3.3
	勤め人	68.1	42.6	33.4	11.6	7.5	2.5	9.3	2.0
	無職	58.9	47.9	32.8	6.4	6.2	2.4	14.3	4.4

(2) 愛知県の産業の活力を維持するために必要なこと

「若者がきちんと職に就けるような教育・訓練をする」が39%

問2-1 愛知県の産業の活力を維持するために必要なことは何だと思えますか。次の中からあてはまるものを選んで番号にをつけてください。(は2つまで)



産業の活力を維持するために必要なことをたずねたところ、「若者がきちんと職に就けるような教育・訓練をする」(38.5%)が最も高く、次いで「太陽光発電や電気自動車など環境にやさしい産業を成長させる」(37.8%)、「非正規雇用者を含め安定して働くことができる環境を整える」(36.7%)の順になっている。

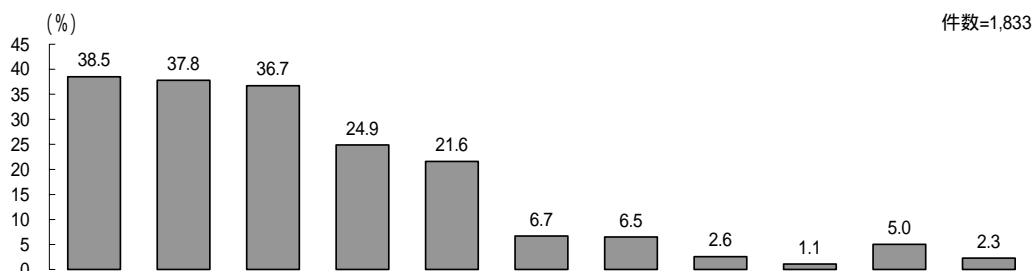
性別でみると、女性は「若者がきちんと職に就けるような教育・訓練をする」(43.4%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「非正規雇用者を含め安定して働くことができる環境を整える」(41.7%)が高くなっている。一方、男性は「太陽光発電や電気自動車など環境にやさしい産業を成長させる」(42.8%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「技術力を生かした新しい産業(バイオテクノロジー、航空宇宙、ロボットなど)を成長させる」(33.6%)が高くなっている。

年齢別でみると、「若者がきちんと職に就けるような教育・訓練をする」と答えた人の割合は、60～64歳で44.1%、「太陽光発電や電気自動車など環境にやさしい産業を成長させる」と答えた人の割合は、20代で53.5%と高くなっている。

居住地域別でみると、「太陽光発電や電気自動車など環境にやさしい産業を成長させる」と答えた人の割合は、西三河地域(42.7%)で高く、「非正規雇用者を含め安定して働くことができる環境を整える」と答えた人の割合は、東三河地域(40.1%)で高くなっている。

職業別でみると、「若者がきちんと職に就けるような教育・訓練をする」と答えた人の割合は、無職(42.1%)で高く、「太陽光発電や電気自動車など環境にやさしい産業を成長させる」と答えた人の割合は、勤め人(42.9%)で高くなっている。

愛知県の産業の活力を維持するために必要なこと(性別、年齢別、居住地域別、職業別)

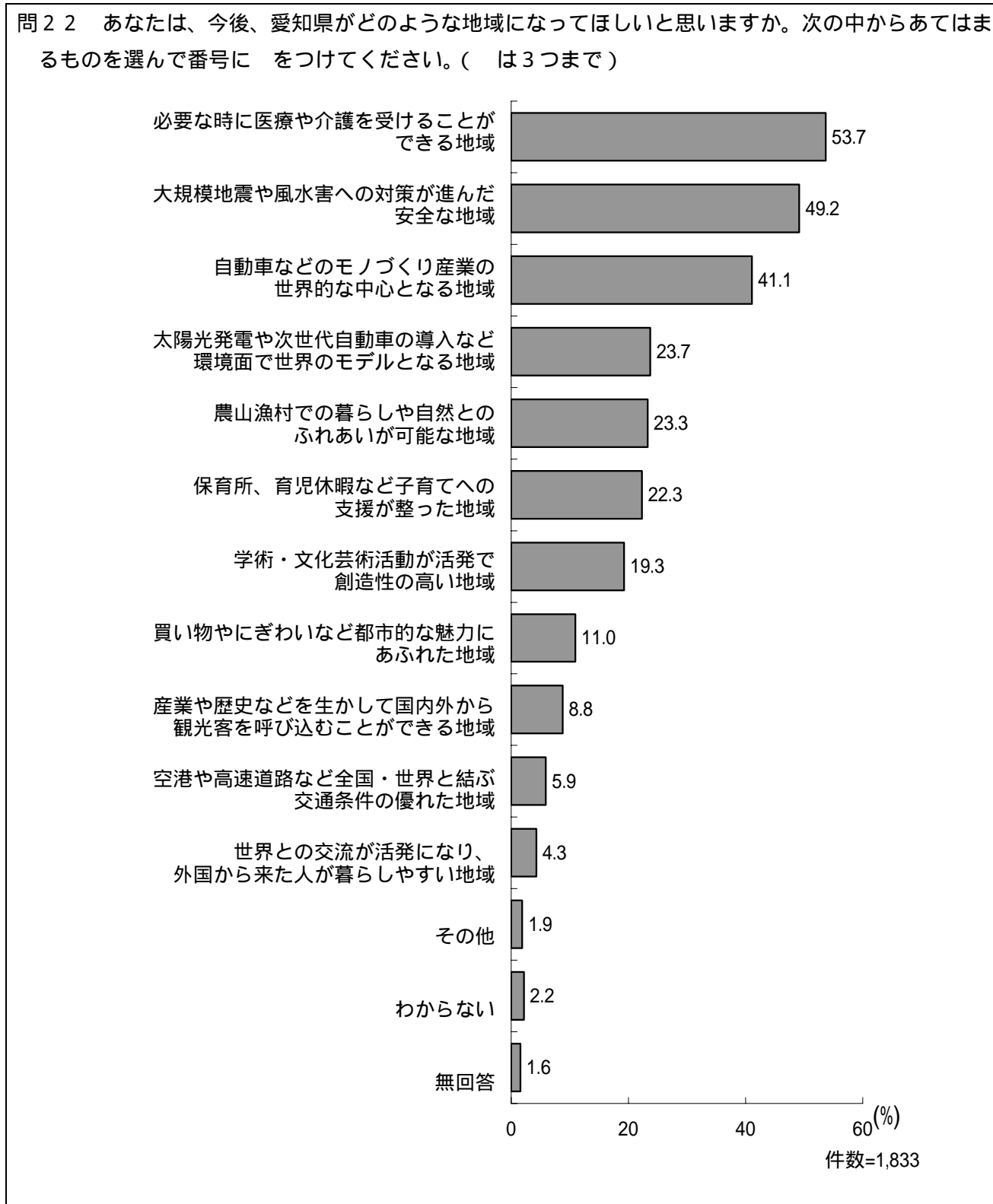


件数=1,833

		若者がきちんと職に就けるような教育・訓練をする	太陽光発電や電気自動車など環境にやさしい産業を成長させる	非正規雇用者を含め安定して働くことができる環境を整える	バイオテクノロジー、航空宇宙、ロボットなどを成長させる	介護や文化など生活に関連した産業を成長させる	大学の研究機関など高い研究開発機能の強化・集積を図る	大きな成長が見込まれるアジアの国々への輸出を増やす	海外からの留学生、研究者など高い能力を持つ人材を受け入れる	その他	わからない	無回答
性別	男性	33.5	42.8	31.9	33.6	18.3	8.8	9.9	3.1	1.1	2.9	0.5
	女性	43.4	34.6	41.7	18.2	24.7	5.2	3.8	2.2	1.1	6.8	1.6
年齢別	20～29歳	33.7	53.5	33.1	28.5	20.3	4.1	5.2	2.3	1.2	2.3	1.2
	30～39歳	36.2	43.1	38.3	23.4	22.1	6.9	4.1	3.8	1.4	5.2	0.3
	40～49歳	38.0	38.4	41.4	24.9	21.2	6.1	5.7	1.7	1.0	3.7	0.3
	50～59歳	36.4	39.9	40.5	26.8	21.8	7.5	4.4	2.2	1.9	4.4	1.2
	60～64歳	44.1	32.3	37.3	24.5	26.4	4.5	8.6	2.7	0.5	3.6	0.5
	65歳以上	42.2	31.6	33.0	24.0	20.7	8.6	9.4	2.7	0.8	7.8	2.7
地域別	名古屋地域	36.3	39.2	33.3	28.4	22.2	6.5	6.5	2.7	1.1	4.5	2.2
	尾張地域	40.7	34.8	38.5	23.6	21.7	6.1	7.8	2.8	1.1	5.1	1.6
	西三河地域	37.6	42.7	37.9	23.5	22.1	8.0	4.8	2.4	0.8	5.1	2.1
	東三河地域	40.6	36.9	40.1	22.5	19.8	7.5	4.8	1.6	1.6	5.9	1.1
職業別	自営業	40.9	35.9	37.6	24.9	23.2	4.4	6.1	2.2	1.1	4.4	2.2
	勤め人	34.9	42.9	38.4	27.5	20.8	7.2	5.8	2.6	1.2	2.7	1.4
	無職	42.1	32.8	35.7	23.6	22.7	7.4	6.4	2.4	1.2	7.2	2.8

(3) 望ましいと思う愛知県の姿

「必要な時に医療や介護を受けることができる地域」が54%



愛知県がどのような地域になってほしいかをたずねたところ、「必要な時に医療や介護を受けることができる地域」(53.7%)が最も高く、次いで「大規模地震や風水害への対策が進んだ安全な地域」(49.2%)、「自動車などのモノづくり産業の世界的な中心となる地域」(41.1%)の順になっている。

性別でみると、「必要な時に医療や介護を受けることができる地域」、「大規模地震や風水害への対策が進んだ安全な地域」と答えた人の割合は、男性より女性で13ポイント以上高く、「太陽光発電や次世代自動車の導入など環境面で世界のモデルとなる地域」と答えた人の割合は、女性より男性で12.8ポイント高くなっている。

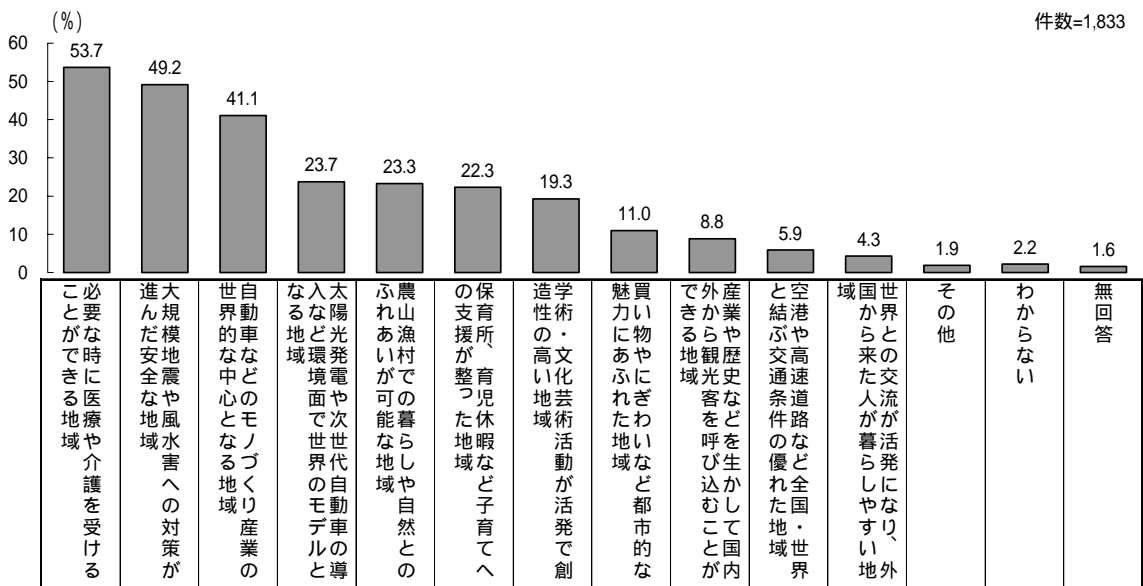
年齢別にみると、「必要な時に医療や介護を受けることができる地域」と答えた人の割合は、50代で62.0%、「大規模地震や風水害への対策が進んだ安全な地域」と答えた人の割合は、65歳以上で59.6%、「保育所、育児休暇など子育てへの支援が整った地域」と答えた人の割合は、30代で39.7%と高くなっている。

居住地域別でみると、「自動車などのモノづくり産業の世界的な中心となる地域」と答えた人の割合は、西三河地域（46.4%）で高く、「農山漁村での暮らしや自然とのふれあいが可能な地域」と答えた人の割合は、東三河地域（33.7%）で高くなっている。

職業別でみると、「太陽光発電や次世代自動車の導入など環境面で世界のモデルとなる地域」と答えた人の割合は、勤め人で29.7%、「農山漁村での暮らしや自然とのふれあいが可能な地域」と答えた人の割合は、自営業で30.9%と高くなっている。

望ましいと思う愛知県の姿（性別、年齢別、居住地域別、職業別）

件数=1,833



性別	男性	女性	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	名古屋地域	尾張地域	西三河地域	東三河地域	自営業	勤め人	無職
男性	47.3	60.3	39.5	47.2	58.6	62.0	57.7	54.3	54.1	54.3	50.7	59.4	58.6	51.5	55.8
女性	42.2	56.0	43.0	37.2	47.5	51.7	48.6	59.6	51.2	49.3	48.8	46.5	49.2	43.7	53.9
20～29歳	46.8	37.3	46.5	40.3	41.1	39.6	42.7	41.4	38.5	43.3	46.4	32.1	38.7	43.9	38.7
30～39歳	31.1	18.3	30.8	26.9	27.6	27.1	22.3	16.6	22.6	23.5	26.4	24.1	19.3	29.7	19.2
40～49歳	24.3	22.8	17.4	22.1	18.5	23.7	24.5	28.9	18.4	21.7	29.1	33.7	30.9	20.9	22.9
50～59歳	19.2	25.4	37.2	39.7	22.2	17.4	16.8	13.9	23.9	22.2	19.5	24.1	18.2	25.4	21.1
60～64歳	19.8	19.3	16.3	15.5	17.8	20.2	22.3	22.1	23.0	18.4	18.4	14.4	19.3	17.2	22.9
65歳以上	11.7	10.7	18.6	15.2	12.5	6.9	9.5	8.8	13.6	10.5	8.5	10.2	8.8	11.8	10.3
名古屋地域	9.9	8.1	5.8	10.3	7.4	10.0	9.1	9.2	9.4	9.1	9.1	5.9	10.5	9.5	7.7
尾張地域	8.3	4.1	8.1	6.2	8.4	4.0	5.5	5.1	5.6	6.4	5.9	5.3	8.8	6.2	5.3
西三河地域	5.3	3.6	5.2	3.4	3.7	5.0	4.5	4.5	4.9	4.3	3.7	4.3	5.0	5.6	2.8
東三河地域	2.0	1.8	1.7	4.8	1.3	2.2	0.0	1.2	2.2	2.0	1.6	1.1	1.7	1.9	1.9
自営業	1.8	2.4	1.7	1.0	1.0	1.6	1.8	4.3	1.8	2.1	1.6	3.7	0.0	1.1	3.4
勤め人	0.2	0.6	0.0	0.3	0.3	0.0	0.5	1.2	0.7	1.1	1.9	0.5	2.2	1.2	1.3
無職															